静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第57集

牛岡遺跡 II

平成６年度日坂バイパス埋蔵文化財
発掘調査報告書

1995

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第57集

牛岡遺跡 II

下記の箇所に誤りがありましたので、訂正くださいますようお願いいたします。

正　誤　表

	誤	正
25頁下から13行目	北浦ＣＩ式	北裏ＣＩ式
〃　15行目	〃	〃
〃　16行目	〃	〃

実測図NO. 10

実測図NO. 19

序

当研究所は、掛川市内において、これまでに原川遺跡・領家遺跡・梅橋北遺跡の発掘調査を手懸けてきた。各遺跡は市内西部に位置し、弥生時代から中・近世に至る複合遺跡であることが明らかになり、各時代の良好な資料を得ることができた。特に原川遺跡と梅橋北遺跡は、隣接する袋井市坂尻遺跡と共に律令期の地方官衙の一部を形成したものと推定され、注目を集めた。その成果については、順次報告がなされてきたところである。

これらの調査に続いて、今回は市内東部の八坂・日坂地域において調査を行うことになった。一般国道1号日坂バイパス関連の発掘調査は、平成元年度から開始し、平成5年度までに頭地遺跡・牛岡遺跡・向畑遺跡・社宮寺遺跡・清水遺跡・水井遺跡の調査を実施している。各遺跡からは、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が多数検出されている。牛岡遺跡の上層からは、奈良時代から江戸時代にかけての掘立柱建物跡を中心とする集落跡が検出され、下層の一部からは、縄文時代中期を中心とする遺物包含層が確認された。上層の集落跡の調査は、『牛岡遺跡Ⅰ』で報告したように、当地域の当時の村落の状況を知る上で、貴重な資料となるものと思われる。今回の『牛岡遺跡Ⅱ』は、下層から出土した縄文時代の遺物を対象とした調査報告書である。出土した縄文土器は中期後半を中心とするもので、保存状態がきわめて良好で、量も多い。遺構こそ検出されなかったが、これだけ良好な土器資料はこの地域でも少なく、東西各地の影響を受けた土器が混在するなど、当地域の縄文時代の動向を知る貴重な手がかりとなろう。

遺跡の分布調査によれば、この地域には縄文時代から各時代にわたっていくつかの遺跡が営まれているが、この地域での発掘調査は従来実施されたことがなく、遺跡の実態はほとんど明らかにされていない。今回実施した6遺跡の発掘調査成果が、当地域の歴史研究の一助となれば幸いである。

発掘調査ならびに本書の作成に、深いご理解とご協力をいただいた建設省中部地方建設局浜松国道工事事務所、静岡県教育委員会、掛川市教育委員会をはじめとする関係機関及び多くの関係者並びに調査を暖かく見守っていただいた地元の皆様に心から感謝と敬意を表したい。また、寒暑にめげず発掘調査や整理作業に参加された多くの方々の苦労をねぎらいたい。

1995年3月

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
所長　斎藤　忠

例　言

1．　本書は静岡県掛川市八坂に所在する牛岡遺跡の発掘調査報告書の第２分冊である。第１分冊「牛岡遺跡Ⅰ」では上層の奈良から江戸時代にかけての遺構・遺物について報告した。本書「牛岡遺跡Ⅱ」では下層の縄文時代の遺物を中心に報告する。

2．　調査は「一般国道１号日坂バイパス埋蔵文化財発掘調査業務」として、建設省中部地方建設局の委託を受け、静岡県教育委員会の指導の下、掛川市教育委員会の協力を得て、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

3．　調査体制は次のとおりである。

現地調査

平成元年度	所長斎藤忠	常務理事亀山千鶴男　調査研究部長山下晃
	調査研究第一課長平野吾郎	調査研究員篠原修二
	掛川市教育委員会学芸員戸塚和美	
平成２年度	所長斎藤忠	常務理事亀山千鶴男　調査研究部長山下晃
	調査研究第一課長平野吾郎	調査研究員篠原修二　内藤朝雄　鈴木正悟
平成３年度	所長斎藤忠	常務理事鈴木勲　調査研究部長山下晃　調査研究部次長平野吾郎
	調査研究員篠原修二	鈴木正悟

整理報告

平成６年度	所長斎藤忠	常務理事鈴木勲　調査研究部長小崎章男
	調査研究第二課長佐野五十三	調査研究員篠原修二

4．　本書の執筆はすべて調査研究員篠原修二が担当した。

5．　遺跡の地質・地形等については、加藤芳朗氏（静岡大学名誉教授）にご教示をいただいた。

6．　出土木材の樹種鑑定については、山内文氏に依頼し、ご報告を第Ⅳ章第１節に掲載した。

7．　発掘調査および資料整理にあたっては、長田寛氏、市原壽文氏、向坂鋼二氏、加藤賢二氏にご指導、ご教示をいただいた。

8．　平成元年度および平成２年度に概報を提出している。各概報と本書の記述に差がある場合、本書の記述を以て報告とする。

9．　本書の編集は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が当たった。

10．　発掘調査資料は、全て財団法人埋蔵文化財調査研究所が保管している。

目　　次

序
例　言
目　次

第Ⅰ章　調査の経過 …… 1

第1節　調査に至る経過 …… 1
第2節　調査の方法 …… 1
第3節　発掘調査の経過 …… 2

第Ⅱ章　位置と環境 …… 4

第Ⅲ章　調査の内容 …… 7

第1節　調査の概要 …… 7
第2節　基本土層 …… 7
第3節　自然流路跡 …… 13
第4節　出土流木 …… 14
第5節　出土遺物 …… 15

第Ⅳ章　まとめ …… 24

第1節　出土流木の樹種について …… 24
第2節　出土土器の型式とその編年について …… 25
第3節　おわりに …… 26

挿図目次

第1図　調査区及びグリッド配置図 …… 2
第2図　3・4区試掘坑土層概略図 …… 3
第3図　遺跡周辺地形図 …… 4
第4図　周辺遺跡分布図 …… 5
第5図　調査区全体図（12層上面） …… 9・10
第6図　土層断面図 …… 11・12
第7図　流木出土状況断面図 …… 14
第8図　出土土器実測図（1） …… 29

第９図　出土土器実測図（２）…… 30
第10図　出土土器実測図（３）…… 31
第11図　出土土器実測図（４）…… 32
第12図　出土土器実測図（５）…… 33
第13図　出土土器実測図（６）…… 34
第14図　出土土器実測図（７）…… 35
第15図　出土土器実測図（８）…… 36
第16図　出土土器実測図（９）…… 37
第17図　出土土器実測図（10）…… 38
第18図　出土土器実測図（11）…… 39
第19図　出土土器実測図（12）…… 40
第20図　出土土器実測図（13）…… 41
第21図　出土土器実測図（14）…… 42
第22図　出土土器実測図（15）…… 43
第23図　出土土器実測図（16）…… 44
第24図　出土土器実測図（17）…… 45
第25図　出土土器実測図（18）…… 46
第26図　出土土器実測図（19）…… 47
第27図　出土土器実測図（20）…… 48
第28図　出土土器実測図（21）…… 49
第29図　出土土器実測図（22）…… 50
第30図　出土土器実測図（23）…… 51
第31図　出土土器実測図（24）…… 52
第32図　出土土器実測図（25）…… 53
第33図　出土土器実測図（26）…… 54
第34図　出土土器実測図（27）…… 55
第35図　出土土器実測図（28）…… 56
第36図　出土土器実測図（29）…… 57
第37図　出土石器実測図（１）…… 58
第38図　出土石器実測図（２）…… 59

挿表目次

表１　周辺遺跡地名表 …… 6
表２　樹種同定資料一覧 …… 25
表３　出土土器観察表 …… 60
表４　出土石器観察表 …… 76

図版目次

図版1　遺跡周辺環境1（空中写真）
図版2　遺跡周辺環境2（空中写真）
図版3　1．5区完掘状況（12層上面・西から）　2．5区完堀状況（12層上面・北から）
図版4　1．6区完掘状況（北西から）　2．6区完堀状況（東から）
図版5　1．5区F21グリッド土層断面　2．5区F22グリッド土層断面
3．5区F22グリッドSD－16土層断面
図版6　1．6区E24グリッド土層断面　2．6区E24グリッドSD－17土層断面
3．6区F24グリッド土層断面
図版7　1．土器出土状況（F24グリッド）　2．土器出土状況（F21グリッド）
3．土器出土状況（F24グリッド）　4．流木出土状況（№14）
5．流木出土状況（E24グリッド）
図版8　出土土器（1）　実測図番号　1～9
図版9　出土土器（2）　実測図番号　10～19
図版10　出土土器（3）　実測図番号　20～28
図版11　出土土器（4）　実測図番号　29～38
図版12　出土土器（5）　実測図番号　39～47
図版13　出土土器（6）　実測図番号　48～50・59・61・77・79・82・87・88・91
図版14　出土土器（7）　実測図番号　92～126
図版15　出土土器（8）　実測図番号　127～165・168
図版16　出土土器（9）　実測図番号　166・167・169～191・193
図版17　出土土器（10）　実測図番号　192・194～226・231
図版18　出土土器（11）　実測図番号　227～230・232～268
図版19　出土土器（12）　実測図番号　269～293
図版20　出土土器（13）　実測図番号　294～311
図版21　出土土器（14）　実測図番号　312～340
図版22　出土土器（15）　実測図番号　341～350
図版23　出土土器（16）　実測図番号　351～367
図版24　出土土器（17）　実測図番号　368～383・385
図版25　出土土器（18）　実測図番号　384・386～397
図版26　出土土器（19）　実測図番号　398～422
図版27　出土土器（20）　実測図番号　423～447・449
図版28　出土土器（21）　実測図番号　448・450～467
図版29　出土土器（22）　実測図番号　468～486
図版30　出土土器（23）　実測図番号　487～494・496
図版31　出土土器（24）　実測図番号　495・497～507・509・510
図版32　出土土器（25）　実測図番号　508・511～525・527
図版33　出土土器（26）　実測図番号　526・528～536・538～540

図版34　出土土器（27）　実測図番号　537・541～556・558
図版35　出土土器（28）　実測図番号　557・559～572
図版36　出土土器（29）　実測図番号　573～600
図版37　出土土器（30）　実測図番号　601～625
図版38　出土土器（31）　実測図番号　626～649
図版39　出土土器（32）　実測図番号　650～674
図版40　出土土器（33）　実測図番号　675～696
図版41　出土土器（34）　実測図番号　697～721
図版42　出土土器（35）　実測図番号　722～738
図版43　出土土器（36）　実測図番号　739～753
図版44　出土土器（37）　実測図番号　754～767
図版45　出土土器（38）　実測図番号　768～792
図版46　出土土器（39）　実測図番号　793～818
図版47　出土土器（40）　実測図番号　819～845
図版48　出土土器（41）　実測図番号　846～869
図版49　出土土器（42）　実測図番号　870～901
図版50　出土石器（1）　実測図番号　902～915
図版51　出土石器（2）　実測図番号　916～931

第Ⅰ章　調査の経過

第Ⅰ節　調査に至る経過

昭和44年の東名高速道路開通後も一般国道1号の交通量は増加し、交通混雑は著しくなる一方であった。このため各地域でバイパス建設が実施され、掛川市内でも昭和56年に掛川バイパスが開通し、平成元年には袋井バイパスが一部供用されている。これらの建設に伴い、これまで峯山遺跡・原川遺跡・領家遺跡などの発掘調査が行なわれてきた。

このような中で、掛川バイパスと金谷バイパスを結ぶ日坂バイパス建設工事は、昭和61年に都市計画決定がなされ、翌62年に本格的に事業化された。路線は掛川市八坂を起点に佐夜鹿までの総延長4.3kmである。この計画に伴い、掛川市教育委員会によって昭和62年11月から昭和63年2月にかけて、路線内における遺跡の分布調査が行なわれた。その結果、周知の遺跡である頭地遺跡を含め、工事着工前に現地調査を必要とする地点として13地点が取り上げられた。この分布調査の結果を受け、建設省浜松工事事務所・県教育委員会文化課・掛川市教育委員会によって協議がもたれ、(1)この13地点について現地調査を実施する。(2)調査は、遺跡の範囲及び性格等を把握するための第1次調査を実施し、その結果に基づいて第2次調査(平面調査)へ移行する。(3)発掘調査は(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所が当たる。(4)調査全般にわたる調整は静岡県教育委員会が、地元との調整については掛川市教育委員会及び掛川市都市計画課が当たる等の合意がなされた。その後、各関係機関によって実際の調査に向けて調整・協議が行なわれ、初年度である平成元年度は、掛川市教育委員会から発掘調査担当者1名の協力を得ることになった。

平成元年10月2日に調査委託契約が締結され、諸準備を経て11月から現地作業に着手した。平成元年度は頭地遺跡・牛岡遺跡・向畑遺跡の第1次調査と一部第2次調査を行い、平成2年度はこれら3遺跡の第2次調査と社宮寺遺跡の第1次調査、平成3年度は牛岡遺跡と社宮寺遺跡の第2次調査を実施し、平成3年度までに4遺跡の発掘調査を終了した。平成4・5年度には川田遺跡と日坂地区の6遺跡の第1次調査を実施し、その内遺構が確認された6地点日の清水遺跡の第2次調査を終了している。残り2遺跡の調査については、平成8年度以降実施していく予定となっている。

第2節　調査の方法

調査対象区域には、10m方眼のグリッドを設定した。グリッドは牛岡遺跡内のバイパスセンターラインのポイントNo.1190とNo.1185を結ぶ直線を主軸とし、No.1190から北東方向140m地点を社宮寺遺跡・向畑遺跡の起点とした。主軸線はN46°−24′−20″Eである。グリッド名は路線幅方向を南東からA・B・C・・・Ⅰ、延長方向を北東から1・2・3・・・25とし、例えばA上1が交差する区画をA1グリッドと呼ぶことにした。

調査は、第1次調査(確認調査)と第2次調査(平面調査)の2回に分けて実施した。第1次調査はグリッドに合わせて、幅1mのトレンチをほぼ10m間隔に桝目状に入れていった。掘削は全て手掘りで行い、土層や遺物の出土状況の観察を進めた。第1次調査の後、必要な範囲に対して第2次調査を実施した。表土除去は建設重機を使用し、包含層の発掘は手掘りで行った。調査区内には幅1m程の土層観察用の帯を桝目状に残し、遺物は土層を区分しながらグリッド毎に取り上げていった。検出した溝にはSDという記号を付した。後述の調査の概要の中でも、この記号を用いて記述している。

平面図及び土層図は縮尺1/20を基本とし、平面図はグリッド毎に割り付けた。写真撮影は6×7判(白黒)と35mm判(白黒・カラーリバーサル)を併用し、作業工程記録用として35mm判(カラーネガ)を使用し

た。全景等の撮影に当たっては、ローリングタワーを３段に組んで撮影した。

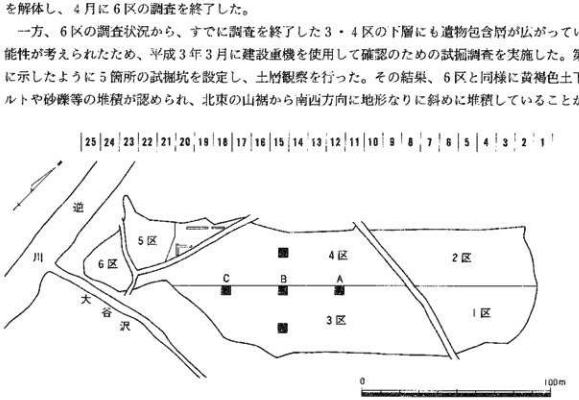
第３節　発掘調査の経過

日坂バイパス予定路線内の発掘調査は、平成元年度から開始した。10月から準備作業を進め、作業員の確保・プレハブの設置・グリッド杭の設置等調査区の基本設定を行い、11月から第１次調査を主とする現地調査に入った。牛岡遺跡の第１次調査は、平成元年度事業として平成元年12月に実施し、調査対象面積約12,000m²の内、約750m²の確認トレンチを入れた。その結果、黒褐色土あるいは黒灰色土を覆土とする小穴が確認され、表土及び覆土から山茶碗・中世陶器等が出土し、中心は平安時代末から鎌倉時代にかけての集落跡であろうと推測された。また、E24グリッド付近では、これら遺構の確認面である黄褐色土下層に縄文時代を中心とする遺物包含層が確認された。

この結果を受け、平成２年１月から第２次調査に入り、平成３年12月上旬まで他遺跡の調査と調整を取りながら断続的に実施した。調査区は調査の進捗状況にあわせて、便宜的に１～６区に分けた(第１図)。今回報告するのは、この５区と６区から確認された縄文時代を中心とする遺物包含層の調査である。調査は、『牛岡遺跡Ⅰ』で報告した上層遺構の調査あるいは同じ路線内で隣接する社宮寺遺跡の調査と併行して実施した。

平成２年11月に６区の表土除去を行い、12月から遺物包含層の発掘を開始した。当初、遺構の存在も考えられたため、上面黄褐色土を除去した段階で遺構確認を試みたが、遺構は認められなかった。そこで、幅１m程の土層観察用の帯を残し、土層を区分しながら発掘を進め、遺物はできるだけ層位毎に取り上げるように努めた。掘削深度は一部では約1.4mにおよび、暗灰色粘質シルト(12層)上面にて旧流路と考えられる溝ＳＤ－17が検出された。12層以下には、ほとんど土器が含まれていなかったことから、トレンチによる部分的な調査にとどめた。平成３年３月９日には地元住民を対象に現地説明会を開催し、出土した多数の縄文土器などを公開した。その後、土層断面図の作成や写真撮影を行い、残った土層帯を解体し、４月に６区の調査を終了した。

一方、６区の調査状況から、すでに調査を終了した３・４区の下層にも遺物包含層が広がっている可能性が考えられたため、平成３年３月に建設重機を使用して確認のための試掘調査を実施した。第１図に示したように５箇所の試掘坑を設定し、土層観察を行った。その結果、６区と同様に黄褐色土下にシルトや砂礫等の堆積が認められ、北東の山裾から南西方向に地形なりに斜めに堆積していることが確認

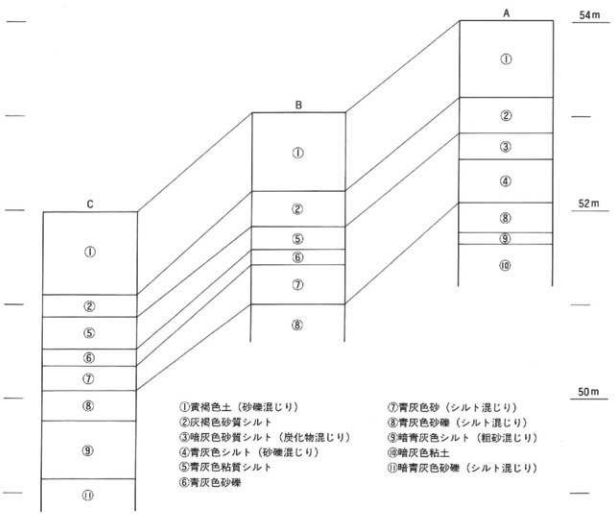


第１図　調査区及びグリット配置図

できた(第2図土層概略図)。しかし、試掘坑Aの3層と4層の上部から数点の土器が出土したに過ぎなかったことから、発掘調査の必要はないと判断した。

平成3年度には、5区の調査を開始した。4月に表土除去を行い、8月上旬までに上層遺構の調査を終了し、続いて遺物包含層の発掘を開始した。6区同様に土層帯を設定し、層位毎の発掘に努めた。10月下旬には11層までの発掘を終え、12層上面にて自然流路状の溝ＳＤ－16と6区のＳＤ－17へ続くと考えられる溝を検出した。その後、2区の調査が始まったため、併行しながら12層の発掘を進めた。12層を全体に30cm程掘り下げ、さらに下層の遺物の有無を確認するためにトレンチを設定し、深掘りを行った。下層の14層から若干土器が出土したものの、12層下からの出土量はきわめて微量であり、この段階で発掘を終えることにした。12月5日までに土層断面図の作成や土層帯の解体を行い、5区の現地調査を終了し、全調査区の埋め戻し作業を行って、12月20日に牛岡遺跡の調査をすべて完了した。5区と6区の第2次調査実施面積は、最終的に約900m²となった。

5区　発掘状況



第2図　3・4区試掘坑土層概略図

第II章　位置と環境

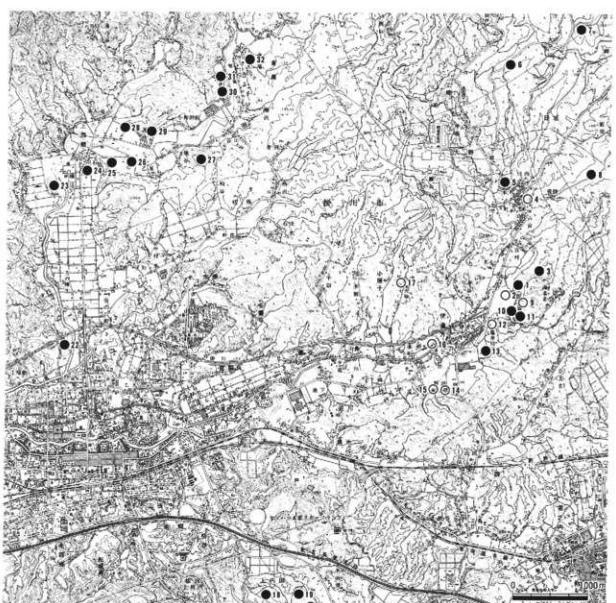
牛岡遺跡は、掛川市東端の逆川上流域に位置する。逆川は掛川市北東端の粟ヶ岳に源を発し、蛇行しながら南流して東山口付近で進路を西に変え、市街地を貫けて袋井市東端で原野谷川と合流する。支流の水を集めて川幅は徐々に広がり、東山口付近から比較的開けた沖積平野を形成して行く。両岸には、掛川層群と相良層群からなる標高100～200m 程の山々が連なる。遺跡の所在する八坂付近でも、低位段丘と谷底平野からなる平地が見られるが、周りを丘陵によって囲まれる。現在、平地部分は水田が営まれ、丘陵地は山林を開墾して多くの茶園が造られている。周囲の丘陵は浸食が進み、掌状の尾根型地形をなし、大小の谷が入り組んでいる。当遺跡は、こうした谷の入り口の低位段丘上に立地する。遺跡は東西を逆川と通称大谷沢と呼ばれる谷に挟まれ、大谷沢は遺跡南側で逆川に合流する。標高は45～60m 程で、北東から南西に向かって緩やかに傾斜する。現況はほとんどが水田で、段々畑となっている。

遺跡周辺には、縄文時代から近世にかけてのいくつかの遺跡が分布する。次に、『掛川市遺跡分布調査報告Ⅰ』（掛川市教委1984）を基にして、逆川流域を中心とした縄文時代の遺跡分布と周辺遺跡の状況について見て行きたい。掛川市内の縄文時代の遺跡は、約60遺跡が確認されている（その後の調査によって若干の増加がある）。遺跡の分布は河川毎に見ると、原野谷川流域・倉真川流域（表１－22～32）・逆川流域・上小笠川流域（表１－18～21）の４グループに大きく分かれ、その多くは市内西部を流れる原谷野川流域に集中している。早期の遺跡は少なく、萩ノ段遺跡・瀬戸山遺跡等数遺跡が知られるだけである。各遺跡は、全体に土器の出土量が少ないこと等から極めて小規模なものと推定されている。前期の遺跡も早期と同様で、平遺跡・萩ノ段遺跡等が知られているにすぎない。中期になると遺跡数は急増し、特

第３図　遺跡周辺地形図（1/5000）

に中期後葉に集中する傾向がある。全体的に小規模遺跡が多い中で、原野谷川流域の中原遺跡や上ノ段遺跡、上小笠川流域の五百済遺跡は中核遺跡として位置付けられている。後・晩期の遺跡はやや減少傾向にあり、土器の出土量からもその規模は縮小して行くと考えられている。この時期最も大きな遺跡としては、倉真川流域の山崎寺中遺跡と藪下・山崎新田遺跡（里在家）が上げられる。

逆川流域では、当遺跡を含めてこれまでに10遺跡が知られている。上流域に集中し、ほとんどが丘陵上に立地する。早期の遺跡としては、同じ日坂バイパス関連で調査した向畑遺跡が上げられる。向畑遺跡からは、押型文土器の時期の土坑とそれに伴うと思われる石器が出土している。前期の遺跡としてはメノト遺跡が知られているが、若干の土器や石器等が採集されているだけで詳細は不明である。中期の遺跡としては、大向遺跡・狐鼻遺跡・向畑遺跡が知られている。向畑遺跡は狭い丘陵上に立地し、中期後半の竪穴住居跡１軒が検出されている。後・晩期の遺跡としては木ノ下遺跡と栗下遺跡があり、栗下遺跡からは石斧・石鏃・石剣等が出土している。分布調査の結果から、以上のような状況が窺えるが、この地域での発掘調査例は当遺跡と向畑遺跡の２例であり、各遺跡の実態はほとんど明らかになってお



第４図　周辺遺跡分布図

らず、分布状況も実態を示しているとは思えない。牛岡遺跡は低位段丘上に立地しており、縄文時代の遺跡の立地状況としては特異である。隣接するメノト遺跡や栗下遺跡も同様な状況であり、この地域の遺跡の在り方を再検討して行く必要があろう。また、向畑遺跡は標高90m 程の丘陵上の小規模な遺跡であり、表1の6～8の未命名の遺跡は標高160～270m 程の丘陵上に位置している。今後、このような遺跡がさらに発見されて行くものと考えられる。

逆川流域の弥生時代の遺跡は、46遺跡が知られている。その内、中期の遺跡は7遺跡と少なく、後期になって遺跡数は45となり爆発的に増加する。後期のほとんどの遺跡は、比較的標高の高い丘陵あるいは段丘上に立地し、主に集落跡である。集落の規模は数軒から70軒以上と大小様々で、比較的大きな集落跡としては、逆川中流域の峯山遺跡・安養寺遺跡・深谷遺跡・薊原遺跡等がある。これら大規模集落は、いずれも古墳時代前期まで営まれている。当遺跡周辺の弥生時代の遺跡は、これまでに6遺跡が知られている。いずれも弥生時代後期の遺跡であり、同様に丘陵あるいは段丘上に立地し、一部の遺跡は古墳時代前半まで継続する。調査例としては向畑遺跡が上げられ、竪穴住居跡11・掘立柱建物跡1が検出されている。比較的小規模な集落跡で、逆川流域のなかで最も上流に位置する。

続く古墳時代になると、遺跡周辺には当該期の遺跡はほとんど確認されていない。この時期の後半、逆川中流域には円墳や横穴からなる後期群集墳が形成されるが、その分布は当遺跡から約1.5km離れた鎌谷横穴が東限となる。こうした背景には、地形等の自然的要因を考慮する必要があるように思われる。次の奈良時代になると、比較的低地部分に頭地遺跡と当遺跡が営まれるようになる。また当遺跡西方には、奈良時代の瓦窯である諏訪窯跡が存在していたことも知られている。当遺跡からは竪穴住居跡1・掘立柱建物跡1が検出され、頭地遺跡からは多数の土器が出土している。さらに上流に位置する清水遺跡においても、包含層からではあるが奈良時代の土器の出土が確認されている。各遺跡は奈良時代以降も継続的に営まれ、江戸時代まで続くことが明らかとなっている。これら3遺跡は、今回の調査によって新たに確認されたもので、今後さらに遺跡数は増加して行くものと思われる。

表1　周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	時期	立地	番号	遺跡名	時期	立地
1	牛岡	縄・奈良～近世	低位段丘	17	鎌谷横穴群	古後	丘陵
2	頭地	奈良～中世	〃	18	板沢山	縄中	下位段丘
3	向畑	縄早・中・弥後	丘陵	19	平郷	〃	〃
4	清水	奈良散布	下位段丘	20	王子	〃	〃
5	大向	縄中	丘陵	21	五百済	縄早・中・晩	〃
6	不明	縄散布	〃	22	原	縄中～晩	〃
7	不明	〃	〃	23	平塚山	縄中	中位段丘
8	不明	〃	〃	24	石畑II	縄散布	低位段丘
9	木ノ下	縄晩・弥後	〃	25	牛丸西谷田	縄後・晩	下位段丘
10	メノト	縄前	低位段丘	26	牛丸トノ山	縄後	〃
11	栗下	縄後・晩	〃	27	熊ヶ谷大谷	縄散布	中位段丘
12	権現原	弥後・古前	下位段丘	28	柿ヶ谷	縄前・中	丘陵
13	狐鼻	縄中・弥後	〃	29	小和田前	縄散布	〃
14	新田	弥後	〃	30	山崎寺中	縄晩	下位段丘
15	中原敷	〃	〃	31	蔵下山崎新田	縄後	〃
16	諏訪窯	奈良	丘陵	32	金井場	〃	中低位段丘

第Ⅲ章　調査の内容

第１節　調査の概要

第１章３節で既に述べたように、調査区５・６区では、奈良時代から江戸時代にかけての遺構検出面である横褐色土層下の堆積層中に、縄文時代中期を中心とする遺物包含層が確認された。５・６区は遺跡推定範囲の逆川に面した南西端部に位置し、調査区の西側は逆川に向かって急速に傾斜して行く。調査区西側には礫層が確認され、この礫層は東に向かって低下して行く。この礫層の高まりは旧逆川の自然堤防と考えられ、確認した遺物包含層はこの自然堤防東側の後背低地に、後に堆積したものと考えられる。第６図に示したように、遺物包含層は砂礫・シルト・粘土からなり、14層に分層され、土器・石器・流木が出土している。

調査は帯状に土層帯を残し、遺構の有無を確認しながら各層毎に掘り下げ、遺物はできるだけ層毎に取り上げるように努めた。遺物の出土状況は各層に散在的に混入するといった感じで、あまり大きなまとまりは見られない。まとまっていたとしても、同一個体の土器が、数点に割れている程度であった。11層内では、土器が貼り付くような状況で出土している。遺物の出土量は遺物コンテナ40箱程度で、大半を土器が占め、石器は剥片を含めても３箱程度と少ない。

土器は５～11層に多く含まれ、全体に摩滅が少なく、かなり大きな破片も認められる。接合状況を見ると５区と６区が接合したり、数層に分かれて出土した例もいくつか認められる。比較的上層に新しい時期のものが多いような傾向がやや認められるが、各層に混在しており、層位的な区分は不可能と思われる。12層以下からも土器の出土が確認されたが、その出土量は極めて少ない。

各面からは遺構は全く検出されなかったが、第５図に示したように12層上面にて、自然流路と考えられる溝が２本確認された。ともに自然堤防と考えられる礫層の高まりに並行するように、北から南に向かって流れている。流木は６区E24グリッド付近から集中して出土し、そのほとんどが直立気味に立った状態で出土している。

第２節　基本土層

調査区内で確認した土層は、第６図基本土層に示したように大きく20層に分かれる（図版５・６）。ただし、５区は礫層(20層)が６区に比べ東に寄るため、２～６層の堆積は認められなかった。20層は西から東へ向かって傾斜し、15～18層はこれに沿って斜めに堆積する。１～14層は６区南側を除いて、ほぼ水平に堆積している。第２図に示した試掘坑Ａ～Ｃとの土層対比はできていない。

以下、各層の状況等を順次見て行くことにする。なお、現地調査中に加藤芳郎氏に地質・地形等について現地指導を一度お願いした際に、土層観察の所見をいただき、この所見を報文中に引用させていただいた。

１層　黄褐色土層

砂礫混じりで、灰色のシルト質の土に砂礫が多く混じることによって、全体としては黄褐色を呈する。部分的に砂礫が密集したり、砂質シルトの薄層が見られたり一様ではない。５・６区では削平されていたために20cm前後の厚みとなるが、本来は３・４区で見るように１m弱の厚みを持っていたと思われる。また、６区E24グリッド土層断面図に示したように大谷沢に面した部分では、斜めに砂礫が厚く堆積している。１層は５・６区のみならず、「調査区全体を覆って存在する。円～亜角礫を含むものの、角礫もかなり含まれることから、ごく近くから運び込まれていることが分かる。全般的傾向として大谷沢から遠ざかるほど礫の大きさが細かくなるので、この谷川から流入したと考えられる。また３・４区では１

層内において砂礫層が深さ1m程の溝状に堆積し、この溝部分が調査区内に数本帯状に伸びるのが観察される。礫の帯は、ほぼ西方向をなし、礫の大きさが西ほど小さくなることから、この帯は東から西へ向かう水流によって形成されたと見て良い。ということは前述のとおり、谷川から流入したと言う考えを支持する。若干ではあるが土器を包含する。1～4区では、縄文時代晩期と考えられる条痕文土器の出土が確認されている。

2層　暗灰色シルト層

6区E24グリッド南側からE25グリッドにかけてのみ、堆積が確認された。5・6層を切って南側の大谷沢に向かって緩やかに堆積し、その端は1層の砂礫によって消えてゆく。厚みは深い所で約30cm程となり、若干ではあるが土器を包含する。

3層　暗灰色シルト層

2層に近似するが、やや黒味が強くなる。2層と同様の堆積状態で、2層下に認められた。厚みは20cm前後で、土器・石器を若干包含する。

4層　灰色シルト層

4層も2・3層と同様の堆積状態で、3層下に認められた。厚みは最大で約30cmで、土器を若干包含する。

5層　暗灰色シルト層

6区のみに認められた。炭化物が多く混入し、西側の20層(砂礫)に近づくほど黒味が強くなる。厚みは20～40cm程で、土器・石器を包含し、土器の出土量は比較的多くなる。

6層　暗青灰色シルト層

西側の20層(礫層)に近づくほど暗灰色となり、15層上ではさらに黒灰色を呈する。また、E23グリッド付近では砂礫が多く混入し、異なる層の様にも見える。厚みは20～30cm程で、土器を比較的多く包含する。

7層　青灰色シルト層

粗砂混じりで、6層に比べ粘性が強い。5区ではF列、6区ではE列より東側に認められる。厚みは10～20cm程で、土器・石器を多く包含する。

8層　青灰色砂礫層

7層と同様に5・6区のより東側に認められ、5区では酸化のためか褐色を呈する。堆積は一様ではなく、砂の強い部分やシルトが混入する等、部分的に違いが認められる。礫は径3cm以内の「亜角礫よりなり、逆川本流からの流入と思われる」。厚みは20～30cm程で、5区F21グリッド付近は薄く、6区E25グリッド付近でまた薄くなってしまう。土器・石器を多く包含する。

9層　暗灰色シルト層

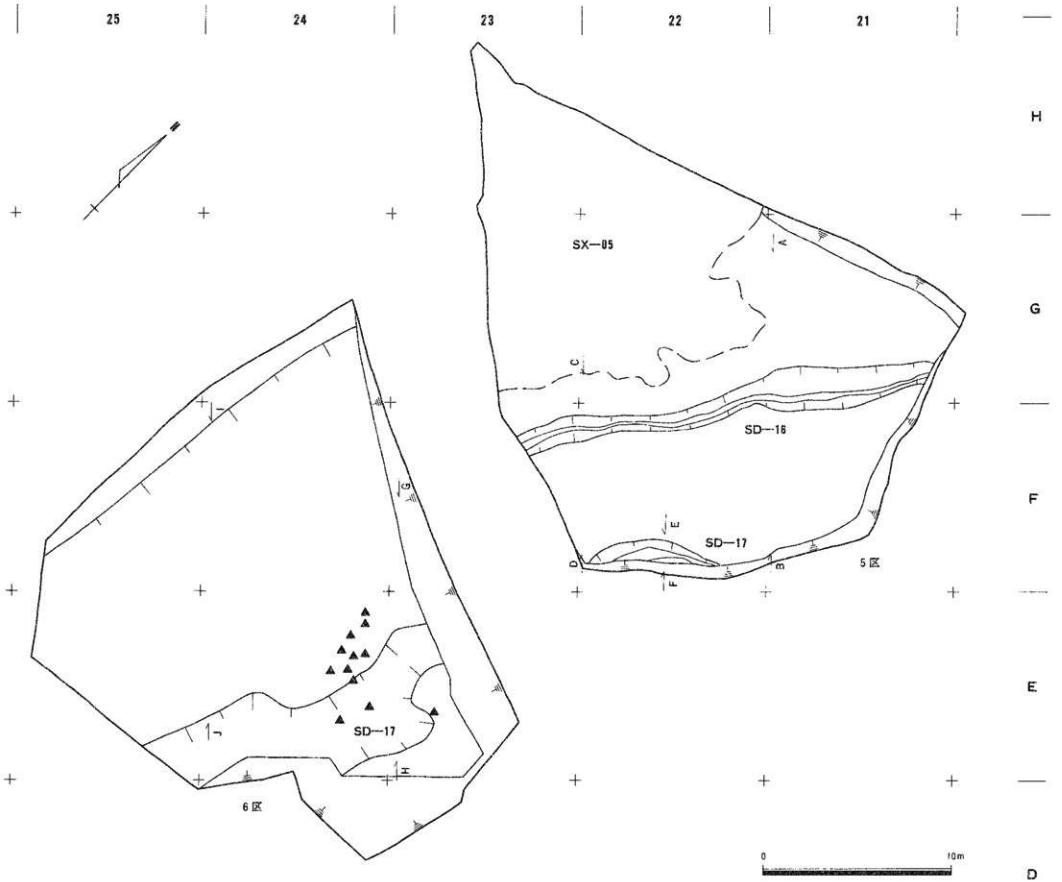
5区では炭化物・有機物を混入し、色調も青灰色を呈する。全体に砂質が強く、砂質は西側ほど強くなる。6区では5・6層と同様に西側ほど黒味が強くなり、下部に砂が多く混入する。厚みは10～20cm程で、土器・石器を多く包含する。

10層　青灰色砂礫層

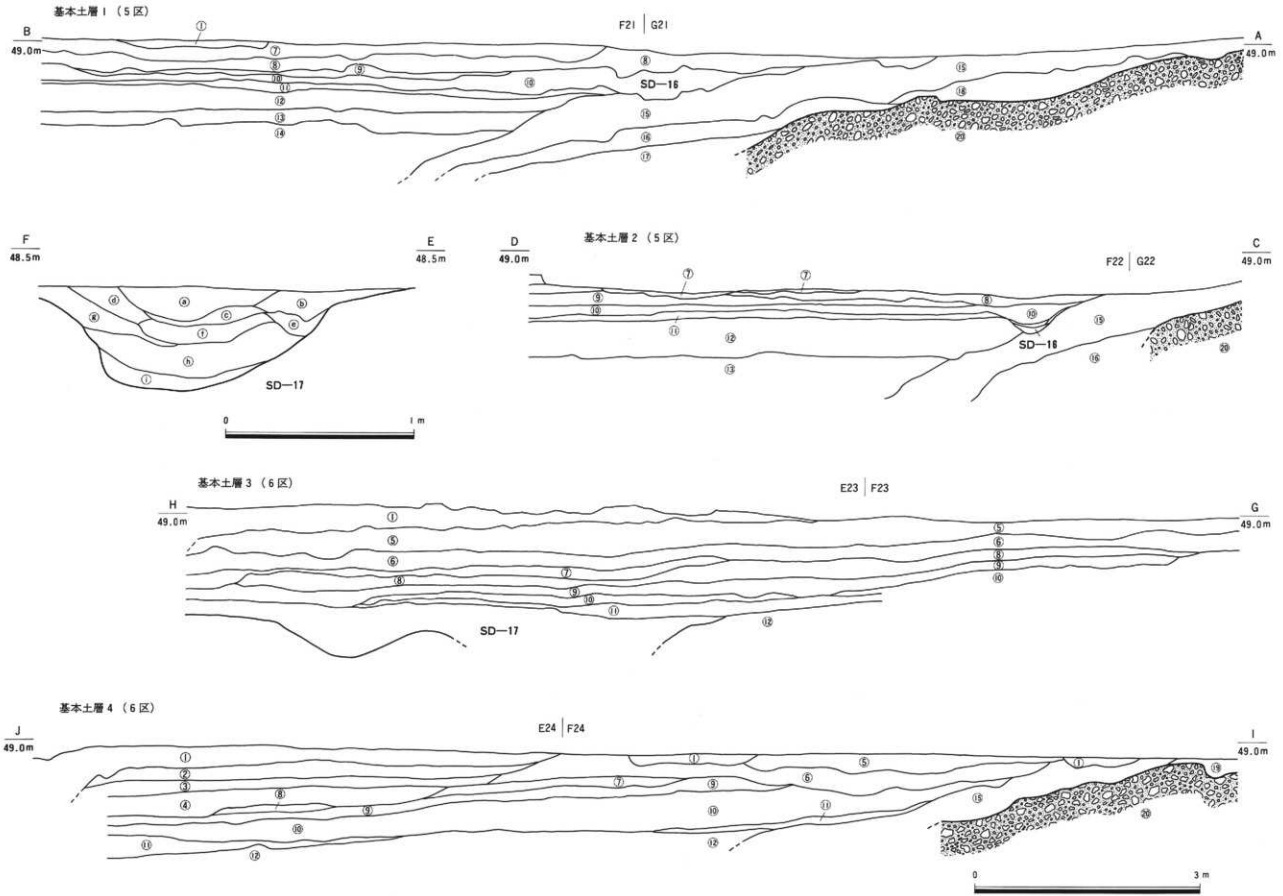
8層と同様に、5区では褐色味が強い。一部、砂・シルトの互層となる部分もあり、一様ではない。8層と同様に亜角礫が多く見られることから、逆川本流から流入した可能性がある。厚みは5区では10cm前後と薄く、6区では西側ほど40cm前後と厚く、東側ほど薄くなる。

11層　暗灰色砂質シルト層

5・6区で確認され、炭化物・有機物が混入する。西側ほど黒味が強く、東側ほど灰色となる。部分的に砂の薄層が混入したり、粘質が強まったりと一様ではない。厚みは10cm前後で、全体に薄く堆積し



第5図　調査区全体図（第12層）


基本土層 1 （5 区）
B
49.0m
F21 | G21
A
49.0m
SD—16
F
48.5m
E
48.5m
SD—17
0
1 m
基本土層 2 （5 区）
D
49.0m
F22 | G22
C
49.0m
SD—16
基本土層 3 （6 区）
H
49.0m
E23 | F23
G
49.0m
SD—17
基本土層 4 （6 区）
J
49.0m
E24 | F24
I
49.0m
0
3 m

第 6 図　土層断面図

ており、土器・石器を多く包含する。

12層　暗灰色粘土層

西側ほど黒味が強くなり、15層との区分が明確ではない。全体に若干砂が混入し、5区では下部により多く混入し、分層されるかもしれない。厚みは5区で50cm前後あり、上部を中心に土器が混入していた。

13層　青灰色シルト層

5区のみで確認している。砂・小礫を比較的多く混入し、小礫は西側ほど多く認められた。厚みは20～30cm程で、5区南側ほど厚くなるようである。遺物は確認されなかった。

14層　青灰色砂礫層

5区北側に設定したトレンチ部分のみで確認している。砂と径3cm以内の小礫からなり、若干シルトが混入する。厚みは下部まで確認していないが、50cm以上になることはまちがいない。土器が数点出土している。

15層　黒灰色粘土層

砂礫が多く混入し、上面は砂質が強くなり、礫が攪拌されたように混入する。20層(礫層)に沿って西から東へ向かって斜めに堆積している。礫層上部では黒色を呈し、東側ほど灰色味が強くなる。このように色調が黒くなるのは、「ここで湿地状態が強かったことを示している」。上層のシルト層や粘土層がこの付近で黒味が強くなるのも、この様な状況の為と推測される。厚みは40～60cm程で、東に行くに従って薄くなって行く。上部から土器・石器が出土しているが、これは前述のように上部に砂礫と共に混入したか、あるいは15層が11・12層と明確に区分出来なかったことによるものと思われる。15層下部には、全く遺物は認められておらず、基本的には無遺物層と考えられる。

16層　黒灰色シルト層

5区のみで確認された。15層と同様に西から東へ向かって斜めに堆積している。灰色砂が多く混じり、小礫もまばらに混入する。遺物は出土していない。

17層　灰色砂質シルト層

5区のみで確認している。16層と同様の堆積状態で、質的にも近似している。遺物は出土していない。

18層　灰色砂層

5区G21グリッド付近のみで確認されており、極めて部分的なもので、面的な広がりはない。下部には凹凸が認められ、14層がブロック状に混入する部分もある。16層に混入する灰色砂と同一と考えられる。遺物は出土していない。

19層　褐色土層

6区西側部分にのみ、20層上に堆積している。厚みは10～20cm程で、遺物は出土していない。

20層　礫層

褐色あるいは灰褐色を呈する。表面は調査区西側を頂部にして、東側に向かって低下してゆく。その稜線は、北から南東方向に緩やかな弧を描く。「亜角礫を主とし、扁平礫の傾きから、水流は西から東と推定される」ことから、20層は旧逆川左岸の自然堤防の一部をなすものと推定できる。

第3節　自然流路跡

第5図に示したように12層上面にて自然流路と考えられる溝を2本検出した。ともに自然堤防と考えられる西側の礫層の高まりに並行するように、北から南に向かって伸びている。

SD－16　(図版3・5－3)

5区G21グリッドからF23グリッドにかけて、ほぼ南北方向に伸びる溝である。6区では確認されて

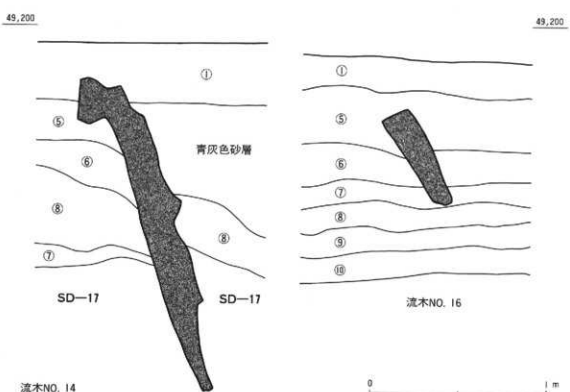
おらず、ＳＤ－17に合流する可能性もある。15層が斜めに堆積し、平面的に12層へ移る部分から検出され、西側は15層、東側は12層を掘り込んでいる。検出長約22m で、幅は0.9～2.3m である。断面形は浅いU字状を呈し、G21グリッド以北では、幅広となり二段掘り状となる部分も認められた。深さはF22グリッド付近で西側15層面から約0.5m、東側12層面からは約0.2m を測る。第６図基本土層２に示したように覆土は、F22グリッド付近で４層に区分される。下層は青灰色砂・暗灰色砂・黒灰色砂混じりシルトの互層が認められ、11層に類似する。上層は、10層が溝を再度掘り込むように厚く堆積する。出土遺物は少なく、目立った出土状況は認められなかった。

ＳＤ－１７　（図版４・６－2）

調査区東側５区F22グリッドから６区E25グリッドにかけて、やや蛇行気味に北から南に向かって流れる。検出長は約32m で、幅は5区で約1.6m、6区で推定約７ｍとなり、南に行くに従って幅は大きく広がって行く。断面形はU字状を呈し、深さは５区で約0.55m を測る。覆土は第６図に示したようにａ～ｉ層に細かく分層される（ａ層は灰色砂礫、ｂ層は灰色シルト混じり砂、ｃ層は灰色シルト混じり砂礫、ｄ層は灰色シルト混じり砂、ｅ層は灰色砂混じりシルト、ｆ層は灰色砂礫、ｇ層は灰色砂混じりシルト、ｈ層は灰色砂礫、ｉ層は灰色シルト混じり砂）。ａ層は10層に、ｂ・ｄ層は11層に相当し、溝の掘り込みは、14層まで到達する。６区でも同様に砂とシルトの細かな互層が認められ、植物などの有機物も多く混入していた。流路内からは、６区を中心に多数の土器が出土している。

第４節　出土流木

６区E24グリッド付近から17点の流木が出土している（出土地点は第５図調査区全体図に示した）。そのほとんどが５層の前後から検出され、第７図に示したように立った状態で出土している。(図版７－



第７図　流木出土状況断面図

4・5)。流木の長さは30cm程度のものが多いが、№14は長さ約1.9m、径約20cmと大きなものであった。第7図に見るように、流木№14は1層下部から下層の自然流路ＳＤ－17にまたがって伸びており、流木№16も同様に5層から7層に及んでいる。

このような状況は、第2節基本土層の中でも述べたように、この付近が堆積層の末端に位置したため、あるいは出土地点の下層に自然流路が認められたように、この付近が常に流路となっていたためと推測される。いずれにしても、これら流木の出土状況が示すように、この包含層の堆積が比較的急速に進んだものと考えられるかもしれない。

なお、流木の樹種については、山内文氏に鑑定を依頼し、御報告を第Ⅳ章に掲載させていただいた。

第5節　出土遺物

今回の調査では、第Ⅲ章で既に述べたように、遺物包含層中から縄文時代中期を中心とする土器・土器片円盤・石器が出土している。遺物の総出土量は遺物コンテナ約40箱で、そのほとんどが土器である。

土器（第8図～第36図・図版8～図版49）

有文土器破片を中心に、出土土器の約1/2弱にあたる896点を図示した。以下、これら出土土器を大まかにⅠ期（早期末～前期）・Ⅱ期（中期前半～中葉）・Ⅲ期（中期後半～末葉）・時期不明に分けて、その内容を見ていくことにする。なお、個々の土器の出土地点・特徴等については、表3出土土器観察表に記した。

1．Ⅰ期（早期末～前期）の土器

施文等の特徴から4群に分けられ、さらに分類される。

1群土器

いずれも深鉢の口縁部破片である。口縁部は外傾あるいは外反する。外面に条痕、口唇部に刻みを施す。器厚は5㎜前後と薄く、色調は全体的ににぶい黄褐色を呈する。胎土に微砂を多く含み、器壁はやや粗い。施文の特徴から2つに分類される。

a類（92）

口縁部に隆帯を貼付するもの。隆帯貼付後に条痕を施す。口唇部に爪形状の刺突を加え、内面に横位の条痕を施す。

b類（93～95）

隆帯が認められないもの。93・94は口唇部に指頭の押捺によって刻みを加え、95は爪形状の刺突を施す。

2群土器（96）

96の1点のみで、深鉢の口縁部破片である。口縁部は直立し、外面に格子目状の条線を施す。口唇部に指頭の押捺によって刻みを加え、内面に指頭痕を残す。器厚は3㎜弱と薄く、色調はにぶい黄褐色を呈する。

3群土器

いずれも深鉢と考えられる。口縁部はやや内湾するものと直立気味のものがある。器厚は3㎜～5㎜と薄く、色調は黒味の強い灰黄褐色を呈する。胎土に微砂・細砂を含み、器壁はやや粗い。施文の特徴から2つに分類される。

a類（97・99・104）

外面に爪形文を施すもの。97は所謂しゅろ状爪形文を施す。99・104は半截竹管による平行沈線内にＣ字状の連続爪形文を施す。

b類（98・630）

外面に羽状縄文を施すもの。

4群土器（100）

100の1点のみで、深鉢の口縁部破片である。口縁部は弱く内湾する。縄文を地文とし、細い隆帯を横位に貼付して隆帯上に爪形文を施す。器厚は4㎜と薄く、色調は暗灰褐色を呈する。胎土に砂粒を多く含み、白色砂が目立つ。

2．II期（中期前半～中葉）の土器

施文等の特徴から3群に分けられ、さらに分類される。

1群土器

半截竹管文を主文様とする土器を本群とした。胎土や施文等によってa類～c類に分類される。

a類（101）

101の1点のみで、鉢あるいは浅鉢の口縁部と考えられる。器壁は堅緻で、色調は暗褐灰色を呈する。器面に丁寧なナデを施し、半截竹管による平行沈線文を施す。

b類（102・103・105～107・505）

いずれも深鉢と考えられる。器壁は比較的堅緻で、胎土に白色砂を多く含み、色調は灰褐色を呈する。半截竹管による平行線文・渦文等を施す。102は口縁部下に半截竹管による蒲鉾状の隆起線上に連続爪形文を施す。105は縄文を地文とし、平行沈線文による区画文を施す。

c類（108～110・828・829・843～846・888）

器壁は粗く、胎土に砂粒を多く含む。口縁部はやや肥厚し、やや粗雑な爪形文を施す。110は半円状の連続刺突文を施す。843～846は隆帯に沿って平行沈線文を施し、隆帯上に刻みを加える。

2群土器

いずれも深鉢であり、波状口縁をなすものや小形の粗製土器も認められる。器厚は3～5㎜と薄く、胎土は緻密である。器壁も堅緻で、色調は暗灰黄褐色を呈する。施文等の特徴から2つに分類される。

a類（111～113）

爪形状の連続刺突文を施すもの。111は口縁部がやや肥厚し、口唇部に爪形状の刻みを加える。112・113は外面にD字状の連続刺突文を施す。

b類（1・2）

半截竹管文を主文様とする土器を本類とした。1は細かな縄文を地文とし、口縁部付近に刺突文・波状文を施す。2は無文で、口唇部に半截竹管の押捺による横位の刻みを施す。

3群土器（114）

114の1点のみで、深鉢の口縁部破片である。口縁部は弱く外反し、口縁部下に横位の高い隆帯を貼付する。隆帯下には半截竹管による平行沈線文を施す。胎土に砂粒を多く含み、器壁は粗い。色調は赤褐色で、胎土に白色砂が目立ち、特徴的である。

3．III期（中期後半～末葉）の土器

出土土器の主体的位置を占めるもので、出土量も多く、多様な土器が認められる。大きく5群に分かれ、施文等の特徴からさらに分類される。

1群土器

船元・里木式系と考えられる土器を本群とした。いずれも深鉢と考えられ、地文の違いにより、A～C群に分けられる。器厚は比較的薄く、ほとんどがキャリパー状の器形となる。底部はほぼ平底を呈す

る（50～70）。胎土は全体的に緻密である。

1 A群

縄文を地文とする土器を本群とした。施文等の特徴からａ類～ｆ類に分類される。

ａ類（115・118～120・123・126・127・129）

口脣部に縄文を施すもの。半截竹管による平行線文・弧線文を施す。127と129は平行線文に交互刺突を加え、波状文を作る。126は半截竹管文が見られない。

ｂ類（116・117・128）

口唇部を強いナデにより面取りするもの。半截竹管による平行線文、弧線文と交互刺突による波状文を施す。

ｃ類（124・125・303・321）

ａ類と同様に口唇部に縄文を施すが、端部が丸くなるもの。半截竹管による細く浅い平行線文・波状文を施す。

ｄ類（16・121・122・130・304～310）

口唇部に施文や面取りを持たないもの。文様はａ～ｃ類とほぼ同様である。304～308は平行線文が１本省略され、16・309は口縁部内面に隆帯を貼付する。130は口縁部に波状の隆帯を貼付し、310は棒状工具による波状文を施す。

ｅ類（311～316）

棒状工具を主たる施文具として、区画文・渦文を施すもの。314～316は胎土・色調に他類と違いが認められる。315・316は地文を縄文としたが、撚糸文状であり疑問が残る。

ｆ類（317～320・322）

無文あるいは本来の文様構成がくずれたものを本類とした。317は半截竹管による波状文を２段施す。322は口縁部が外反するもので、頸部に棒状工具による弧線文を施す。

胴部破片は、132・133・173・323～331が本群に属する。132・133は、胎土や色調からａ類あるいはｂ類に含まれると思われる。327～331は縄文と条線を地文とするもので、特異な例である。173は太めの粘土紐を貼付するもので、東海西部系の土器かもしれない。

1 B群

撚糸を地文とする土器を本群とした。施文等によってａ類～ｄ類に分類される。

ａ類（3・4・131・134～143・147～162・172）

半截竹管により平行線文・弧線文・波状文等を施すもの。竹管の原体は、細く狭いものと比較的幅広なものがある。137・138は平行線文が１本省略される。147～160は交互刺突による波状文を施す。4は口縁部が大きく内湾し、波状文を４段施す。156は弧線文が棒状工具によるもので、ｃ類とすべきかもしれない。160・161は平行線文に渦文を加えている。131・162・172は口縁部が肥厚あるいは外反するもので、胎土に砂粒を多く含み、色調も他と異なる。

ｂ類（166）

細い隆帯を貼付して、直線文や弧線文を描くもの。166の１点のみで、口縁端部は小さく外反する。

ｃ類（144～146）

竹管との区別は難しいが、丸棒状の工具によって弧線文や波長の短い波状文等を施すもの。胎土が比較的粗く、ｄ類に類似する。

ｄ類（5・163～166）

棒状工具により、区画文や刺突文を施すもの。5は横長の楕円形区画を作り、区画間に縦位の沈線を

加える。163～165は口唇部あるいは沈線下に連続刺突文を施す。163は長方形区画を作り、165は区画文に渦文を加える。

胴部あるいは底部破片は、6～9・167～171・174～185が本群に属する。6・16～171は胴部に竹管文を施す。底部は平底で、外縁はやや外に張り出す。

1C群

半截竹管あるいは櫛状工具による条線を地文とする土器を本群とした。施文等によってa類～f類に分類される。

a類（10～12・95～215・232・233・246）

半截竹管により平行線文・弧線文等を施す。竹管の原体は186～194等のように細かいあるいは狭いものと197～216等のように比較的幅広で太いものがみられる。太いもののほとんどが、平行線文を1本にしている。11は連続刺突文を加え、12は楕長の楕円形状区画文を施す。203は地文を格子目状にする。209～215は交互刺突による波状文を施す。

b類（13・222～227・244）

棒状工具により直線文・波状文・弧線文を施す。13は口縁部に地文を施さない。244は口縁部が外反する。

c類（216～221・237～241・260～262）

半截竹管あるいは棒状工具により連続刺突文を施す。216～221・260～262は沈線間に縦位あるいは斜位の刺突を加え、237～241は半截竹管により列点状の横位の刺突文を施す。240は口唇部に縄文あるいは櫛状工具による刺突文を施す。

d類（234～236）

棒状工具あるいは半截竹管により区画文や渦文を施す。234は棒状工具により矩形の区画を作る。235と236は、胎土や色調もよく類似する。235は交互刺突文下に区画文を施し、236は弧線文に渦文を加え、四角形状の連続刺突文を施す。

e類（242）

242の1点のみである。口縁部外面に粘土紐を波状？に貼付し、粘土紐上にも条線を施す。やや厚手で、器壁は緻密である。

f類（15・243・245・247・248）

無文あるいは、本来の文様構成がくずれたもの。15・243は同一個体と考えられ、横斜の条線を地文とし、半截竹管文を施す。245は口縁部が外に開き、頸部に波状文を施す。247・248は地文のみである。

胴部破片は276～301が本群に属する。276～289は、半截竹管あるいは棒状工具によって波状文・弧線文等を施す。295や300等は非常に細かな条線を施し、296・297は横位の条線を加えている。

1D群

地文を施さないものを本群とした。施文の有無から2つに分類される。

a類（14・265～275）

半截竹管文を施すもの。14は平行線文のみを施し、275は区画文を加える。265～271は、1C群c類と同様に横位の列点状刺突文を施し、271は口唇部に刺突を加える。272・273は口縁部が外反するもので、272は頸部に波状文を施す。274は弧線文のみで、口唇部に刺突文を施す。いずれも口縁部付近であり、下部に地文を施している可能性はある。

b類（332～338）

無文のもの。内外面にナデを施す。337・338は口縁部が直線的となる。

胴部破片では、33～344が地文を持たない。341はくびれないで、そのまま口縁部となるかもしれない。口縁部付近のみに地文を施すものもあり、全てが本群に属するとは言えない。器壁の剝離等によって地文の不明な土器は、249～259・263・264・302がある。249～256は交互刺突による波状文を施す。253・254はやや粗雑な刺突が加えられ、254は下部にも刺突文を施す。257～259は多条の沈線文を施し、255・263・264は渦文を加える。

2群土器

曽利式系と考えられる土器を本群とした。器種には深鉢・鉢・浅鉢が認められる。地文の違いからA～F群に分かれ、施文等の特徴からさらに細分される。底部破片は71～81が本群に属する。

2A群

半截竹管による平行沈線を地文とする土器を本群とした。施文や胎土等の違いにより、a類～c類に分類される。

a類（345・372）

細い粘土紐を貼付し、格子目状とする。いわゆる籠目文土器で、胎土に砂粒を多く含む。

b類（17～22・24～28・31・346～357・361・362・366～369・373～380・383～399・431・477・547）

胎土に砂粒を多く含み、器厚は全体に厚い。ほとんどが籠目文土器と考えれ、口縁下に半截竹管による半隆起線文状の平行沈線を施す。くびれ部には沈線文、刺突文、粘土紐による貼付文等を施し、胴部にも粘土紐貼付による蛇行懸垂文・渦文・区画文等を施す。17・19・21・346～350は口縁部の作りが大きく、口唇部に半截竹管あるいは棒状工具により沈線を巡らす。18・20・351～357等は比較的作りが小さく、地文も粗雑で、353～356は口唇部に沈線文が見られない。胴部地文は、口縁部下に比べ、全体的に細かくなるが、388・390・392等は平行沈線間に同様の高まりを持つ。逆に、19・379は施文具が異なるのかより細かくなる。26と362は同一個体と考えられ、波状口縁をなす。波頭部に逆S字状の突起を付し、隆帯による区画文を施す。27・28・547は胴部上半が張り出す鉢形土器で、隆帯による区画文と渦文を加える。隆帯は粘土紐を貼付した後に、半截竹管により調整を加えており、他に比べ丁寧な作りとなる。22の渦文も同様の施文である。

c類（23・29・358～360・363・370・371・381・382・400～404・538・539）

a・b類に比べ、胎土に砂粒が少なく、器壁も堅緻である。籠目文土器の口縁部の作りは小さく、地文も粗雑で、358・360等のように普通の沈線文となるものが多い。胴部地文も同様となる。23・402・403は、胴部に粘土紐による蛇行懸垂文を施す。29は小形で、胴部に棒状工具による沈線文を施す。363は口縁部下に横位の隆帯を貼付し、隆帯に半截竹管により調整を加える。

2B群

地文に櫛状工具あるいは半截竹管による条線を施す土器を本群とした。施文等から2つに分類される。

a類（405～408・416～418・454～461・543）

低い隆帯と沈線によって、区画文・孤線文・渦文等を施す。405～408は放射状に条線を施し、隆帯による大きな文様を作る。416と418は口縁部付近と考えられ、楕円区画・渦文を施す。417は地文を格子目状に施し、横位に隆帯を貼付する。454～461・543は地文不明であるが、胎土や隆帯の特徴から本類に属すると思われる。

b類（30・409～415・422～430・463・464）

沈線や縦位の隆帯を施す。地文のみの胴部破片も本類に含めた。409・410は、隆帯により縦長区画を作ると思われる。411～415は沈線文を施すもので、411は浅く広い蛇行懸垂文を施す。413と415は羽状条線を地文とする。30と423～460は、縦位ないし縦斜の長い条線を地文とする。30は竹管を垂直にして当てたような沈線によって、横位の直線文と逆U字状の区画文を施す。463・464は地文不明であるが、隆帯等の特徴から本類に含まれると思われる。

2 C群

地文に刺突文を施す土器を本群とした。施文等からａ類～ｅ類に分類される。

ａ類（432～434）

半截竹管により列点状の刺突文を施すもので、同一個体と考えられる。半截竹管による隆起線文によって、直線文・弧文を施す。胎土は精緻で、器壁も堅緻である。

ｂ類（435～441・449）

ヘラ状工具によりハの字状の刺突文を施し、低い隆帯によって区画するもの。全体に胎土に砂粒を多く含む。

ｃ類（422～446・467・545）

ヘラ状工具によりやや粗雑なハの字状の刺突文を施し、沈線によって区画するもの。467は波状口縁をなし、逆U字状の区画内に棒状工具によるハの字文と連続刺突文を施す。

ｄ類（447～453）

櫛状工具によって刺突を施すもので、低い幅広の隆帯によって区画をなす。447・450・451は同一個体の可能性がある。櫛状工具を押し当てるように施文し、ハの字状をなす。448・452・453は、疑似縄文状に刺突を加える。

ｅ類（465・466）

丸棒状工具により刺突文を施す。465は細い工具によってやや斜めに刺突を加え、口縁部に隆帯を付す。ともに胎土は精緻で、器壁も堅緻である。

2 D群

地文に縄文を施す土器を本群とした。器種には深鉢・鉢・浅鉢がある。胎土・文様等の特徴からａ類～ｆ類に分類される。

ａ類（484・485・487～491）

半截竹管により半隆起線文あるいは隆起線文を施す。胎土に砂粒を多く含み、器厚は厚く、器壁は堅緻である。484・485はくびれ部に横位の半隆起線文を施し、487～489は隆起線文による渦文を施す。

ｂ類（32・33・38・470・493～500・858～865）

比較的高い隆帯により口縁部文様を作る。胴部に半截竹管あるいは棒状工具による沈線文や結節縄文による懸垂文を施す。胎土と器厚は、ａ類と同様である。32は高い隆帯により半円状の区画を口縁部に作り、渦文を加える。口縁部下から縦位の平行沈線と棒状工具による蛇行懸垂文を施す。497は同一個体と思われる。33も同様の区画を作るが、隆帯はやや低くなる。区画内には竹管による刺突を加え、地文に結節縄文を施す。470は33と同様の隆帯を横位に貼付し、内面に三角形状の隆帯を巡らす。38・499・500は、棒状工具により縦位の沈線を施す。493～495は、くびれ部に横位の平行線文を施す。496～498は、胴部に縦位の平行沈線を施す。858～865は結節縄文を施し、861～865は沈線文も加わる。860～865はやや器厚が薄い。

ｃ類（34・36・37・39・468・469・471・476～483・486）

粘土紐による貼付文を施すもの。胎土と器厚はａ類と同様である。34は口縁部に渦巻つなぎの弧線文を施し、半円形の区画を作る。36は口縁部に逆Ｓ字状の突起を貼付し、口縁部下に半截竹管による

蛇行懸垂文を施す。37は貼付文を持たないが、本類に含めた。小形で、胴部の張りが弱い。39は口縁部無文の鉢形土器で、頸部に波状文を施す。468・483は、隆帯上に刻みを加える。469は本類に含めたが、胎土・色調が異なり、より新しく位置付けられると思われる。471は小形で、口縁部に渦文を施す。476～482・486は波状文・渦文・蛇行懸垂文等を施す。476～479は小形品である。

d類（35・472～475・655）

比較的薄手で、胎土・器壁が堅緻な土器を本類とした。35は粘土紐を貼付し、長方形状の区画を作る。結節縄文を施し、縦位に平行沈線を垂下させる。472・655は、狭い隆帯と沈線により区画文を施す。473・474は粘土紐を波状に貼付する。

e類（41・492・527・550～552）

太く低い隆帯によって文様を施すものと地文のみの土器を本類とした。41・550は壺形土器で、41は肩部に区画文・渦文を施し、550は弧状の太い沈線を加える。492は大きな弧文が見られる。527は鉢形土器で、551・552は浅鉢と考えられ、口縁部は無文となる。

f類（501・540・544・679～681）

棒状工具により沈線文を施すもの。器厚は比較的薄い。いずれも胴部破片で、区画文・渦文・弧文を施す。

2E群

地文不明あるいは地文の無いものを本群とした。胎土等から2つに分類される。

a類（40・524～526・536・553・560）

比較的厚手で、胎土に砂粒を多く含む。524・525は深鉢の口縁部と考えられ、内側に強く折れる。40・526・536は鉢形土器と思われ、526は頸部に細い隆帯が巡る。553・560は浅鉢と考えられ、553は厚手で口縁部内面が張り出す。

b類（528～535・546・548・549・554～557）

a類に比べ器厚がやや薄く、胎土も緻密となる。528～535は鉢形土器と考えられ、535は頸部に太い隆帯が巡る。546・548は胴部上半が張り出すもので、546は粘土紐を貼付し、区画文・渦文を施す。549は壺形土器で、頸部に比較的高い隆帯が巡る。554～557は内面調整から浅鉢と考えられる。557は頸部に低く太い隆帯による弧文が見られる。

2F群（43・44・419～421）

曽利式系の文様構成を持つが、胎土等に違いが認められるものを本群とした。器厚は5㎜前後と薄く、胎土に長石粒を多く含む。43は半蔵竹管による弧線文・渦文等を施し、44は低い隆帯と沈線によって、渦巻つなぎ弧文を作る。419～421は細く高い隆帯によって区画を作り、区画内に刺突文・条線・沈線文を施す。

3群土器

加曽利E式系土器を本群とした。縄文を地文とし、多くが胴消帯を有する。器種には深鉢・鉢・浅鉢が見られる。全体的に色調は灰色味を帯び、胎土はII群土器に比べ緻密となる。施文等の違いにより、a類～e類に分類される。底部破片は、83～91が本群に属するものと思われる。

a類（42・462・564～568・649～651・653・654・656～666）

隆帯と沈線によって文様を施す。42は浅鉢と考えられ、内外面に丁寧な調整を施す。長方形状の区画に渦文を加える。462・561～563・660は、口縁部に比較的高く丁寧な隆帯により、渦文等を施す。564～566は隆帯というより、断面三角形状の高まりと沈線によって文様を作る。567は細い隆帯を貼付する。568・649～651・653・654は、低い三角形状の隆帯を横位に貼付する。659・663～666は丸味を持っ

た低い隆帯で、665は逆U字状の区画文を作る。

b類（569～580・582・588・675・857）

棒状工具による沈線文で、口縁部に区画文を施すもの。ほとんどが楕円形区画をなし、区画内に縄文を充塡する。580・857は浅鉢と考えられ、口縁部は肥厚して、端部を面取りする。

c類（45～47・581・583～587・589～665・607～622・718・826）

口縁部区画文を持たず、胴部区画文がせり上がる。施文は棒状工具あるいは半截竹管による沈線文である。口縁部は内湾を弱め、比較的直線的に立ち上がるものが多い。45～47・581・583～587・589・718は口縁部下に一本の沈線を施し、沈線下に逆U字状の区画文を作る。45は半截竹管による平行沈線文で、46は縄文を施していない。583は波状口縁をなす。590～600・608～617・620・621は、横位の沈線が確認できる。591・593は、沈線下に縦位の平行沈線を加える。599・619～622・826は半截竹管による施文で、619・622は垂線のみである。609～614・616・617は無地で、沈線というより凹みを巡らせる。601～605・607・608は、逆U字状の区画文を口縁部下から施す。603・607は細かな区画文を施し、607は口縁部付近に円形の刺突文を加える。618は無地で、長方形の縦長区画を作る。

d類（48・606・623～629・631～648・747～755・851～856）

地文のみあるいは無文土器を本類とした。48は大形で、器厚も厚く、粗い縄文を全体に施す。606は磨消帯によって区画を作っている。747～755は無文の深鉢の胴部破片である。851・852は無文で、口縁部が外反する鉢形土器と思われる。853は口縁部が外傾する浅鉢で、胴部に縄文を施す。854～856は浅鉢の口縁部と思われる。

e類（866）

866の1点のみである。撚糸文を地文とし、くびれ部に棒状工具による横位の沈線文を施す。

胴部破片は503・504・506・507・537・541・615・667～674・676～678・682～746が本群に属するが、a類・b類の区分は難しい。615・667～674・676・677は、沈線による逆U字状の区画文を施す。537・541・669・678には麻手状の懸垂文、670には波状の懸垂文が見られる。503・504・506・507・684～726は縦位の沈線文を施し、503・504・506・507・714・715は半截竹管文による。684～707等は磨消帯を丁寧に作り、707～713には波状の懸垂文を施す。

4群土器

加曽利E式併行の在地系の土器を本群とした。縄文を地文とし、磨消帯を有する。胎土や色調は、III群土器に全体的に類似する。施文等により2つに分類される。

a類（49・652・756～764・782～825・830）

結節縄文を地文とする。いずれも深鉢と考えられ、台付ものが見られる。胎土は白色砂粒を多く含むものが多く、色調はやや褐色味が強い。地文が確認できない土器も胎土・色調から本類に含めた。49・756～763・782～796・810は、低い隆帯と沈線により文様を構成する。756～758は口縁部に満文を施し、757は区画文を加える。49は口縁部文様を持たず、くびれ部上部から逆U字状の区画文を施し、区画上部に連続刺突文を施す。759も同様の施文方法を取る。761・762・764・830は、竹管あるいは棒状工具により刺突文を施す。789～793等は縦位の隆帯に沿って、比較的強い沈線を施す。798～806は沈線によって区画文を施す。825は小さな把手を有する。811～824は脚部及び脚部付近で、ほとんどの脚部は透かしを有する。811～818は接合部から縦位に三角形状の隆帯を貼付し、816・817には刺突文を施す。819・821・822には、隆起線状の高まりが見られる。

b類（765～781・797・827・831～842・847～850）

隆帯上あるいは隆帯に沿って刺突を施すもの。a類と同様の刺突文もあり、b類のいくつかはa類に属する可能性がある。765は半截竹管による細かな刺突を施し、隆帯下に細い粘土紐を貼付する。766～774・797・831～835は竹管による円形刺突文を施し、775～781にはヘラ状工具による刻みを施す。769・779には半截竹管による弧線文、775・777・781には沈線文が見られる。771・831は隆帯によって楕円形状の区画を作る。836～842は、棒状工具によりやや大きな刺突文を施す。847・848は爪形状の刺突を施し、894はヘラ状工具により沈線状に刻む。827・850は口唇部に刺突を加える。

4．時期不明の土器（867～887・889～896）

867～869は、口縁部に粘土紐を貼付して区画を作る。胎土・色調からは同一個体とも考えあれるが、867は隆帯上に細かな縄文？を施し、868は条線を地文とする。器厚が薄く、キャリパー状の口縁をなすことから、III期1群土器に属する可能性がある。870～872は胎土が緻密で雲母を含み、色調は黄褐色を呈し、特徴的である。870は内面に指頭痕が目立つ。873～876は口唇部に刻みを施す。873・876は貝殻状？の圧痕で、874・875は棒状工具による。器形的にはII期とすべきであろうか。877・878は半截竹管による条線を地文とし、屈曲部に刻みを施す。器厚は4㎜と薄く、胎土からはI期に属すると推測される。879はやや変わった器形を呈する。880～882は細い隆帯を貼付する。880・882は口縁部が外反し、頸部の隆帯上に刻みを施す。I期あるいはII期に属するものであろうか。883～886は口縁部が外反し、丁寧なナデを施す。883・884に縄文が認められる。887は外面に横位の条痕？を施す。889は棒状工具による沈線文を施す。III期3群土器に属するとも思われるが、胎土等に違いが見られる。890は波状口縁の突起部分である。低い三角形状の隆帯と沈線文を施す。III期に属するものと思われるが、やや新しく位置付けられる可能性を持つ。891は底部破片で、内面に横位の条線（ハケメ）が残る。底部外面は円状にナデを施し、接合痕の可能性を持つ。891・885は縄文土器とすべきか疑問が残る。892～896は浅鉢で、同一個体である。口縁部は三角形状に肥厚し、体部は屈曲する。晩期に属する可能性もあるが、はっきりしない。

土器片円盤（第36図　図版49）

897～901の5点の土器片円盤が出土している。径2.0～4.0cmと大きさにやや違いが見られる。897は細かな条線が認められ、900には縄文が残る。胎土等から、897・898は曽利式系土器、899～901は加曽利E式系土器と考えられる。

石器（第37・38図　図版50・51）

今回の調査では、石器および剥片がコンテナ箱2箱程度出土した。その内製品として捉えられたものは、上層出土石器（『牛岡遺跡I』）も含めて42点である。内訳は、打製石斧20・磨製石斧2・石鏃5・スクレイパー9・敲石？1・凹石2・石皿？2・石棒1である。

打製石斧は短冊形と撥形があり、石材は主に粘板岩と砂岩が使用されている。磨製石斧は大形で蛤刃のものと仕上げの丁寧な小形のものがある。石鏃は無茎で基部の平らなもの、基部に浅い抉入もの、長脚のものと柳葉形が見られる。石材は黒鉱石1・チャート1・頁岩3である。スクレイパーは最大長2.3～7.7cmと大きさに違いがある。小形の925は両面に調整加工が施されており、石鏃の未製品の可能性もある。926は横形石匙の基部が欠損したのかもしれない。石材は主に頁岩が使用されている。凹石は皿状のものと四角形状のものがあり、930は片面に研磨痕が認められる。928・929は片面に研磨痕を残すもので、定形的な石皿ではないと思われる。927は大形の石棒で、頭部を欠く。器表面を敲打して、円筒形に仕上げている。

第Ⅳ章　まとめ

第1節　牛岡遺跡出土の樹種について

山内　文

調査を行った出土材は、縄文土器包含層からの流木である。資料はすべて切片を作り、検鏡の上、樹種の同定を行った。判明した樹種はマツ、カシ、ケヤキおよびコクサギの4種である。

以下に樹種の同定に利用した材の解剖学的特徴を簡単に記すが、前回報告（『牛岡遺跡Ⅰ』1995）の樹種と重なるマツおよびカシについては、材識別の記載は省略する。

マツ属1種　Pinus sp.　アカマツ又はクロマツ（P. densiflora or P. thunbergii）1点

No.1

カシ（アカガシ属）　Cyclobalanopsis　2点

No.2，No.3

材は赤色、年輪幅はきわめて狭く、道管の切口は円形、その接線径は～200μm、厚膜。大形の結晶を含有する木部柔細胞組織が多数存在する。広放射組織は幅～750μmに到り、きわめて広い。これらのことからアカガシである可能性が高いと考えられる。2点出土して多少の相違があるが、切片の採取の際の部位の相違の可能性が高いと考えられるが、ここでは単にアカガシ属とした。

ケヤキ　Zelkova serrata　13点

No.4～No.16

環孔材。孔圏は1層、小道管は花葉状に集合する。放射組織は異性、1－12細胞列、時に結晶細胞が存在し、大形の結晶を含有する。

Ⅰ群；No.4，No.9

極めて木理の錯綜した部位。

Ⅱ群；No.6，No.8，No.10，No.12，No.13，No.15，No.16

年輪幅が350～400μmと極めて狭い。組織は疎で、根材様である。

Ⅲ群；No.5，No.7，No.11，No.14

上記の材の記載を持つ材であり、ケヤキの特徴を持つ。

しかし、いずれも普通に利用されている地上部の正常材の組織とは相違している。資料は13点あるが、これらは地上部は早くに失われ、地下部に埋もれていた部分で、組織の所見から1個体の各部位である可能性も考えられる。

コクサギ　Orixa japonica　1点

No.17

紋様孔材。道管の穿孔板は単、道管に薄い螺旋肥厚が認められた。道管と放射組織との交わる部分の膜孔は大形である。放射組織は異性、1－2細胞列。

いずれの樹種も暖帯の谷間の林などに普通に見られ、別して特別な種類ではない。

表2　樹種同定資料一覧

番号	出土地点	層　位	樹種	遺物No	番号	出土地点	層　位	樹種	遺物No
1	E－24	SD－17上層	マツ	2496	10	E－24	5層	ケヤキ	2232
2	E－23	5～6層	カシ	2211	11	〃	〃	〃	2234
3	E－24	5　層	〃	2305	12	〃	〃	〃	2235
4	〃	〃	ケヤキ	2001	13	〃	5～6層	〃	2242
5	〃	〃	〃	2205	14	〃	5層～SD－17上層	〃	2245
6	〃	〃	〃	2206	15	〃	5層	〃	2308
7	〃	5～6層	〃	2207	16	〃	5～7層	〃	2321
8	〃	5層	〃	2208	17	〃	6層	コクサギ	2262
9	〃	〃	〃	2209					

第2節　出土土器の型式とその編年について

第Ⅲ章第5節で述べたように、出土土器は縄文早期末から中期末に及び、施文等の特徴から11群に分かれ、さらに細かく分類される。ここでは従来の土器編年研究をもとにして、各群各類の型式とその編年的位置付けについて検討したい。

Ⅰ期の土器

1群土器は明瞭な隆帯は見られないが、塩屋式に比定される。塩屋式は関東地方において神之木台式との伴出が伝えられており、早期末に位置付けられる。2群土器は前期前半の木島Ⅶ式（渋谷1982）であり、愛知県知多半島でいう清水之上Ⅰ式と共通する土器である。3群土器は前期後半の北白川下層Ⅱ式であり、a類は連続爪形文の施文方法からⅡa式とⅡb式（網谷1982）に分かれる。4群土器は小破片1点のみで不明瞭であるが、大歳山式に比定されると考えられ、前期末に位置付けられる。

Ⅱ期の土器

1群土器は中期前半に位置付けられる。a類は五領ヶ台Ⅱ式であり、b類は東海地方の北浦CⅠ式（増子1981）に比定される。北浦CⅠ式は関東の五領ヶ台式の影響のもとに成立すると考えられており、類似した要素が見られる。c類はb類に比べてより後出的要素を持っており、大畑遺跡における仮称大畑C－2式（松井1982）に対比されると思われる。また、北浦CⅠ式直後型式とされる島崎Ⅰ式と類似する点も多い。2群土器a類は、中期中葉の愛知県の三河湾を中心に分布する北屋敷式である。b類は胎土や器形から北屋敷式の後出要素として捉えて本群に含めたが、中期後半に位置付けられる可能性もあり、疑問が残る。3群土器は勝坂式であり、中でも新しい段階と考えられる。勝坂式は2群土器a類の北屋敷式と併行関係にある。

Ⅲ器の土器

1群土器は中期後半の船元・里木式系と考えられる土器である。瀬戸内地方を中心に分布する本来の船元・里木式（間壁1971）に比べ、地文・文様構成・底部形態等に地域性が認められる。地文の違いからA群～D群に分けた。1A群は縄文を地文する土器である。a類とb類は地文の施文方法に違いが見られるが、船元Ⅳ式に対比される。c類は文様構成から船元Ⅲ式B類に比定される可能性を持つ。d類～f類は里木Ⅱ式以降に成立した在地系の土器と考えれる。単純に対比することはできないが、これらの土器は仮称東鎌塚原式（渋谷1989）と共通する点が多く見られる。仮称東鎌塚原式は「曽利Ⅲ式＋咲畑式系土器により成立した在地の土器」とされ、曽利Ⅲ式・曽利Ⅲ～Ⅳ式との伴出が確認されている。

1 B群は撚糸を地文とする土器で、里木II式に対比される。d類は里木II式には見られない区画文が認められ、加曽利E式の影響を受けたものと考えられる。本来的なa類に比べ、d類はより新しく位置付けられるのかもしれない。1 C群は条線を地文とする土器で、里木III式に対比される。a類・b類は本来的であり、c類～f類は在地的要素が強く認められる。1 D群は地文を持たない土器で、1 B群あるいは1 C群に伴うものと考えられるが、はっきりと判別できない。従来の編年研究からすると、1 B群から1 C群への型式変化が考えられるが、文様構成や器形にあまり大きな変化が見られない等疑問が多い。長者平遺跡では両者が伴出しており、中期III群A類と分類したこれらの土器について、「祖型的には近畿・中国地方に求められる。おそらく里木II式土器段階に東海地方の海岸域を経由して伝播したと考えられ、3種の施文手法や撚糸文・細条線が併存するなど、a類土器はすでに当地方としての独自の発展を遂げている。」（吉岡1984）としている。今回の調査では、遺構での伴出関係が捉えられていないため明確にできないが、1群土器の編年的整理が今後の大きな課題になると思われる。

2群土器は中期後半の曽利式（鈴木保彦他1980）系と考えられる土器で、地文の違いからA～F群に分けた。2 A群は平行沈線を地文とする土器で、a類は曽利II式、b類は曽利II～III式、C類は曽利III～IV式に比定される。2 B群は条線を地文とする土器でa類は曽利III式、b類は曽利III～IV式に比定される。2 C群は刺突文を施す土器でa類は曽利II式、b類とd類は曽利III～IV式、c類とe類は曽利IV～V式に比定される。d類は千居遺跡等県東部地方に類例が見られる。2 D群は縄文を地文とする土器で、a類は曽利II式、b類とc類は曽利II～III式、d類～f類は曽利III式に比定される。f類は加曽利E式に類似しており、より下る可能性がある。2 E群は地文不明あるいは地文を持たない土器で、a類は曽利II式、b類は曽利III～IV類に比定される。2 F群は胎土や文様等から伊那地方に分布する曽利式系土器と考えられ、曽利II～III式に比定されると思われる。

3群土器は中期後半～末葉の加曽利E式（鈴木保彦他1980）系土器である。a類とb類は加曽利E III式に比定されるが、a類はb類に比べ質感があり、より古く位置付けられるものと思われる。c類は加曽利E IV式、d類は加曽利E III～IV式に比定されるが、d類の区分は難しい。e類は西南関東地域を中心に分布する連弧文土器で、加曽利E III式に併行するものと考えられる。

4群土器は、加曽利E式併行の中期後半～末葉に位置付けられる在地系と考えられる土器である。a類は結節縄文を特徴とする広野C式土器（加藤1972・向坂1981）と仮称されているもので、加曽利E III～IV式に併行すると考えられる。こうした特徴の土器は、長野県南部から静岡県西部にかけて広く分布することが知られている（神村1978）。b類の多くは広野C式に比定されると思われるが、一部は加曽利E IV式に併行するものと思われる。

第3節　おわりに

牛岡遺跡は従来知られていなかった遺跡であり、今回の調査によって初めてその存在が明らかとなったものである。調査の結果、当遺跡は縄文時代・奈良時代～江戸時代の複合遺跡であることが確認できた。奈良時代～江戸時代の調査については、すでに「牛岡遺跡1」として報告しており、本書では下層から確認された縄文時代の遺物包含層の調査について報告した。

今回の調査で縄文時代の遺物包含層を確認できたのは、この調査地点が畑地や宅地として上層が削平されていたことによるもので、全くの偶然と言える。当初、奈良時代以降の遺構確認面である黄褐色土（1層）下に、遺物包含層の存在は全く考えられず、しかも低地との比高差数mの低位段丘部分に縄文時代の遺跡の存在は全く予想されなかったからである。第III章で述べたように、確認された遺物包含層は、逆川あるいはその支流からの堆積層と考えられ、これらの堆積は調査所見からは急激に進んだものと推測される。堆積の時期は特定できないが、少なくとも1層の堆積は出土土器から縄文時代晩期以降

と考えられる。出土土器はほとんど壊滅しておらず、付近から流れ込んだものと理解できる。しかし、これら包含層の基底と考えられる旧自然堤防上からは、遺構は検出されなかった。このような状況からは、本来、自然堤防上あるいは丘陵裾部分に営まれていた遺跡が、洪水等によって洗い流されてしまった結果とも推測でき、おそらく遺跡の性格としては集落跡であったと考えられる。いずれにしても市内縄文時代の遺跡のほとんどが、丘陵上あるいは中・高位段丘上に立地するのに対し、当遺跡の立地は特異と言える。隣接するメノト遺跡や栗下遺跡も同様の状況であり、この地域の縄文時代の遺跡立地に今後注意していく必要がある。また、当遺跡北側の丘陵上には早期・中期の集落跡である向畑遺跡があり、南側のメノト遺跡からは後・晩期の遺物が確認されている。これら周辺遺跡と当遺跡の関わりについても興味のある問題であり、今後検討されていく必要があろう。

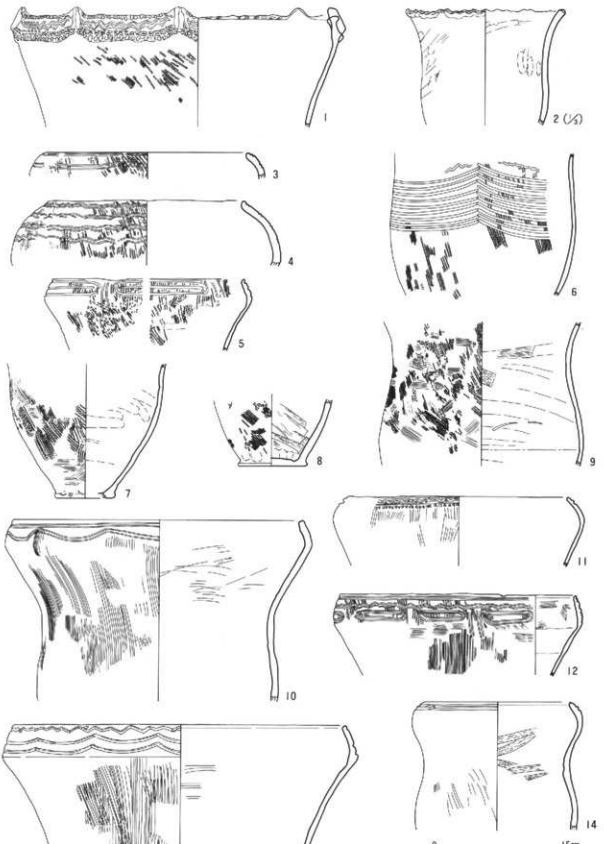
すでに述べてきたように、包含層からの出土遺物には土器・石器等があり、そのほとんどを土器が占めている。出土土器は縄文時代早期末～中期末に及び、若干ではあるが晩期の土器も認められている。早期末～中期中葉の土器の出土量は全体的に少なく、中期後半の土器が圧倒的多数を占める。早期末～中期中葉の土器は、型式的な隙間は見られるものの、継続的に認められており、当遺跡が小規模ながら継続的に営まれていた様子をうかがうことができる。中期後半になって当遺跡は飛躍的に拡大し、後期と考えられる土器が認められていないことからも中期末には衰退していったものと考えられる。このような状況は、当地域の縄文時代の遺跡の分布状況とほぼ共通しており、当遺跡はその典型的遺跡と考えられ、逆川流域における中核的な遺跡であった可能性をうかがわせている。出土した土器の型式を見ると、各時代毎に地域的な変遷が認められる。早期末～中期中葉までは東海あるいは近畿地方の土器が主体となり、中期後半になって主体は中部高地や関東地方の土器に変化していく。中期後半の初めは近畿・中国地方と中部高地の両者が同等に認められ、その後は関東地方の土器へ推移したと考えられる。このような中、在地性の強い土器も見られるようになって行ったものと思われる。出土土器の編年的位置付けについては、III期1群土器とした船元・里木式系の土器の位置付けに課題が見出される。東遠地域において、これだけ多くこれらの土器が出土した例は初めてであり、III期1群の土器については今後さらに検討される必要があろう。

調査ならびに本書の作成に当たっては、多くの方々のご指導・ご助言・ご協力をいただいた。末尾ながら、この場をかりて深くお礼を申し上げたい。

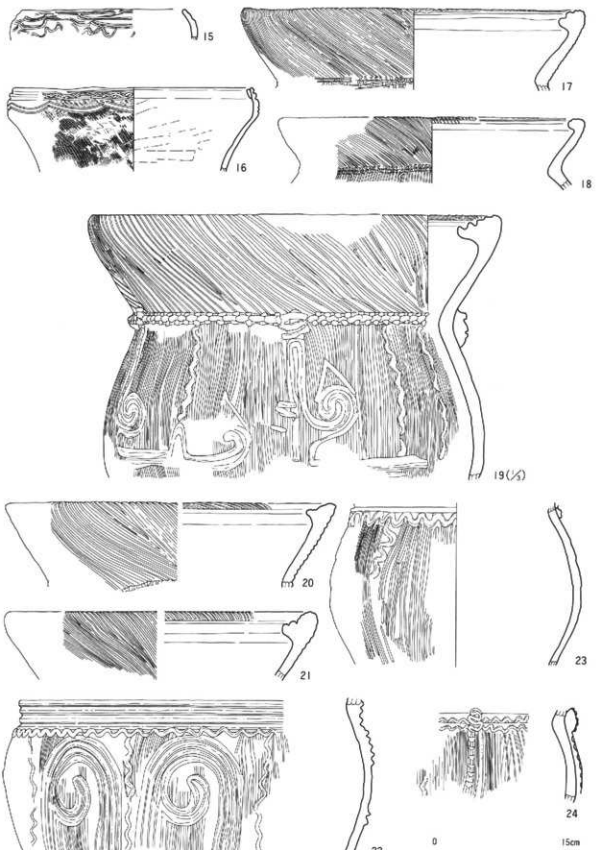
＜参考文献＞

向坂　鋼二　1992　「第2節　縄文時代の重要遺物」『静岡県史（資料編3）』静岡県
渋谷　昌彦　1982　「木島式土器の研究」『静岡県考古学研究11』静岡県考古学会
渋谷　昌彦　1989　『東鎌塚原遺跡～発掘調査報告書～』島田市教育委員会
嶋谷　克彦　1982　「北白川下層式土器」『縄文文化の研究3』雄山閣
増子　康真　1981　「第3章東海地方西部の縄文文化」『東海先史文化の諸段階』
加藤　賢二　1979　「白岩下遺跡―西方川河川改修工事における採取遺物」
『森町考古14号』森町考古研究会
加藤賢二他　1972　「広野C式土器」『なう』No3・5
岩瀬　彰利　1988　「東三河における縄文中期中葉の土器について」
『三河考古創刊号』三河考古刊行会
岩瀬　彰利　1988　「連弧文土器小考」『転機　5号　向坂　鋼二館長退職記念―』
松井　一明　1982　『袋井市大畑遺跡　1981年度の発掘調査概報』袋井市教育委員会

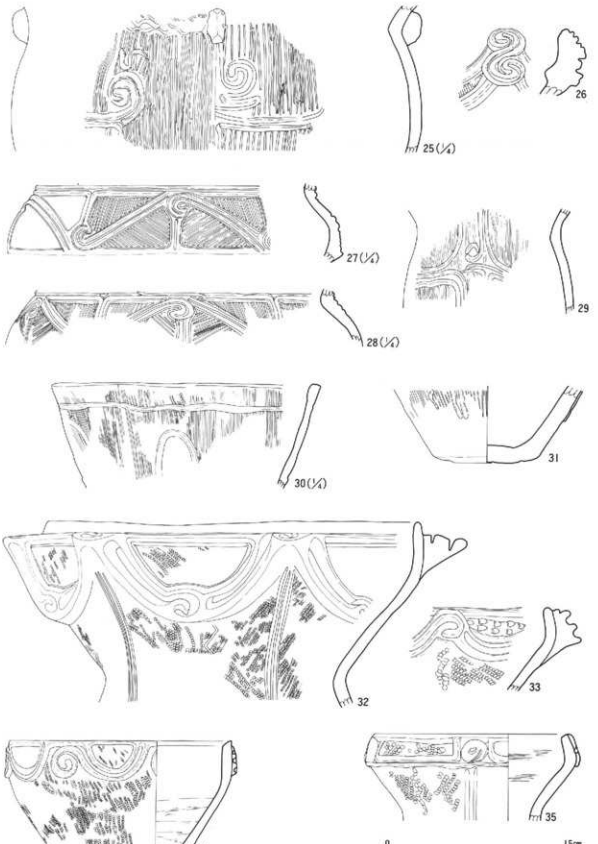
岡嶋　忠彦　1971　「黒木貝塚」『倉敷考古館研究集報第7号』倉敷考古館
吉岡　伸夫　1984　『長者原遺跡～昭和58年度緊急発掘調査報告書～』袋井市教育委員会
末木　健　1981　「曽利式土器」『縄文文化の研究4』雄山閣
鈴木保彦他　1980　「シンポジューム縄文時代中期後半の諸問題　－とくに加曽利E式と曽利式の関係について－」『神奈川考古第10号』神奈川県考古同人会
田中　清文　1984　「伊那谷縄文中期後半土器編年の展開」『中部高地の考古学III』長野県考古学会
桐生　直彦　1981　「連弧文土器」『縄文文化の研究4』雄山閣
大橋保夫他　1972　「広野遺跡」『森町考古17』森町考古研究会
神村　透　「結節縄文をつけた一群の土器－飯山地方縄文中期終末」『中部高地の考古学』長野県考古学会
中・四国縄文研究会　1993　「第4回中・四国縄文研究会シンポジュム－縄文中期土器の諸問題－」
掛川市教育委員会　1984　『掛川遺跡分布調査報告I・II』
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1990　『頭地遺跡・牛岡遺跡・向畑遺跡－平成元年度日坂バイパス埋蔵文化財発掘調査概報－』
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1991　『牛岡遺跡－平成2年度日坂バイパス埋蔵文化財発掘調査概報－』
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1992　『向畑遺跡・社宮寺遺跡－平成3年度日坂バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書－』
掛川市教育委員会　1984　『中原遺跡発掘調査報告書』
菊川町教育委員会　1985　『二沢西原遺跡』
袋井市教育委員会　1981　『袋井市大畑遺跡－1951・1977・1978・1980年度の発掘調査』
富士川町教育委員会　1981　『木島～静岡県富士川町木島遺跡第4次調査報告書～』
新居町教育委員会　1993　『寺川遺跡・天白遺跡・西脇遺跡』
富士見町教育委員会　1987　『曽利－第三・四・五次発掘調査報告書－』
茅野市教育委員会　1990　『棚畑－八ヶ岳西麓における縄文時代中期の集落遺跡－』



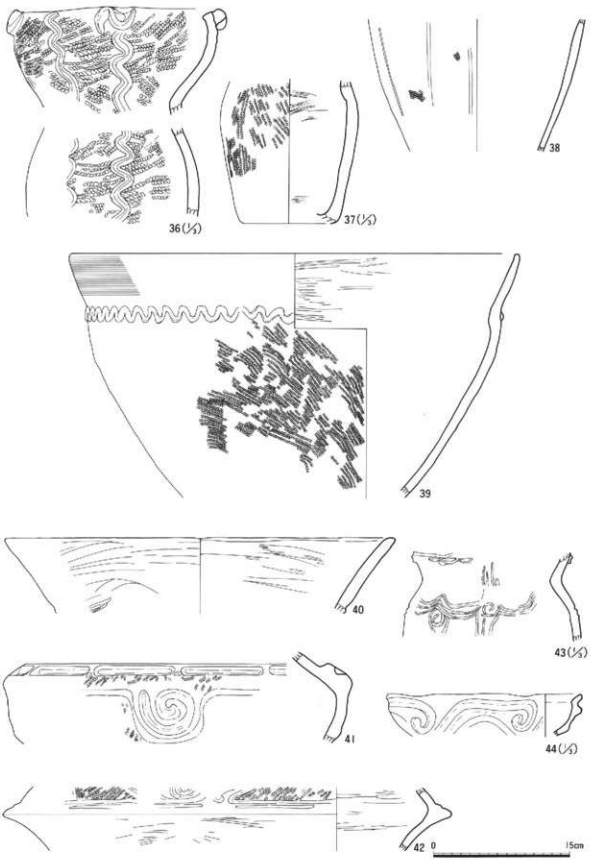
第8図　出土土器実測図(1)



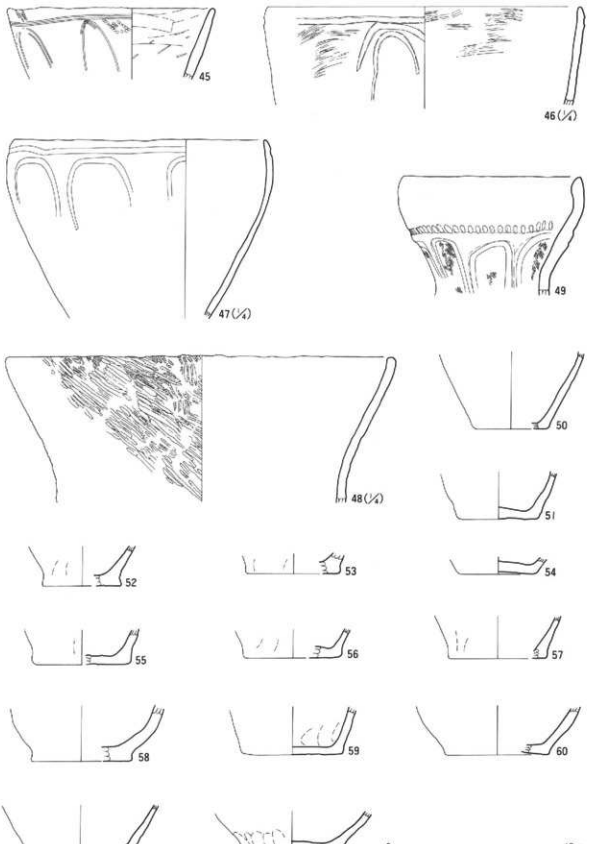
第 9 図　出土土器実測図(2)



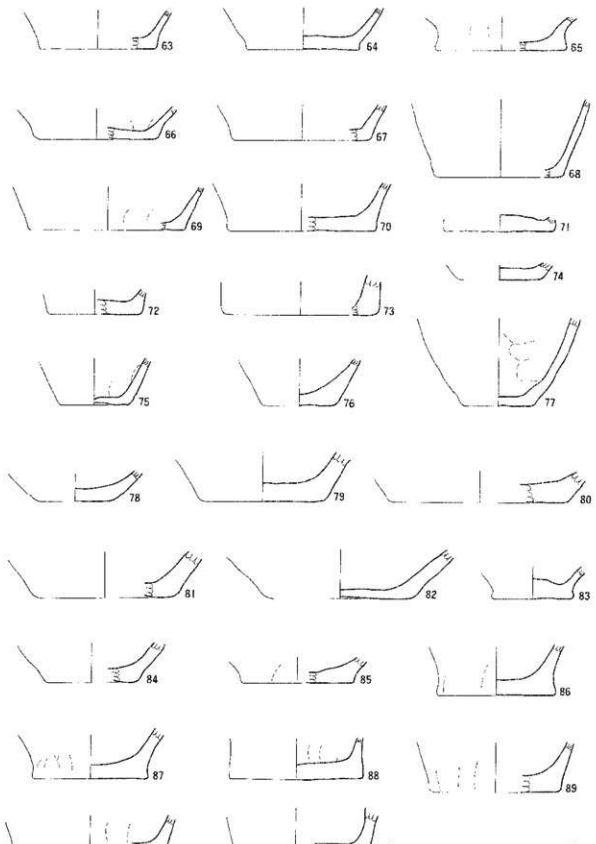
第10図　出土土器実測図(3)



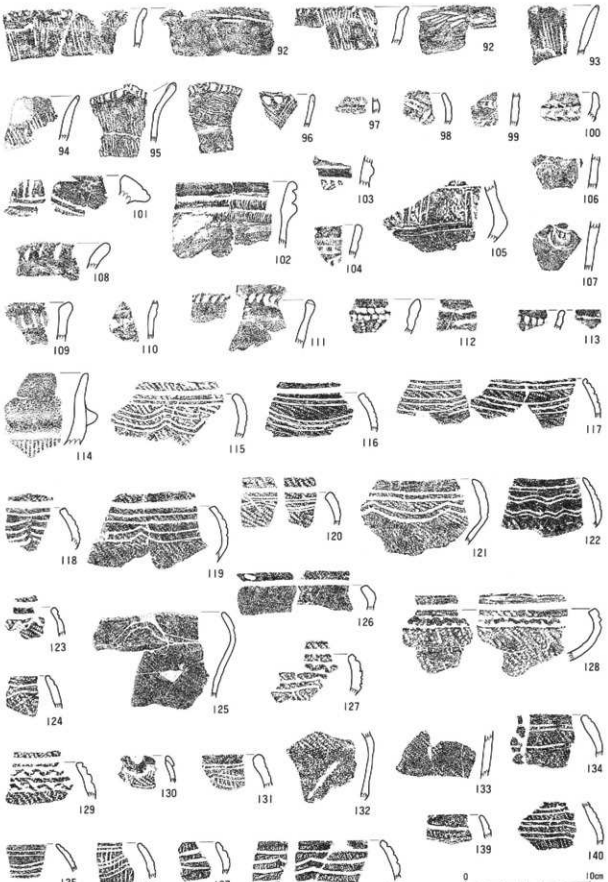
第11図　出土土器実測図(4)



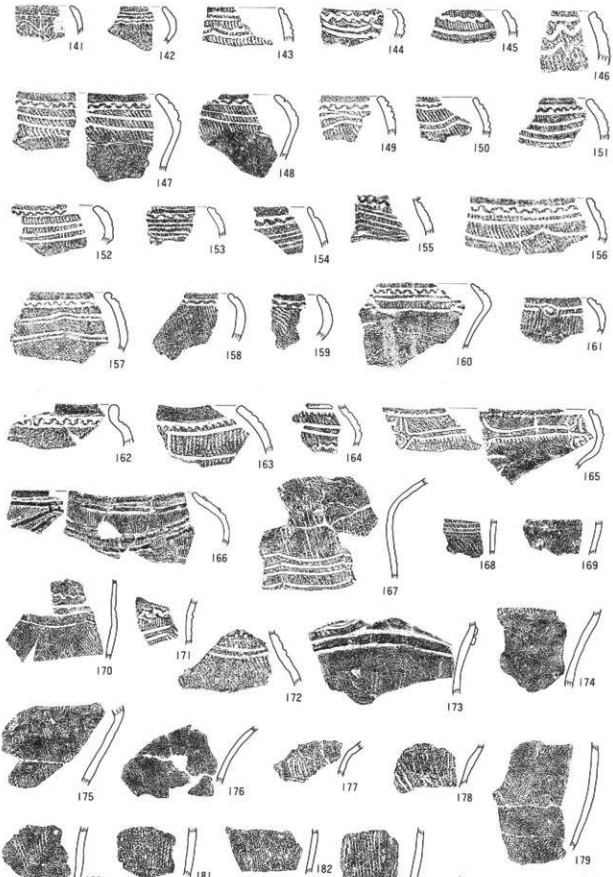
第12図　出土土器実測図(5)



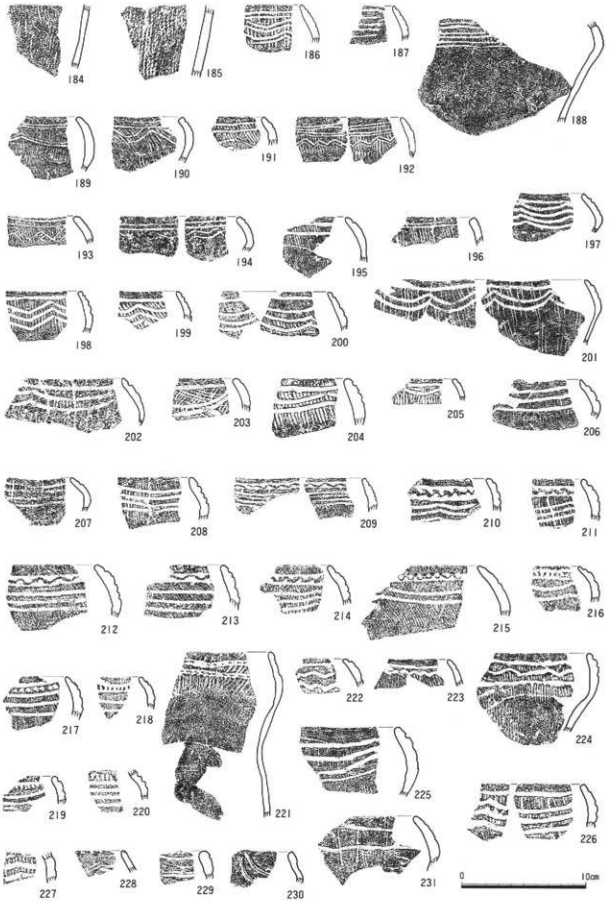
第13図　出土土器実測図(6)



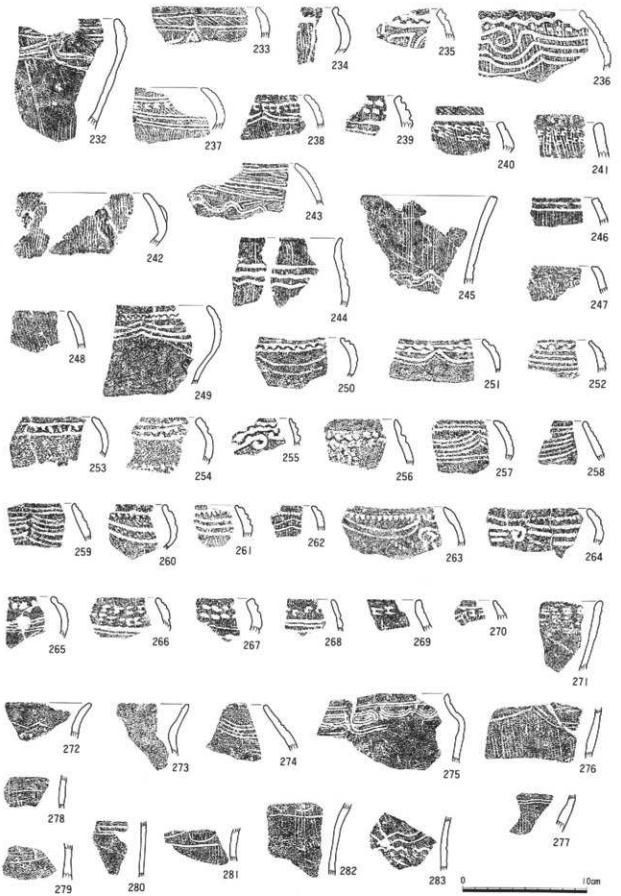
第14図　出土土器実測図(7)



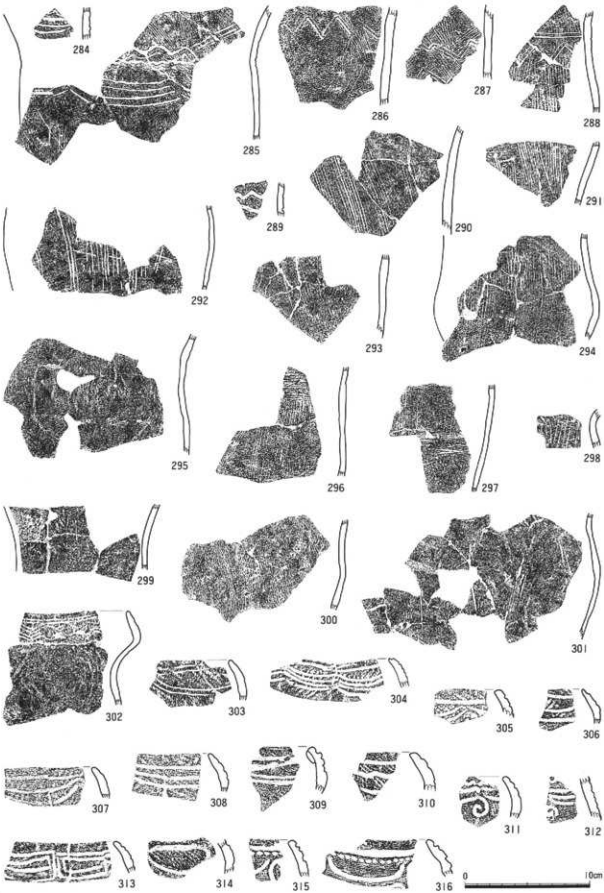
第15図　出土土器実測図(8)



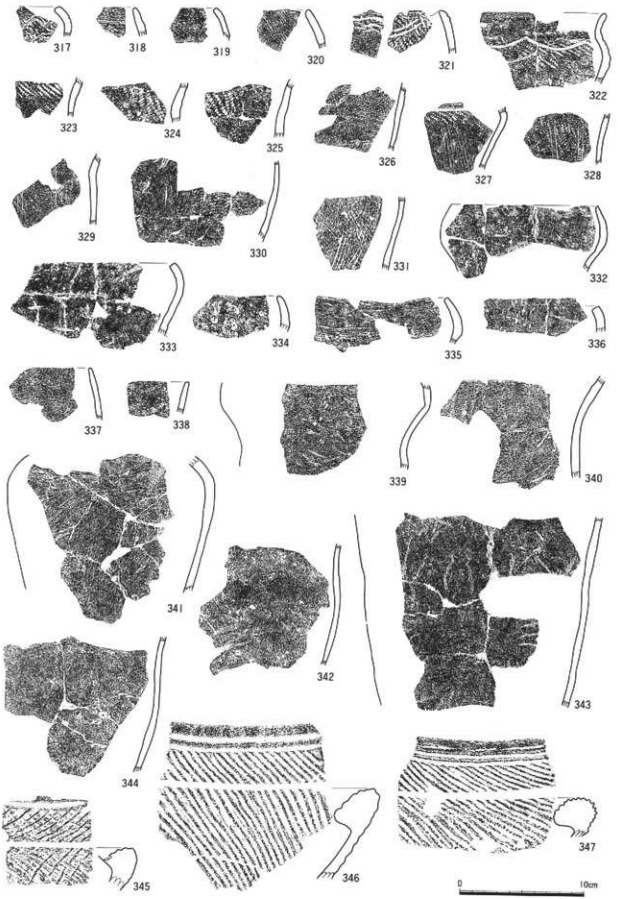
第16図　出土土器実測図(9)



第17図　出土土器実測図(10)



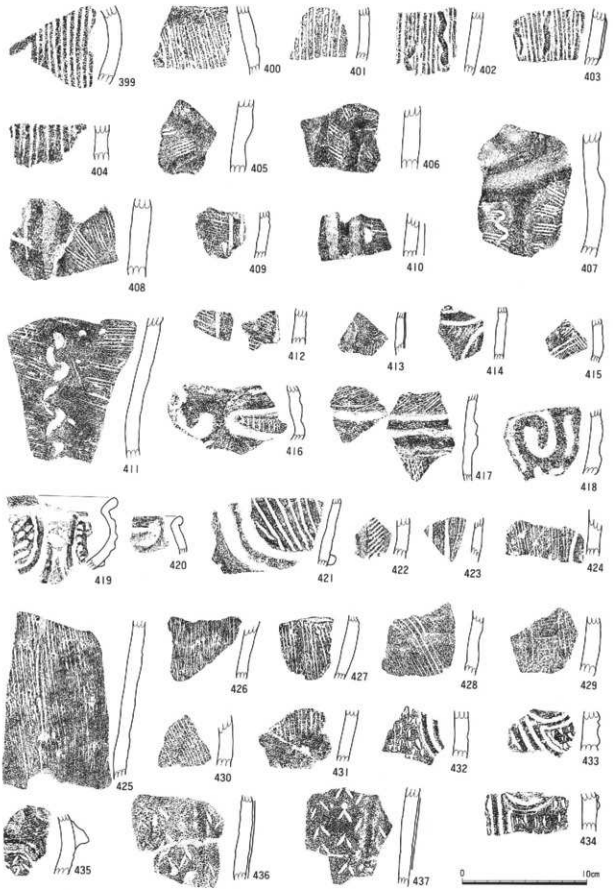
第18図　出土土器実測図(1)



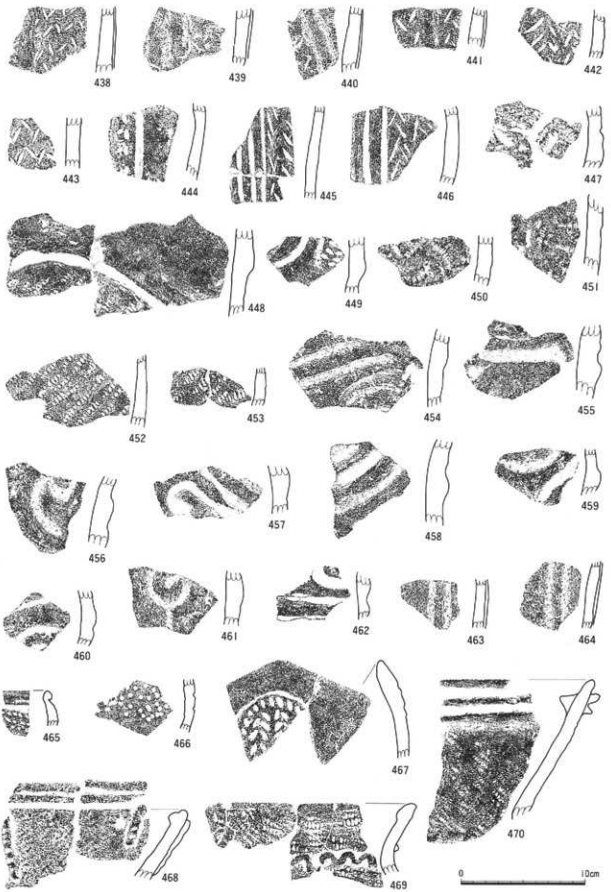
第19図　出土土器実測図(12)

第20図　出土土器実測図(13)

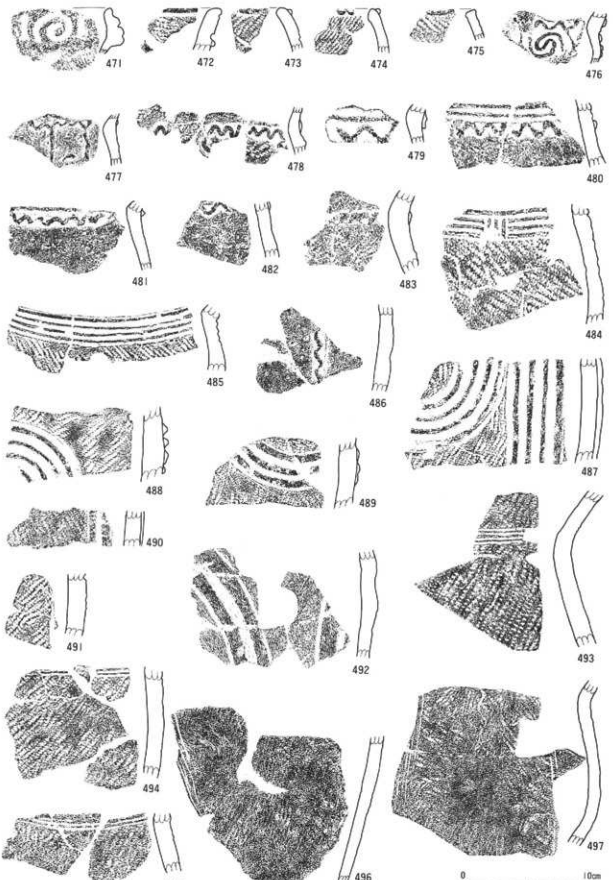
第21図　出土土器実測図(4)



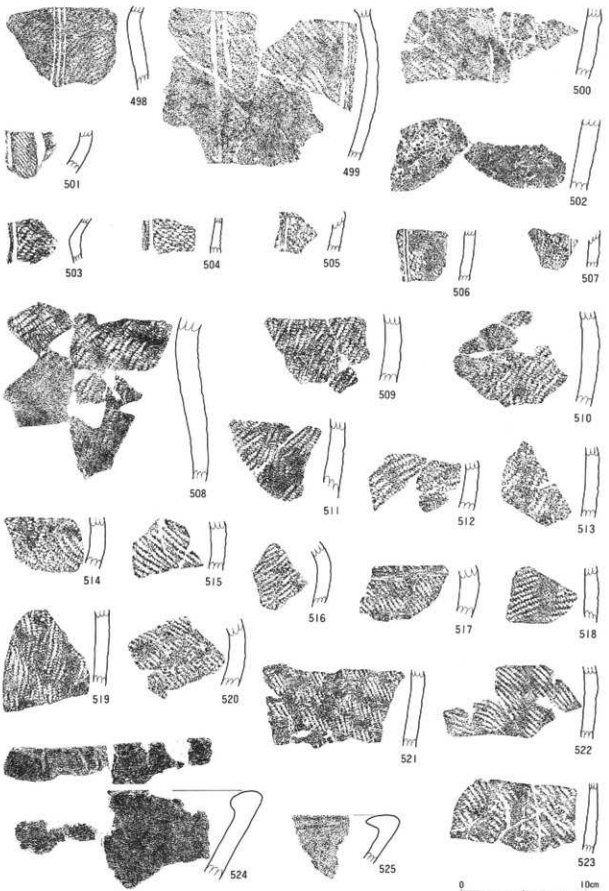
第22図　出土土器実測図(15)



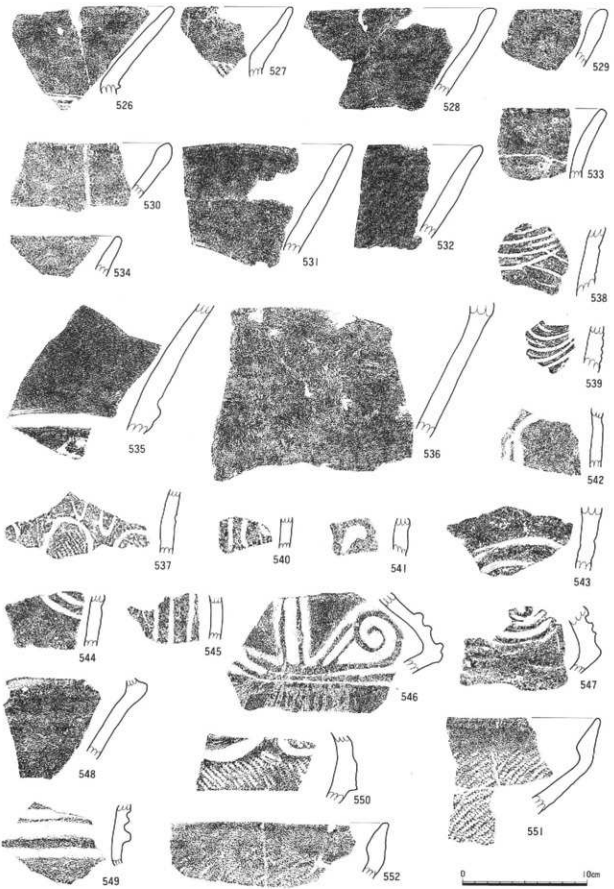
第23図　出土土器実測図(6)



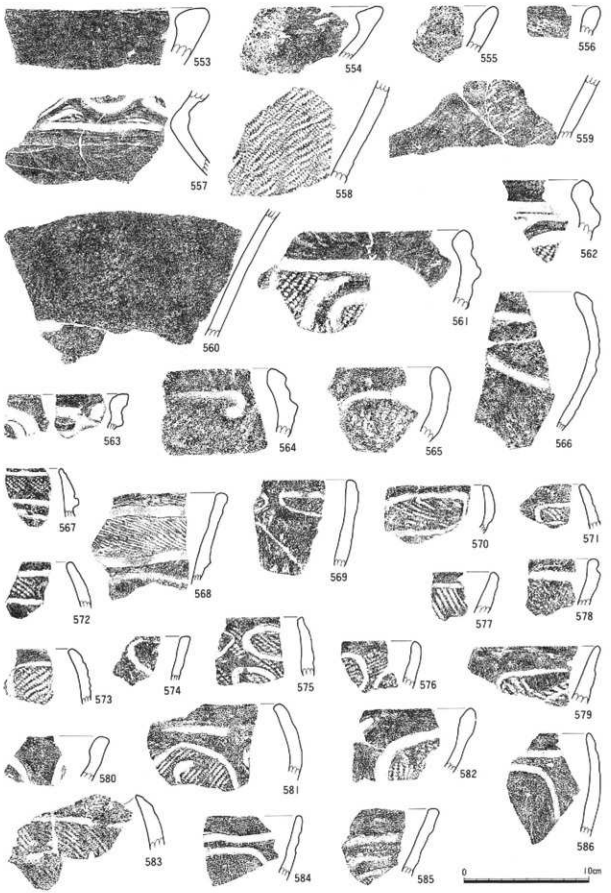
第24図　出土土器実測図(17)



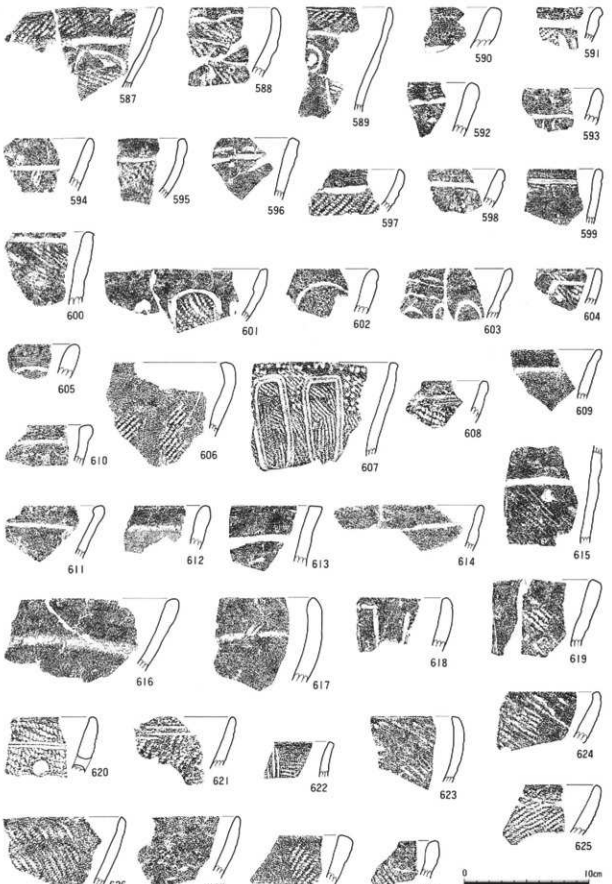
第25図　出土土器実測図(18)



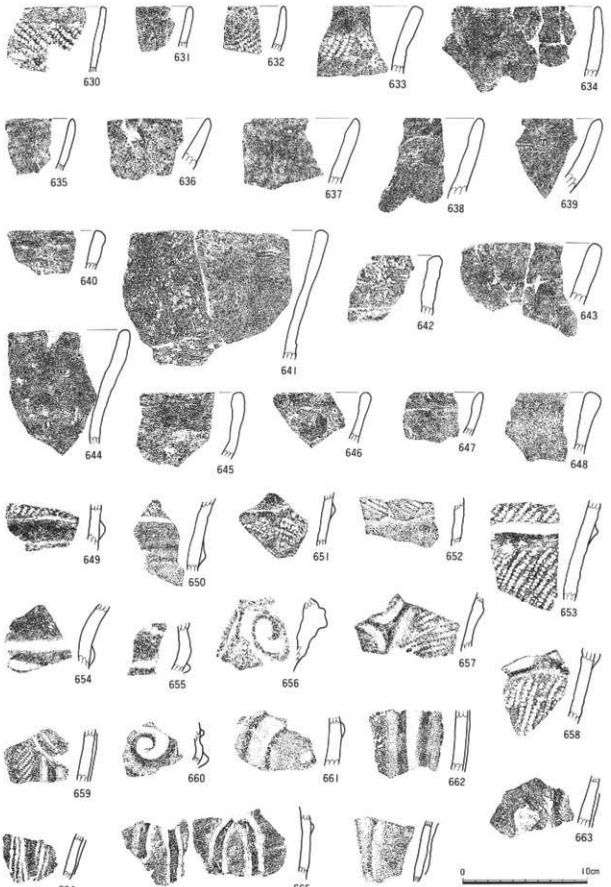
第26図　出土土器実測図(19)



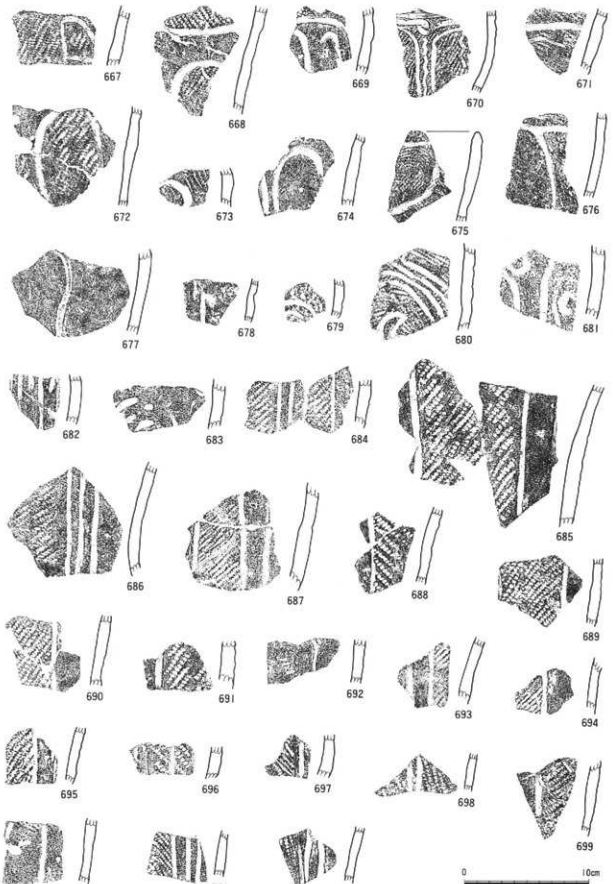
第27図　出土土器実測図(2)



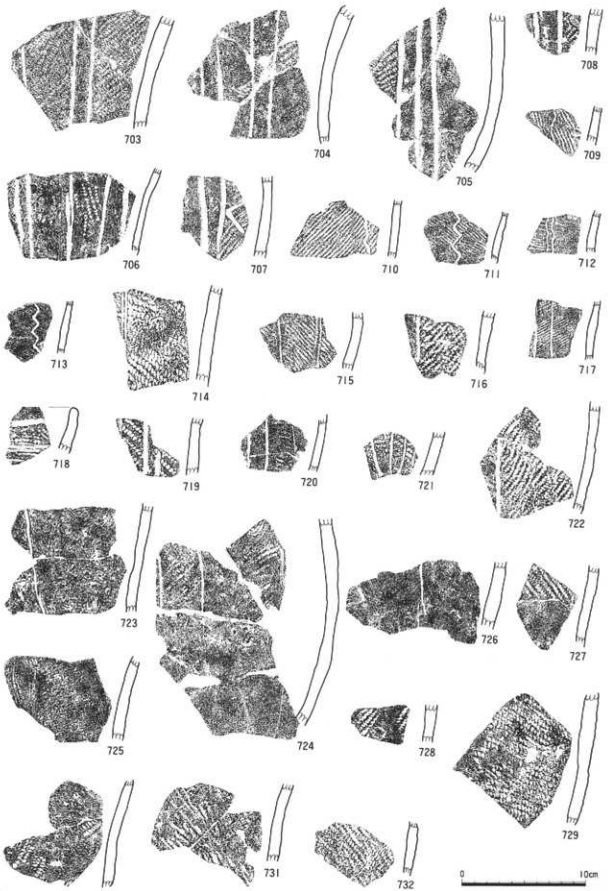
第28図　出土土器実測図(21)



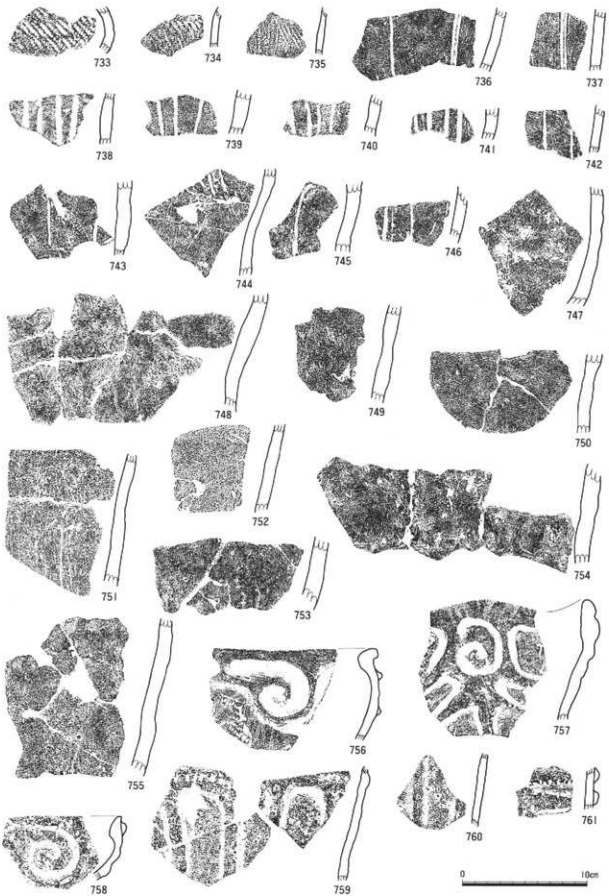
第29図　出土土器実測図(2)



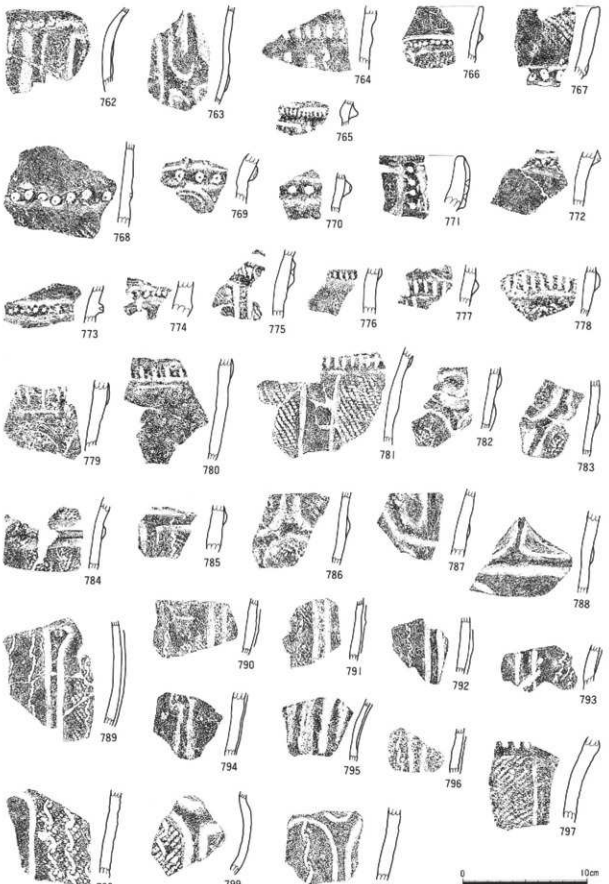
第30図　出土土器実測図(23)



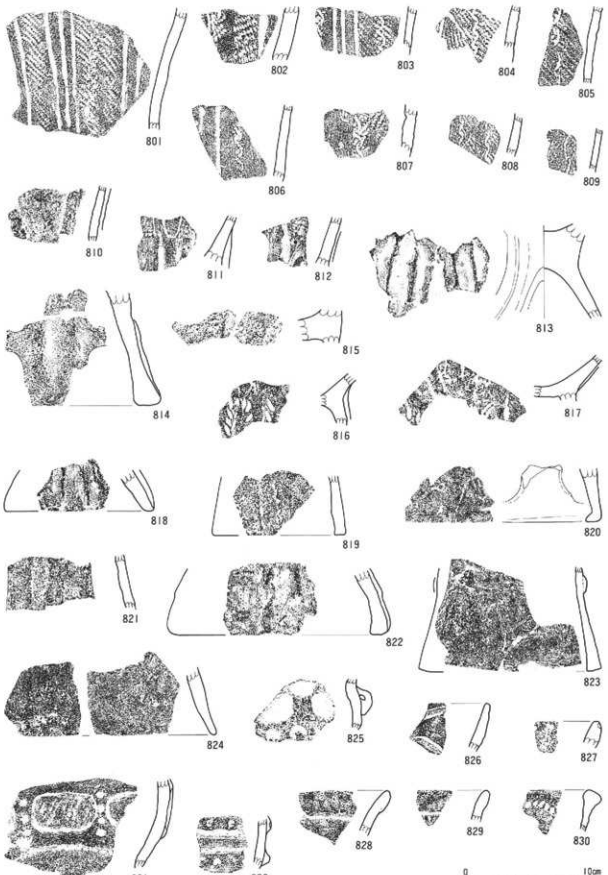
第31図　出土土器実測図(4)



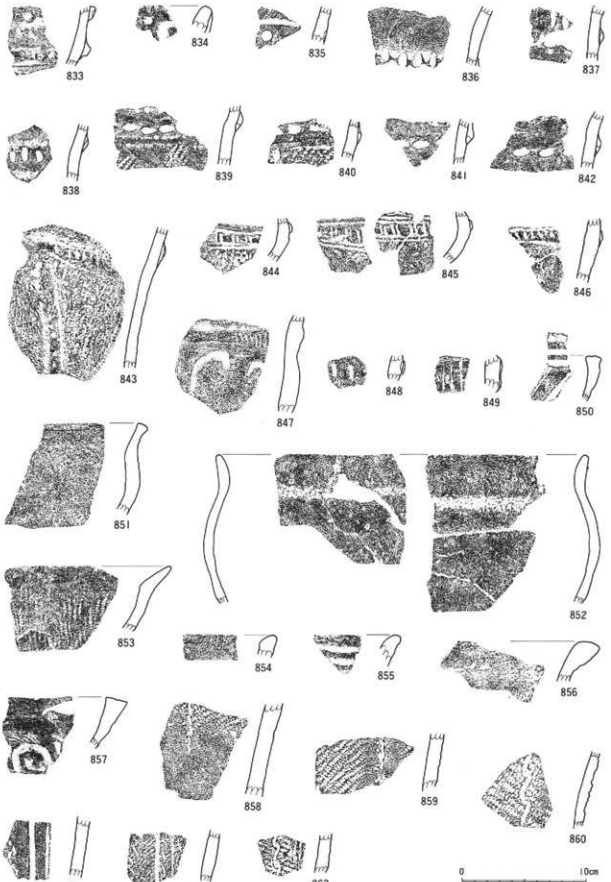
第32図　出土土器実測図(25)



第33図　出土土器実測図(26)

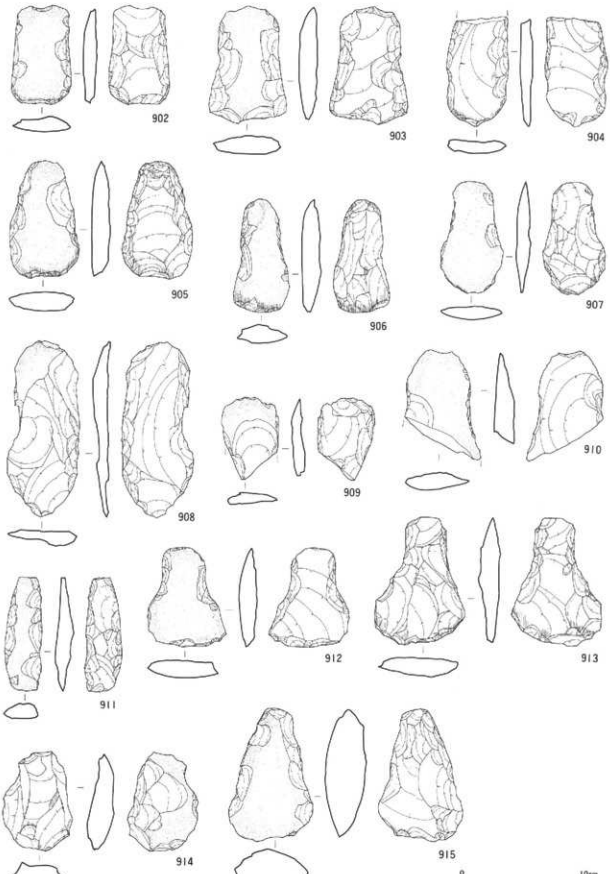


第34図　出土土器実測図(27)

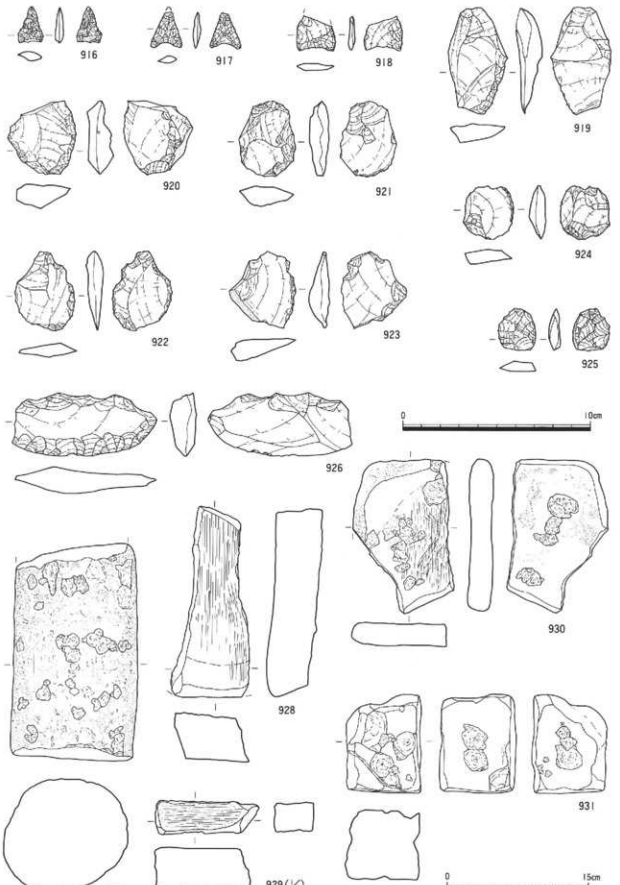


第35図　出土土器実測図(78)

第36図　出土土器実測図(29)



第37図　出土石器実測図(1)



第38図　出土石器実測図(2)

表3　出土土器観察表（色調は『新版標準土色帖』による）

番号	出土位置	色調	特徴
1	5区F22-11層・G21 11層 6区F24 10層・12層上	にぶい黄褐色10YR4/3	細かな縄文地文。波状口縁。隆帯により文様帯を区画。半截竹管による波状文と列点状の刺突文。口唇部にも列点状の連続刺突文。口径(34.2)cm
2	6区F24 10層・11層	暗褐色7.5YR3/3	内外面にナデ。一部擦痕を残す。口唇部に半截竹管による列点状の刻み。口径(12.6)cm
3	6区E24 SD17	橙色2.5YR6/8	撚糸地文。半截竹管による平行線文と波長の長い弧線文。口径(22.0)cm
4	5区F21 9層・F22-9層・F23-8層	にぶい褐色7.5YR5/4	撚糸地文。半截竹管による4条の波状文。胎土砂質系。口径(21.2)cm
5	5区F22-9層・10層・11層・SD17	灰褐色7.5YR4/2	撚糸地文。沈線（ヘラ状工具）による長楕円形状の区画文。区画間に2条の縦位の沈線文。口径(20.8)cm
6	5区F21 9層	にぶい褐色7.5YR5/3	撚糸地文。胴部に1条の波状文と半截竹管による多条の弧線文。
7	6区E23 11層・SD17	褐灰色10YR4/1	撚糸地文。下部はナデ。底径(6.4)cm
8	6区E24・SD17	灰色5Y6/1	撚糸地文。平底で、やや外に張り出す。底径7.8cm
9	5区F21 9層・11層・F22-8層・9層 G21-8層・10層G22-8層	灰褐色7.5YR6/2	撚糸地文。下半部はナデ。
10	6区E25-10層・F24-10層・12層上 F25 10層	にぶい黄橙色10YR6/3	条線地文。半截竹管による平行文と波長の長い波状文。口径32.0cm
11	6区E24-10層	灰黄色2.5Y6/2	条線地文。交互刺突による波状文と小さな竹管による連続刺突文。口径(24.0)cm
12	6区F24 10層・11層・12層上	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。半截竹管による平行線文、波状文と楕円形区画文。一部に縦位の平行沈線文。口径(26.0)cm
13	5区F21 7層・F22 8層・9層	黒褐色10YR3/2	条線地文。口縁部付近ナデ。棒状工具による太い波状文と弧線文。口径(36.4)cm
14	5区F22 6層・8層	にぶい橙色7.5YR6/4	外面にナデ。一部に浅い条線。半截竹管?によるやや太い平行線文。口径16.0cm
15	5区F21-7層・14層	褐灰色7.5YR4/1	横斜の条線地文。竹管による複雑な平行線文、弧線文と波状文。口径(18.0)cm
16	5区F22-11層	黒褐色10YR2/3	縄文地文。口縁部内面に隆帯貼付。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。243と同一か。口径(26.2)cm
17	5区F23-10層・G21-10層	暗赤褐色5YR3/4	口縁部は内傾、端部に隆起文。頸に竹管による刺突文を施す。口径(37.6)cm
18	6区E24 SD17	にぶい黄褐色10YR5/2	細かい平行沈線地文。口唇部に細い沈線文。頸部に横位の隆帯、隆帯上に竹管による刻み。粘土紐貼付による波状の懸垂文。口径(33.4)cm
19	5区F21 8層	灰黄褐色10YR6/2	平行沈線地文。胴部は細かい平行沈線。頸部に隆帯をめぐらし、刺突と刻みを施す。頸部下に粘土紐貼付による波状文・渦文等。口径34.0cm
20	6区F24 5層	暗褐色7.5YR3/3	平行沈線（半隆起線文状）地文。口唇部に隆帯貼付。口径(44.4)cm
21	5区F22-9層、6区F24 10層	にぶい橙色5YR7/4	細かな平行沈線（半隆起線文状）地文。口唇部に隆起線文。口径(40.6)cm
22	5区F22-8層・9層、6区F25-8層・10層	灰褐色7.5YR4/2	平行沈線（半隆起線文状）地文。頸部に横位の隆起線文。頸部下に粘土紐貼付による波状文と隆起線文による区画文と渦文。胎土に砂粒目立つ。
23	6区E23-SD17	灰黄色2.5Y7/2	細い平行沈線地文。頸部下に粘土紐による横位の直線文と波状文。胎土堅緻。
24	5区F23	黒褐色10YR3/2	細かい平行沈線地文。頸部に突起。縦横位の隆帯。粘土紐貼付による波状文。縦位の隆帯の一方に竹管による刻み。胎土に砂粒多く含む。
25	5区E24-8層	灰黄褐色10YR6/2	平行沈線地文。頸部に楕円形状の突起と粘土紐貼付による波状文。胴部に粘土紐貼付による区画文と渦文。
26	6区E24-10層	暗赤褐色2.5YR3/6	平行沈線地文。隆帯による区画文と、逆S字状の突起。
27	6区F24-8層・9層・15層上	にぶい橙色7.5YR7/4	平行沈線地文。隆起線文による区画文、渦文を施す。
28	6区F25 5層・7層	灰黄褐色10YR6/2	平行沈線地文。隆起線文による区画文と渦文。
29	6区E25 8層	褐色7.5YR4/3	平行沈線地文。沈線による区画文と渦文等。
30	6区E24-9層・SD17	にぶい黄褐色10YR5/3	細かい平行沈線（櫛状工具）地文。半截竹管による弧線文と逆U字状の区画文。
31	5区F21 14層	にぶい褐色7.5YR5/4	細かい平行沈線地文。粘土紐貼付による波状と平行線の懸垂文。底径(8.6)cm
32	5区F21-8層・9層・F22 11層・12層上 G21 7層、6区E24 9層・10層・SD17	黒褐色5YR3/1	縄文地文。広い隆帯による区画文と渦文、半截竹管による懸垂文。
33	5区F22-7層	褐色7.5YR4/4	細い結節縄文を地文。隆帯による区画文と渦文。区画内に竹管による刺突文。
34	5区F21 8層・F22 SD17・G21-15層上 6区F24-15層上・F25-10層	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文。隆帯による区画文と渦文。
35	6区E24 SD17	にぶい褐色7.5YR5/4	結節縄文を地文。口縁部は内傾し、端部は小さく外反。粘土紐貼付による区画文と渦文。半截竹管による懸垂文。
36	6区E23 SD17	にぶい褐色7.5YR5/4	粗い縄文地文。口縁部は平坦で内傾。口縁部に逆S字状の貼付文。半截竹管による波状の懸垂文。口径16.0cm
37	5区F22 9層・G21 11層 6区E25-8層・F24-8層・10層	にぶい赤褐色5YR5/4	縄文を地文。下部はナデ。平底。胎土に砂粒目立つ。底径7.4cm
38	6区E25 3層	橙色5YR6/6	縄文地文。表面剥離。沈線（棒状工具）による懸垂文。
39	5区F22 SD17・G21-11層・15層上	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文。口縁部は無文。頸部に粘土紐貼付による波状文。
40	6区E23-9層・F25-5層	にぶい黄橙色10YR6/4	内外面に丁寧なナデ。口縁部は直線的に開き、頸部内面は外傾する。
41	6区E24 7層・8層	黒色2.5Y2/1	甕。縄文地文。太い隆帯による区画文と渦文を施す、区画文間に円形の刺突文。
42	5区F21-8層、6区F24-10層	にぶい赤褐色2.5YR5/4	浅鉢。縄文を地文。内外面にミガキ?。隆帯と沈線による渦文と区画文。

番号	出土位置	色調	特徴
43	6区F24-8層・10層	灰褐色7.5YR4/2	内外面にナデ。半截竹管による渦文、弧線文と懸垂文等。
44	6区E25-3層	にぶい黄褐色10YR5/3	地文不明。隆帯と沈線による渦文。
45	6区F24-1層・2層	褐灰色10YR4/1	縄文地文。半截竹管による平行線文と逆U字状の区画文。比較的薄手。
46	6区E25-3層	黒褐色10YR3/1	内外面にナデ。口縁部下に1条の浅く太い沈線と二重の逆U字状の区画文。
47	6区F23-1層・5層・E24-1層・5層	にぶい黄橙色10YR7/2	地文不明。器壁剥離。口縁部下に1条の太く浅い沈線と逆U字状の区画文。
48	6区E23-5層・F24-1層・5層	灰黄褐色10YR4/2	粗い縄文地文（ややくずれる）。口縁部内面は肥厚し、丸くなる。
49	6区E24-2層・E25-3層	暗赤褐色2.5YR3/2	結節縄文地文。口縁部付近はナデ。口縁部内面肥厚。低い隆帯と沈線による逆U字状の区画文。上部に楕円形状の刺突文。胎土に白色砂粒目立ち、比較的脆い。
50	5区F22-9層	にぶい黄褐色10YR5/4	内外面にナデ。やや上げ底。底径6.0cm
51	6区F24-10層・F24-10層	灰色5Y5/1	内外面にナデ。底部は弱くくびれる。平底。底径6.4cm
52	6区E24-9層	褐灰色7.5YR5/1	外面に縦方向のナデ（指頭痕目立つ）。外面に木葉痕。平底。底径(6.4)cm
53	6区F24-10層	にぶい褐色7.5YR5/3	外面に指頭痕。底部は弱くくびれる。底径(7.4)cm
54	6区E24	暗灰黄色2.5Y5/2	外面に指頭痕。やや上げ底。底径6.0cm
55	6区E25-3層	暗灰黄色2.5Y5/2	外面に指頭痕。底部は弱くくびれる。平底。底径(8.0)cm
56	6区F24-6層	にぶい褐色7.5YR5/4	外面に指頭痕。底部は弱くくびれる。平底。底径(7.6)cm
57	6区F24-8層	にぶい褐色7.5YR5/4	外面に指頭痕。底部は弱くくびれる。底径(8.0)cm
58	6区E24-7層	黄灰色2.5Y5/1	内外面ナデ。底部は強くくびれ、胴部下半に丸み。平底。底径(8.4)cm
59	5区F23-9層、6区F24-8層	灰黄褐色10YR6/2	内面に指頭痕。内面は黒い。平底。底径(8.2)cm
60	6区E25-8層	にぶい褐色7.5YR5/3	外面に指頭痕。底部は弱くくびれる。底径(8.4)cm
61	6区F24-10層	褐灰色10YR5/1	外面に指頭痕。底部から曲線的に開く。底径(8.8)cm
62	6区F24-7層	灰黄褐色10YR5/2	外面に指頭痕。底部は強くくびれる。やや厚手。平底。底径(8.0)cm
63	6区F24	にぶい黄橙色10YR6/3	内外面にナデ。平底。底径(9.4)cm
64	6区E23-7層	灰褐色7.5YR5/2	内外面にナデ。底部は強くくびれる。平底。底径9.2cm
65	6区E24 SD17	灰黄褐色10YR5/2	外面に指頭痕。底部は強くくびれ、突出気味。平底。底径(10.8)cm
66	6区F24-10層	にぶい黄橙色10YR6/3	内外面に指頭痕。底部は弱くくびれる。やや上げ底。底径(10.4)cm
67	5区F22-7層	暗灰黄色2.5Y5/2	内外面にナデ。底径(11.2)cm
68	6区E24・F24-15層上	暗灰黄色2.5Y5/2	内外面にナデ。底部から直線的に開く。底径(10.4)cm
69	6区E24 SD17	灰黄褐色10YR5/2	外面に縦方向のナデ。底径(12.4)cm
70	6区F24-5層	灰黄褐色10YR6/2	外面に指頭痕。平底。底径(12.0)cm
71	5区G21-8層	明赤褐色5YR5/6	内面が黒い。底径(9.4)cm
72	6区E24-SD17	にぶい黄褐色10YR5/3	胎土に砂粒目立つ。底径(7.6)cm
73	5区F21-7層	黒色7.5YR2/1	直線的に立ち上がる。胎土に砂粒多く含む。底径(12.8)cm
74	6区F24-5層	にぶい赤褐色5YR5/4	胎土に長石粒多く含む。底径6.6cm
75	5区F22-8層	にぶい赤褐色5YR5/4	底部外面に凸凹あり（剥離？）。底径(5.6)cm
76	5区G22	にぶい橙色7.5YR6/4	外縁は丸く、やや上げ底。底径6.0cm
77	5区G21-15層上	橙色5YR6/6	内面は黒い。底径5.6cm
78	5区G22	明赤褐色5YR5/6	外縁は丸い。底径(5.8)cm
79	5区F22-12層上	にぶい赤褐色5YR5/4	厚手。胎土に砂粒多く含む。底径(10.4)cm
80	6区F24	にぶい褐色7.5YR6/3	底部外面に沈線状の圧痕。底径(14.4)cm
81	6区E24-SD17	にぶい褐色7.5YR6/3	内外面ナデ。外縁は丸い。底径(11.4)cm
82	5区G22	にぶい橙色7.5YR6/4	外縁は丸い。胎土に砂粒多く含む。底径12.2cm
83	6区E25-8層	黄褐色2.5YR5/3	底部は強くくびれて突出。内面中央部肥厚。底径6.6cm
84	6区E24-1層	にぶい橙色7.5YR6/4	底部は弱くくびれる。外縁に丸み。底径(7.6)cm
85	5区F23-7層	灰黄褐色10YR6/2	底部はくびれてやや突出。底径(8.4)cm
86	6区E23-1層	灰黄色2.5YR6/2	底部から緩やかに湾曲。指頭痕目立つ。底径(9.6)cm
87	6区E24-9層・SD17	暗灰黄色2.5YR5/2	底部から緩やかに湾曲。指頭痕目立つ。底径9.6cm
88	6区D24-8層・E23-5層・E24-10層	黄灰色2.5YR6/1	底部から直線的に立ち上がる。底径10.8cm
89	6区E23-5層	灰オリーブ色5Y6/2	外面に指頭痕。底部は弱くくびれる。底径(10.8)cm
90	6区E24 SD17	にぶい褐色7.5YR6/3	底部は弱くくびれる。底径(12.6)cm
91	6区E24-3層	にぶい黄褐色10YR5/3	外縁は丸い。底径(11.6)cm
92	5区F22-6層	灰黄褐色10YR4/2	口縁部に隆帯貼付。外面に縦位の条痕。口縁部内面に粗い横位の条痕。口唇部に爪形状の刻み。
93	6区E24-10層	にぶい黄褐色10YR5/3	外面に縦位の条痕。口唇部に刻み。下部は剥離痕か。
94	6区F24-10層	暗灰黄色2.5YR5/2	外面に縦位の条痕。口唇部に刻み。93と同一か。
95	6区E24-11層	灰黄色2.5YR6/2	外面に縦位の条痕。内面に横斜の条痕。口唇部に三角状の突起と爪状の刻み。
96	5区E23-11層・F21-10層	にぶい黄褐色10YR5/3	外面格子目状の条線。口唇部に指頭による刻み。器壁薄く、内面に指頭痕顕著。
97	6区F25-12層上	灰黄褐色10YR4/2	羽状の細かい連続爪形文。
98	6区F25-11層	暗灰黄色2.5Y5/2	羽状縄文。
99	5区F23-10層	灰褐色7.5YR4/2	半截竹管による平行沈線とC字状の連続爪形文。

番号	出土位置	色調	特徴
100	6区F24-12層上	褐灰色7.5YR4/1	縄文地文。隆線上に爪形文。
101	6区F24 5層	黒褐色10YR3/2	鉢？。器面精緻。半截竹管による平行沈線文。
102	5区F22 SD17	灰褐色7.5YR4/2	隆起線文上に爪形文。胎土に長石粒目立つ。
103	5区F22-SD17	灰褐色7.5YR4/2	隆起線文下に竹管による刺突文。102と同一か。
104	5区G23 12層上	黒色10YR2/1	口縁部小さく肥厚。半截竹管による平行沈線と爪形文。
105	5区F22-11層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。縄文はややくずれる。半截竹管の平行沈線による区画。胎土緻密、長石粒多く含む。
106	5区F22 11層	灰黄褐色10YR4/2	半截竹管による平行沈線文。胎土に長石粒目立つ。
107	6区F24-11層	灰黄褐色10YR4/2	半截竹管による滴文。106と同一か。
108	5区F22 7層	黒色2.5Y2/1	口縁部に爪形状の粗い刻み。
109	6区E24-7層	にぶい褐色7.5YR5/3	口縁部に細かな刺突文。口縁部下に粗い爪形文。
110	6区E25 3層	灰黄褐色10YR4/2	竹管による半円状の刺突文。
111	6区F24-10層・11層	灰黄褐色10YR5/2	口縁部肥厚。外面ナデ。口唇部に爪形状の刻み。胎土緻密。
112	6区F24 10層	黒褐色7.5YR3/1	波状口縁？。外面にD字状の刺突文。内面は半隆起線状。
113	6区E24-SD17	灰黄褐色10YR6/2	外面にD字状の刺突文。内面に接合痕顕著。
114	5区F22 9層・G21 10層	赤褐色5YR4/6	色調が赤く、胎土に白色砂粒多く含み特徴的。隆帯下に平行沈線文。
115	5区F22-11層	にぶい褐色7.5YR5/4	縄文地文。口唇部に縄文施文。半截竹管による平行線文と弧線文。
116	6区F24 12層上	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。口唇部は強いナデにより面取り。半截竹管による平行線文と弧線文。
117	5区F22-10層、6区E25-10層・F24-11層	黒褐色2.5Y3/1	縄文地文。口唇部に面取り。半截竹管による平行線文と弧線文。116と同一か。
118	6区F24 10層	にぶい褐色7.5YR5/4	縄文地文。口唇部に縄文施文。竹管による直線文と半截竹管による弧線文。
119	6区F25 8層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。口唇部に縄文施文。半截竹管による平行線文と弧線文。
120	6区E24-10層	黄灰色2.5Y5/1	縄文地文。口唇部に縄文施文。狭い半截竹管による平行線文と波状文。
121	5区F21 10層	灰黄褐色10YR6/2	縄文地文。半截竹管による平行線文と弧線文。
122	6区E24-10層	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文。半截竹管による平行線文と波状文。スス付着。
123	6区E24 SD17	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。口唇部に縄文施文。半截竹管による沈線と波状文。
124	5区F22 11層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。口唇部に縄文施文。半截竹管によるやや粗雑な直線文と弧線文。
125	6区F24 10層・12層上	にぶい褐色7.5YR5/4	縄文地文。口唇部に縄文施文。半截竹管による浅い波状文。下部はナデ。
126	6区F24-10層・12層上	灰褐色7.5YR4/2	外面ナデ、一部縄文？。口唇部に縄文施文。
127	6区F24 12層上	黄灰色2.5YR5/1	縄文地文。口唇部に縄文施文。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。
128	6区E25-8層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。口唇部は強いナデにより面取り。交互刺突による波状文。スス付着。
129	6区F24 12層上	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。口唇部に縄文施文。竹管による2段の交互刺突による波状文。
130	6区E23-7層	黒色10YR2/1	縄文地文。口縁部外面に粘土紐を波状に貼付。
131	6区E23 SD17	にぶい黄橙色10YR6/3	撚糸地文？。狭い半截竹管による平行線文と弧線文。口縁部肥厚。
132	6区E25-3層	にぶい褐色7.5YR5/3	縄文地文。下部はナデ。
133	6区E24 SD17	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文、（やや浅い）。スス付着。
134	6区E24-SD17	にぶい褐色7.5YR5/3	撚糸地文。半截竹管による平行線文と弧線文。
135	6区F24-10層	灰黄褐色10YR6/2	撚糸地文。半截竹管による平行線文と弧線文。
136	6区F24-10層	黒色10YR2/1	撚糸地文。狭い半截竹管による平行線文と波状文。
137	5区G21 7層	灰黄褐色10YR4/2	撚糸地文。半截竹管による直線文と弧線文。
138	6区E24-9層・10層	にぶい黄褐色10YR5/3	撚糸地文。比較的太い半截竹管による直線文と弧線文。
139	6区E25-3層	黒褐色10YR3/1	撚糸地文。比較的太い半截竹管による弧線文。
140	5区F22 7層	灰黄褐色10YR4/2	撚糸地文。半截竹管による多条の弧線文。
141	6区F24-10層	黄灰色2.5Y4/1	撚糸地文。狭い半截竹管による平行線文と波状文。
142	6区E25 11層	明赤褐色5YR5/6	撚糸地文。狭い半截竹管による平行線文と細かな波状文。
143	6区E25-8層	灰黄褐色10YR6/2	粗い撚糸地文。半截竹管による平行線文と弧線文。
144	5区F22 SD16	黒褐色10YR3/1	撚糸地文？。棒状工具による深くやや太い波状文と弧線文。
145	6区F24 10層	にぶい褐色10YR5/3	撚糸地文。棒状工具による波状文と弧線文。
146	6区F25-11層	黒褐色10YR3/2	撚糸地文。棒状工具による直線文と波状文。厚手で、胎土に砂粒多く含む。
147	5区F22 10層、6区E24 SD17	にぶい黄褐色10YR5/3	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。スス付着。
148	6区F24-SD17	にぶい褐色7.5YR5/4	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。147と同一か。
149	5区F22-11層	黒褐色10RY3/2	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。
150	5区F22-11層	黒色5Y2/1	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による細かい弧線文。
151	6区E23-8層	にぶい褐色7.5YR5/4	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。
152	6区E24 SD17・SR 01	暗灰黄色2.5Y4/2	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。
153	6区F24-12層上	黒褐色10YR3/1	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による狭い弧線文。
154	5区G21 11層	褐色7.5YR4/4	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による狭い弧線文。
155	5区F22-SD17	暗オリーブ色2.5Y3/4	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による多条の弧線文。
156	6区E23-9層・E25-9層	暗灰黄色2.5Y5/2	撚糸地文。交互刺突による波状文と棒状？工具による直線文と弧線文。
157	6区E23-9層	黄灰色2.5Y6/1	撚糸地文。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。

番号	出土位置	色調	特徴
158	5K・F23-12層上	黒色7.5YR2/1	細い燃糸地文。交互刺突による波状文。
159	6K・E24-10層	灰黄褐色10YR4/2	燃糸地文。交互刺突による波状文。
160	5K・G21-10層	灰黄褐色10YR5/2	燃糸地文。交互刺突による波状文と竹管による平行線文。平行線文の間に波文。口縁部は強く屈曲。スス付着。
161	5K・F22-9層	黒褐色10YR3/2	燃糸地文。半截竹管による平行線文と波文。
162	5K・F22-7層	にぶい黄褐色10YR5/4	燃糸地文。竹管の交互刺突文による波状文。厚手で、胎土に砂粒多く含む。
163	6K・E24-10層	灰黄色2.5Y6/2	細い燃糸地文。棒状工具による刺突文と長方形状の区画文。
164	6K・E24	明灰黄色2.5Y4/2	燃糸地文。竹管による波線文下刺突文。竹管による波線文と細かい波状文。
165	5K・F23-SD17、6K・E24-SD17、SR-01	にぶい黄褐色10YR5/3	細い燃糸地文。口縁部は棒状工具による刺突文。沈線による区画文と満文。沈線下に刺突文。
166	5K・F・G21、6K・E24-10層	灰黄褐色10YR5/2	燃糸地文。細い波帯による点線文と弧線文。
167	6K・E23-8層・10層・F25-10層・12層上	にぶい黄橙色10YR6/3	粗い燃糸地文。胴部に比較的太い半截竹管による弧線文。
168	6K・E25-10層	黄灰色2.5Y4/1	燃糸地文。胴部に狭い半截竹管による浅い弧線文。
169	6K・E24-12層上	にぶい褐色7.5YR5/3	燃糸地文。胴部に狭く細い平截竹管による浅い弧線文。
170	6K・E23-SD17	褐灰色10YR4/1	燃糸地文。胴部に竹管状工具による波状文と直線文。半截竹管による弧線文。
171	6K・E23-11層	暗灰黄色2.5Y5/2	燃糸地文。胴部に棒状工具によるための波状文と平截竹管による弧線文。
172	5K・F21-14層	にぶい褐色7.5YR5/4	燃糸地文。交互刺突による波状文と平截竹管による弧線文。胎土に砂粒目立つ。
173	6K・E24-SD17	褐灰色10YR4/1	縄文地文。板状工具によるナデ。口縁部下に隆帯による直線文と弧線文。一部隆帯上に縄文施文。
174	6K・E24-10層	にぶい黄褐色10YR5/3	燃糸地文。下部はナデ。
175	5K・G21-10層	褐灰色10YR4/1	細かい燃糸地文。
176	6K・E25-12層上・F24-12層上	にぶい黄褐色10YR5/3	細かい燃糸地文。
177	6K・E24-8層	黒褐色10YR3/1	粗い燃糸地文。
178	6K・E25-8層	黒褐色10YR3/1	細い燃糸地文。
179	5K・F25-11層・12層上	黒褐色10YR3/1	燃糸地文。
180	6K・F23-7層	赤褐色5YR4/6	燃糸地文。
181	6K・E24-SD17	黒色N2/0	燃糸地文。
182	6K・E24-10層	暗灰黄色2.5Y4/2	燃糸地文。スス付着。
183	5K・F23-8層	灰黄褐色10YR4/2	燃糸地文。
184	6K・E23-9層・10層	暗灰黄色2.5Y5/2	燃糸地文。
185	6K・E24-8層	にぶい黄橙色10YR7/2	粗い燃糸地文。内面に工字なナデ。厚手で、砂粒目立つ。
186	5K・F22-11層	黄灰色2.5Y4/1	条線地文。狭い半截竹管による平行線文と弧線文。
187	5K・G22-15層上	褐色7.5YR4/4	条線地文。細い平截竹管による平行線文と弧線文。
188	5K・F22-SD17	灰黄褐色10YR6/2	条線地文（やや不鮮明）。下部はナデ。狭い平截竹管による平行線文と弧線文。
189	6K・G24-15層上	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。狭い半截竹管による平行線文と弧線文。
190	5K・F22-8層	黒褐色10YR3/2	条線地文。細い平截竹管による平行線文と刺突文状文。
191	6K・F24-10層	黒褐色10YR3/2	条線地文。半截竹管による平行線文と波状文。
192	5K・G21-15層上	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。狭い半截竹管による平行線文と波状文。
193	6K・F24	にぶい黄色2.5Y6/3	条線地文。細い半截竹管による平行線文と波状文。
194	5K・F21-14層	褐色7.5YR4/4	条線地文？。細い平截竹管による平行線文と波状文。
195	5K・F22-SD17	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。半截竹管による平行線文。
196	6K・E25-8層	にぶい黄橙色10YR6/3	条線地文。狭い半截竹管による平行線文。
197	6K・E25-8層	にぶい橙色7.5YR6/4	条線地文。平截竹管による直線文と弧線文。
198	5K・F21-11層	黒褐色10YR3/1	条線地文。太い半截竹管による直線文と波状文。
199	5K・F21-12層上	黒褐色10YR3/1	条線地文。太い平截竹管による直線文と細かい弧線文。
200	6K・E23-SD17・E24-SD17	灰黄褐色10YR5/2	条線地文。太い半截竹管による直線文と細かい弧線文。スス付着。
201	6K・E23-SD17・E24-SD17	暗灰黄色2.5Y4/2	粗い条線地文。太い平截竹管による直線文と細かい弧線文。スス付着。
202	6K・E25-8層	暗灰黄色2.5Y5/2	細い条線地文。器壁薄落。太い平截竹管による直線文と弧線文。
203	6K・E24-10層	暗灰黄色2.5Y5/2	格子目状の条線地文。太い平截竹管による直線文と弧線文。
204	5K・F21-9層	にぶい褐色7.5YR5/4	粗い条線地文。太い半截竹管による直線文と弧線文。比較的厚手。
205	6K・F24-12層上	褐灰色10YR4/1	条線地文。棒状工具？による直線文と弧線文。
206	6K・E24-SD17	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。太い平截竹管による波線文と弧線文。
207	6K・F24-3層	黒褐色2.5Y3/1	条線地文。半截竹管による平行線文と弧線文。
208	6K・F24-10層	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。太い平截竹管による弧線文。
209	6K・F24・E24-12層上	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。交互刺突による波状文と狭い平截竹管による弧線文。
210	5K・F21-7層	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。交互刺突による波状文と太い半截竹管による弧線文。
211	6K・E25-3層	にぶい褐色7.5YR5/4	条線地文（粗雑）。交互刺突による波状文と太い半截竹管による弧線文。
212	5K・F22-9層	にぶい褐色7.5YR3/4	条線地文。交互刺突による波状文と太い平截竹管による弧線文。
213	5K・F22-12層上	にぶい黄褐色10YR4/3	条線地文。交互刺突による波状文と太い半截竹管による弧線文。施具は櫛伝。

番号	出土位置	名称	特徴
214	6EP24-15埋上	褐色7.5YR4/6	条線地文。交互刺突による波状文と太い半截竹管による弧線文。
215	6EP24-10層	明灰黄色2.5Y3/2	条線地文。交互刺突による波状文と太い半截竹管による弧線文。
216	5KP22-7層	明赤褐色5YR5/6	条線地文？。半截竹管による平行線文と弧線文。平行線文の間に刺突文。
217	5KP22 7層	にぶい黄褐色10YR5/4	条線地文。半截竹管による平行線文と弧線文。平行線文の間に細い竹管による円形状の刺突文。
218	5KP22-8層	褐色7.5YR4/6	条線地文。半截竹管による半行線文と弧線文。平行線文の間に刺突文。
219	5KP23	にぶい褐色7.5YR5/4	地文不明。竹管による直線文と弧線文。直線文下に竹管による刺突文。
220	5KP21 7層	明褐色10YR3/3	条線地文。やや太い竹管による平行線文。平行線文の間に竹管による刺突文。
221	6EP24-11層	褐色7.5YR4/3	粗い条線地文。下部ナデ？。半截竹管による平行線文。平行線内に竹管による刺突文。
222	6EE23-7層	暗灰黄色2.5Y5/2	地文不明。棒状工具による直線文と波状文。
223	6EE24 SD17	暗灰黄色2.5Y5/2	条線地文。棒状工具による直線文と波状文。
224	6EE23-SD17	褐灰色10YR4/1	条線地文。太い棒状工具による直線文と波状文。
225	6EP24 12層上	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。太い竹管状工具による直線文と弧線文。
226	6EE24-7層	褐色10YR4/6	条線地文。太い棒状工具による直線文と弧線文。
227	6EE24 7層	灰黄色2.5Y6/2	条線地文。太い竹管（角状）による弧線文。
228	5KP22-7層	にぶい橙色7.5YR6/4	条線地文？。狭い半截竹管による浅い弧線文。口唇部に竹管による爪形状の刻み。
229	6EE24 SD17	にぶい赤褐色5YR4/4	横斜の条線地文。狭い半截竹管による波線文。口唇部に竹管による刻み。
230	5KP22-7層	灰黄褐色10YR4/2	地文不明。波状口縁。竹管？による弧線文。
231	6EP24-9層	明赤褐色5YR5/6	粗雑な条線地文。下部ナデ？。棒状工具による直線文。
232	5KP22 7層	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。狭い半截竹管による平行線文と弧線文。
233	5KP22-7層	暗灰黄色2.5Y5/2	横斜の条線地文。狭い半截竹管による平行線文と弧線文。
234	5KP22 7層	暗灰黄色2.5Y5/2	条線地文。棒状工具による区画文。
235	5KP23-8層	暗灰黄色2.5Y5/2	条線地文。交互刺突による波状文。棒状工具による区画文。口縁部内面折り返し状に肥小さい。
236	6EP24 9層	にぶい黄橙色10YR7/2	条線地文。棒状工具（角状）による波状文と刺突文。竹管による弧線文と渦文。胎土に砂粒多く含む。
237	6EP24-8層	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。狭い半截竹管による平行線文、弧線文。列点状の刺突文。
238	5KP22-11層	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。狭い半截竹管による列点状の刺突文と弧線文。
239	6EP24	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。半截竹管による列点状の刺突文と弧線文。
240	6EE24 10層	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。口唇部に縄文施文。半截竹管による粗い列点状の刺突文。
241	5KP21-8層	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。口唇部に棒状下の圧痕。半截竹管による列点状の刺突文。
242	6EE23 7層	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。口縁部下に粘土紐を波状に貼付。粘土紐上にも条線。厚手。
243	5KP21-10層	灰褐色7.5YR4/2	横斜の条線地文。狭い半截竹管による粗雑な平行線文、弧線文と波状文。
244	5EG23-15層上、6EK23 9層・10層	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。口縁部外反。棒状工具による直線文と波状文。
245	6EE25 10層	褐灰色10YR4/1	条線地文。ラッパ状の口縁部。口縁部に竹管による刺突文。胴部に半截竹管による波状文。
246	6EE24-10層	灰色5Y4/1	条線地文。口縁部直立？。半截竹管による平行線文。
247	6EE024 8層	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。口縁部にコブナグ。口縁部直立？。スス付着。
248	6EK24-19層上	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。口縁部にコブナグ。
249	5KG23-15層十	黄灰色2.5Y5/1	地文不明。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。
250	6EF24 12層上	黄灰色2.5Y5/1	地文不明。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。
251	5KP22-7層	灰黄色2.5Y6/2	地文不明。交互刺突による波状文と半截竹管による弧線文。
252	6EE25 3層	褐灰色10YR4/1	地文不明。交互刺突による波状文と狭い半截竹管による弧線文。
253	6EK24-SD17	にぶい褐色7.5YR5/4	地文不明。交互刺突による粗雑な波状文。
254	6EP24 5層	にぶい黄褐色10YR5/3	地文不明。交互刺突による粗雑な波状文。
255	5KP23 7層	黄褐色10YR5/2	地文不明。交互刺突による波状文と棒状工具による沈文。
256	5KP22-7層	黄灰色2.5Y5/1	地文不明。交互刺突による波状文と竹管による渦文？。胎土に砂粒多く含む。
257	6EP24 8層	黒褐色10YR3/2	地文不明。狭い半截竹管による平行線文と刺突文。
258	6EP24	にぶい黄褐色10YR5/3	地文不明。狭い半截竹管による平行線文と多条の渦線文。
259	6EE24 10層	黄灰色2.5Y5/1	地文不明。狭い半截竹管による平行線文と多条の弧線文。
260	6EE23-7層	明赤褐色5YR5/6	地文不明。竹管による直線文と弧線文。直線文下に刺突文。
261	5KP23	にぶい黄褐色10YR4/3	条線地文？。竹管による弧線文と弧線文。直線文下に刺突文。
262	6EE25 3層	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。半截竹管による刺突文と細かい沈線文。
263	5KP22-8層	灰白色5Y7/1	地文不明。内面折り返し状。半截竹管による刺突文、弧線文と渦文。胎土に砂粒多く含む。
264	6EK24	灰黄褐色10YR5/2	地文不明。半截竹管による刺突文、弧線文と渦文。
265	6EP24 10層	黒褐色10YR3/1	内外面にナデ。狭い半截竹管による列点状の刺突文と弧線文。
266	5EP22 8層	灰黄褐色10YR5/2	内外面にナデ。狭い半截竹管による列点状の刺突文と弧線文。

番号	出土位置	色調	特徴
267	6区F23-8層	灰黄褐色10YR5/2	内外面にナデ。半截竹管による列点状の刺突文と弧線文？。
268	5区F22 SD17	褐褐色10YR3/3	内外面にナデ。狭い半截竹管による列点状の刺突文と弧線文。
269	6区F24 10層	にぶい黄褐色10YR5/3	胎糸地文？。口縁部外反。狭い半截竹管による列点状の刺突文。
270	6区E24-7層	褐色7.5YR3/4	内外面にナデ。狭い半截竹管による平行線文、列点状の刺突文と波状文？。
271	5区F22-9層	黒色2.5YR2/1	内外面にナデ。半截竹管による列点状の列点文。口唇部に竹管による刺突文。
272	5区F21-8層	黒色2.5YR2/1	地文不明。隆起に半截竹管による波状文。口唇部に竹管による狭い刺突文。
273	5区F22-10層	黒色2.5YR2/1	地文不明。口縁部外反、内面は内湾気味。
274	5区F22 7層	にぶい黄褐色10YR5/3	内外面にナデ。口唇部に竹管による刺突文。狭い半截竹管による弧線文。
275	6区F23-9層	黒褐色10YR2/2	内外面ナデ。「く」縁部外反。狭い半截竹管による平行線文、楕円区画文と弧線文。
276	5区	暗灰黄色2.5Y5/2	条線地文。胴部に半截竹管による弧線文。胎土に砂粒多く含む。
277	5区F22-9層	褐灰黄色2.5Y4/2	条線地文。口縁部に狭い半截竹管による平行線文。
278	6区F24-5層	黒褐色10YR2/3	細い条線地文。胴部に竹管による細い平行線文。
279	6区E25-10層	黒色N2/0	条線地文。胴部に竹管による細い弧線文。
280	6区F24-10層	黒色2.5Y2/1	細い条線地文。胴部に竹管による細い平行線文。
281	6区E23-SD17	黒褐色10YR3/2	条線地文。胴部に竹管による弧線文と直線文。
282	6区F24-SD17	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。胴部に竹管による弧線文と直線文。
283	6区F24 10層	灰黄褐色10YR4/2	地文不明。胴部に細い半截竹管による波状文。
284	5区	にぶい黄橙色10YR6/3	条線地文。胴部に半截竹管による波状文と弧線文。
285	6区E25 12層上・F24 10層・12層上 F25-16層	暗褐色10YR3/3	条線地文。胴部に半截竹管による浅い波状文と弧線文。
286	6区E23-7層	オリーブ黒色5Y3/1	条線地文。胴部に狭い半截竹管による波状文。
287	6区E23-7層	褐灰色10YR4/1	条線地文。胴部に狭い半截竹管による波状文。
288	5区E23,6区F24-11層	褐灰色10YR4/1	条線地文。胴部に狭い半截竹管による波状文と平行線文。
289	5区F23-12層上	灰黄褐色10YR4/2	内外面にナデ。胴部に棒状工具による波状文と弧線文。
290	5区G21 15層上	にぶい黄褐色10YR5/3	条線地文。スス付着。
291	6区E24-SD17	褐灰色10YR4/1	条線地文？。口縁部下。
292	6区E23-SD17・E24-12層上	暗灰黄色2.5Y5/2	やや細い条線地文。
293	6区E24-5層	にぶい黄褐色10YR4/3	条線地文。
294	5区F21-9層・F22-8層	暗灰黄色2.5Y5/2	条線地文。胴部無文。
295	6区E22 8層	にぶい黄橙色10YR6/3	細かい条線地文。胴部無文。
296	6区D23-7層・E24-SD17	黒褐色2.5Y3/1	条線地文。上部に横位の条線。
297	6区F24 10層・12層上	黒色2.5Y2/1	条線地文。一部に横位の条線。
298	6区F24-12層上	にぶい黄褐色10YR4/3	細い条線地文。筒部の屈曲強い。
299	5区F21 7層・F22-6層	灰黄褐色10YR4/2	条線地文。胎土小さい。
300	6区E25 8層	黒褐色2.5Y3/1	条線地文。胴部無文。
301	6区E24-SD17・SR-01	暗灰黄色2.5Y5/2	板ナデ状。一部条線か。
302	5区F22 11層	灰黄褐色10YR5/2	地文不明。狭い半截竹管による平行線文と波状文。スス付着。
303	5区F22 SD17・G21 7層	灰黄褐色10YR6/2	縄文地文。口唇部に及ぶ。半截竹管による平行線文と弧線文。
304	6区E25-10層・15層上	黒色7.5YR2/1	縄文地文。狭い半截竹管による直線文と弧線文。
305	5区G21-8層	暗オリーブ褐色2.5Y3/3	縄文地文。半截竹管による直線文と弧線文。
306	5区F22 12層上	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。半截竹管による直線文と弧線文。器壁薄造。
307	5区F・G21	灰黄色2.5Y6/2	縄文地文。半截竹管による直線文と弧線文。器壁薄造。
308	5区F21 11層	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文。半截竹管による直線文と弧線文。器壁薄造。
309	5区F23-12層上	にぶい黄褐色10YR4/3	縄文地文。口縁部内面に隆帯貼付。交互刺突による波長の長い波状文。半截竹管による弧線文。
310	5区G21-11層	褐色10YR4/6	縄文地文？。棒状工具による直線文、波状文と弧線文。
311	6区F24-10層	褐色7.5YR4/4	縄文地文？。棒状工具？による波状文、弧線文と綾文。
312	6区F23-9層・10層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文？。棒状工具による波状文、弧線文と綾文。胎土に砂粒目立つ。
313	5区F22-12層上	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。下截竹管による斜方形の区画文。器壁薄造。
314	6区F24-11層	にぶい黄色2.5Y6/3	縄文地文？。棒状工具による格子状の区画文。内面に折り返し状の接合痕。胎土に砂粒目立つ。
315	6区G24-15層上	明褐色7.5YR5/6	横位の縄文地文？。棒状工具による直線文、刺突文と弧線文。施土に砂粒多い。
316	6区E23-9層	にぶい黄褐色10YR5/3	横位の縄文地文？。棒状工具による直線文、弧線文と刺突文。315と同一か。
317	6区F24	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。狭い半截竹管による浅い波状文。
318	6区E24-7層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。口縁部に強いナデ。
319	6区E23 9層	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文？。口縁部無文。
320	6区F24-12層上	褐灰色10YR5/1	撚糸地文？。口縁部無文。
321	5区G21-7層,6区D23-SD17	にぶい褐色10YR6/3	縄文地文（1行帯もり）。口縁部に三角状の突起。半截竹管による波状文と弧線文。
322	6区E24-SD17	にぶい褐色7.5YR5/4	縄文地文。口縁部外反。口縁部はナデ。棒状工具による弧線文。

番号	出土位置	色調	特徴
323	6区E23-SD17	黒褐色10YR3/2	縄文地文。下部はナデ。
324	6区F24-10層	にぶい褐色7.5YR5/4	粗い縄文地文。
325	6区F24-10層	黒褐色10YR3/2	粗い縄文地文。下部はナデ。
326	5区F21 8層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。下部はナデ。
327	6区F24-12層上	黄灰色2.5Y4/1	口縁部文様帯に縄文地文。下部は条線地文。
328	6区E24 SD17	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。胴部に竹管による縦位の平行沈線。
329	5区F21 8層	褐色7.5YR4/3	縄文地文。胴部に竹管による縦位の平行沈線。
330	6区F24-10層・11層・12層上	灰黄褐色10YR4/2	胴部に縄文とナデ。一部条線状の圧痕。
331	5区F22-9層	暗灰黄色2.5Y5/2	上部に縄文地文？。下部に条線地文。
332	6区F24 5層	灰黄褐色10YR4/2	外面にナデ？。口径小さい。
333	6区F24-11層	にぶい黄褐色10YR4/3	外面にナデ。
334	6区E25-8層	赤褐色5YR4/6	外面にナデ。
335	6区E25-8層	灰黄褐色10YR4/2	外面にナデ。
336	6区F24 10層	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。口唇部比較的平坦。
337	6区F24-10層	にぶい褐色7.5YR5/4	外面にナデ。口縁部内立。
338	6区F24-10層	赤褐色5YR4/6	外面にナデ。口縁部直立。
339	5区F22-8層	明褐色7.5YR5/6	外面にナデ。
340	6区E24 10層	黒色10YR2/1	外面にナデ。
341	6区	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。浅い条線残る。胴部はくびれない。
342	6区F24-7層	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。浅く細かい条線残る。
343	6区E25	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。一部浅い条線残る。
344	5区F23-12層上、6区E25-8層	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。
345	5区F21 7層	褐色7.5YR4/3	細かい平行沈線地文。細い粘土紐を貼付し、格子目状とする。口縁部に隆起線文。胎土に砂粒目立つ。
346	5区F21 7層	黒褐色10YR3/2	縦斜の平行沈線地文(半隆起線文状)。口縁部に竹管による隆起線文。胎土に砂粒目立つ。
347	5区F22-10層	黒褐色5YR2/1	横斜の平行沈線地文(半隆起線文状)。口縁部に半截竹管による平行線文。胎土に砂粒目立つ。
348	6区E24-8層	灰黄褐色10YR4/2	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。口縁部に棒状工具による沈線文。
349	6区E24	にぶい黄褐色10YR5/3	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。口縁部に竹管による隆起線文。
350	6区E25-5層	灰黄褐色10YR4/2	縦斜の平行沈線地文(半隆起線文状)。粘土紐貼付による波状文。口縁部に棒状工具による沈線文。胎土に砂粒目立つ。
351	6区F25-10層	黒褐色2.5Y3/1	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。口縁部に竹管による隆起線文。薄手。
352	6区E23-8層	褐色7.5YR4/3	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。口縁部に竹管による隆起線文。薄手。
353	5区F21 9層	にぶい黄橙色10YR6/3	同心円状の幅広な平行沈線地文(半隆起線文状)。粘土紐貼付による波状文。口縁部外反。胎土に砂粒目立つ。
354	6区G24 15層上	黒褐色10YR3/2	同心円状の平行沈線地文（半隆起線文)。粘土紐による渦文？。口縁部に沈線。
355	6区E24	灰黄褐色10YR4/2	平行沈線地文（半隆起線文状)。口縁部に沈線。
356	6区E24	にぶい褐色7.5YR5/4	平行沈線地文（半隆起線文状)。口縁部無文。
357	5区F22 9層	にぶい黄褐色10YR5/3	同心円状の平行沈線地文（半隆起線文状)。
358	6区E23 5層	橙色7.5YR6/6	同心円状？の平行沈線地文。胎土緻密。
359	5区F22-11層	にぶい褐色7.5YR5/4	平行沈線地文(半隆起線文状)。口縁部に半截竹管による平行線文。口唇部短く、頸部に隆帯。
360	5区F22-7層	にぶい黄橙色10YR7/3	平行沈線地文（弧状)。口唇部に沈線。
361	6区E23 8層	にぶい黄褐色10YR5/3	細かい平行沈線地文。口唇部欠損か。
362	5区F22-12層上	明褐色7.5YR5/6	平行沈線地文。口縁部に逆S字状の隆帯による突起。篦描による区画文と棒状工具による沈線文。
363	5区E23	にぶい黄褐色10YR5/3	平行沈線地文。口縁部小さく外傾。竹管による横位の隆起線文。
364	6区E24-5層・8層・F25 7層	灰黄褐色10YR4/2	同心円状の平行沈線地文（半隆起線文状)。粘土紐による波状文。砂粒目立つ。
365	6区F24-7層	灰黄褐色10YR6/2	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。
366	5区F21 7層	明赤褐色5YR5/6	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。
367	5区F22-7層	明赤褐色5YR5/8	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。366と同一か。
368	6区F24-5層	灰黄褐色10YR6/2	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。胴部に粘土紐貼付による波状文。
369	5区F23-9層	褐色7.5YR4/3	縦斜の平行沈線地文（半隆起線文状)。頸部に半截竹管による押引文。
370	6区D24-5層・E24 8層	にぶい黄橙色10YR6/3	幅広の平行沈線地文（羽状？)。平行沈線間は平坦。胎土緻密。
371	5区F22 7層	黄灰色2.5Y5/1	幅広の平行沈線地文（弧状)。平行沈線間は平坦。胎土緻密。
372	5区F・G21	黒褐色10YR3/1	細い平行沈線地文。細い粘土紐を貼付し、格子目状とする。
373	6区E24 8層・9層	褐灰色10YR4/1	上部は斜位の平行沈線に粘土紐を貼付し、格子目状とする。下部は狭い平行沈線。粘土紐貼付による区画文と渦文。

番号	出　土　位　置	色　調	特　徴
374	5dG21 15層上	暗赤褐色5YR3/4	平行沈線地文（半隆起線文状）。粘土紐貼付による波状の波状文。
375	5dF22 7層	赤褐色2.5YR4/8	平行沈線地文。頸部に細い粘土紐貼付による3条の波状文と突起。
376	6kE24	灰黄褐色10YR4/2	平行沈線地文。頸部に半裁竹管による平行沈線文。粘土紐貼付による波状文と突起。胎土に砂粒目立つ。
377	5kF21-8層	黒褐色7.5YR3/1	平行沈線地文（半隆起線文状）。頸部に横位の隆帯。胎土に砂粒目立つ。
378	6kF24 SD17-SR-01	黒褐色7.5YR3/1	平行沈線地文（半隆起線文状）。竹管による横位の隆起線文。粘土紐貼付による波状文。同心円状の貼付文。胎土に砂粒目立つ。
379	6kE23-8層	灰白色5Y7/1	細かな条線地文。頸部に半裁竹管による横位の隆起線文。胎土に砂粒目立つ。
380	6kL24 9層-10層	黒褐色10YR3/2	横位の粗い平行沈線地文。粘土紐貼付による波状文。
381	6kF23-11層-E24 10層	黒色10YR2/1	平行沈線地文。横位の隆帯と隆帯による大きな波状文？。波頂部に刻文。
382	6kE24 7層	灰白色5Y7/1	平行沈線地文。粘土紐による貼付文。胎土緻密。
383	5kF22-8層	にぶい赤褐色5YR5/4	平行沈線地文（半隆起線文状）。粘土紐貼付による波文。
384	6kE23 8層	にぶい褐色7.5YR6/3	平行沈線地文。粘土紐貼付による波文。383と同一か。
385	5kG21-11層	灰黄褐色10YR6/2	狭い平行沈線地文。粘土紐貼付による波文。
386	6kE24 SD17	黄灰色2.5Y4/1	狭い平行沈線地文。粘土紐貼付による波文。胎土に砂粒目立つ。
387	5kF21-10層,6kF24 12層上	にぶい赤褐色5YR4/4	狭い丁寧な平行沈線地文。粘土紐貼付による波文。
388	6kE24 10層-F24-8層	黒色10YR2/1	幅広の平行沈線地文（半隆起線文状）。隆帯による整形と、隆帯上に竹管による刺突。
389	6kF24-9層	黒褐色2.5Y3/1	平行沈線地文。粘土紐貼付による縦位の波状文。
390	6kE23 8層	暗赤褐色5YR3/4	平行沈線地文（半隆起線文状）。粘土紐による縦位の波状文。胎土に砂粒多い。
391	6kE24 7層	灰黄褐色10YR6/2	平行沈線地文。粘土紐貼付による縦位の波状文。
392	6kF23-8層-E24 8層	にぶい黄褐色10YR5/4	平行沈線地文（半隆起線文状）。粘土紐による縦位の波状文。胎土に砂粒多い。
393	5dF22 11層+12層上	極暗赤褐色5YR2/2	平行沈線地文（半隆起線文状）。粘土紐貼付による縦位と横位の懸垂文。胎土に砂粒目立つ。
394	6dE24	灰黄褐色10YR6/2	平行沈線地文（半隆起線文状）。粘土紐貼付による波状文。胎土に砂粒目立つ。
395	5kF22-7層	黒褐色7.5YR3/1	平行沈線地文。粘土紐貼付による波状文。
396	6kF23-8層-9層	にぶい赤褐色5YR4/4	平行沈線地文（半隆起線文状）。粘土紐貼付による波状文。胎土に砂粒目立つ。
397	6kF24	黒褐色7.5YR3/1	平行沈線地文。粘土紐貼付による波状文。胎土に砂粒目立つ。
398	5dG23 9層	黒褐色5YR2/1	細かい平行沈線地文。胎土に砂粒目立つ。
399	6kF24-8層	黒褐色10YR2/3	やや幅広の平行沈線地文（半隆起線文状）。
400	6dG23 10層	黒褐色10YR3/1	粗い平行沈線地文。
401	6kF24-11層	黒褐色10YR2/3	幅広の平行沈線地文。胎土緻密。
402	5dF22 8層	褐灰色10YR4/1	平行沈線地文。粘土紐貼付による波状文。胎土緻密。
403	5kF22-7層	褐灰色10YR6/1	平行沈線地文。粘土紐貼付による波状文。胎土緻密。402と同一か。
404	5kF	黒色10YR2/1	幅広の平行沈線地文。
405	6dE24 10層	にぶい黄橙色10YR6/3	櫛状工具による条線地文。低い隆帯による区画文。胎土に砂粒目立つ。
406	6kE24-SD17-SR-01	にぶい橙色5YR6/4	櫛状工具による条線地文。低い隆帯による区画文。砂粒目立つ。404と同一か。
407	6dE24	褐灰色7.5YR6/1	櫛状工具による条線地文。低い隆帯による区画文。裁状の沈線。
408	6dE24-1層	にぶい黄橙色10YR6/3	櫛状工具による条線地文。低い隆帯による区画文。砂粒目立つ。404と同一か。
409	6kE23 1層	にぶい黄橙色10YR6/3	櫛状工具による横位の条線地文。隆帯による懸垂文。胎土緻密。
410	6kF24-10層	にぶい黄橙色10YR6/3	櫛状工具による横位の条線地文。隆帯による懸垂文。
411	6dE24 SD17-SR-01	褐灰色7.5YR4/1	櫛状工具による横位の条線地文。浅い沈線（断面）による波状文。胎土緻密。
412	6kF24-3層-7層	灰色5Y4/1	櫛状工具による横位の条線地文。浅い沈線による懸垂文。胎土に赤色砂粒多い。
413	6dE24 3層	褐灰色10YR5/1	櫛状工具による羽状条線地文。沈線による懸垂文。
414	6kF24-5層	褐灰色10YR4/1	櫛状工具による斜位の条線地文。沈線による区画文。
415	6dE23-1層	褐灰色10YR4/1	櫛状工具による羽状条線地文。沈線による整形文。
416	6kF22-3層	にぶい黄橙色10YR6/3	櫛状工具による縦位の条線地文。隆帯による区画文と波文。
417	6kF24-3層-F25	灰黄褐色10YR5/2	櫛状工具による斜位の条線地文。一部格子目状。横位の低い隆帯。
418	6dE23-5層	黄灰色2.5YR6/1	条線地文？。隆帯による区画文と波文。
419	6kF23-6層	灰黄褐色10YR6/2	口縁部外傾。粘土紐による区画文。区画内に櫛状工具による押引文。胎土緻密。
420	6kF22 5層	黄灰色2.5Y5/1	条線地文。粘土紐貼付による区画文。口縁部外傾。
421	5kF22-11層	にぶい黄褐色10YR5/3	幅広の平行沈線地文。角くやや太い粘土紐貼付による区画文。胎土緻密。
422	D 12-試掘坑A	橙色2.5YR6/6	斜位の条線地文。浅い沈線による区画文。
423	6kF24 7層	黄灰色2.5Y4/1	櫛状工具による斜位の条線地文。沈線による懸垂文。胎土緻密。
424	6kF24-3層	黒色7.5Y2/1	櫛状工具による斜位の条線地文。沈線による整形文。
425	6dE24 10層	黒色2.5Y2/1	櫛状工具？による縦位の条線地文。半裁竹管による懸垂文。
426	6kF24-10層	黒色2.5Y2/1	櫛状工具？による縦位の条線地文。423と同一か。
427	6dE24 10層	黒色5Y2/1	櫛状工具？による縦位の条線地文。横位の沈線文。
428	6dE25	灰色5Y5/1	櫛状工具による斜位の条線地文。

番号	出土位置	色調	特徴
429	6区F24-6層	にぶい褐色7.5YR5/3	櫛状工具による縦位の条線地文。胎土に砂粒目立つ。
430	6区E23-5層	にぶい黄褐色10YR5/3	櫛状工具による斜位の条線地文。
431	6区F24-5層	明赤褐色5YR5/6	狭い平行沈線地文。下部はナデ。
432	6区E23-SD17	にぶい黄橙色10YR6/3	竹管による列点文地文。隆起線文による渦文。胎土緻密。
433	6区E23-SD17	にぶい黄橙色10YR6/3	竹管による列点文地文。隆起線文による渦文。432と同一。
434	6区E24-SD17	にぶい黄橙色10YR6/3	竹管による列点文地文。隆起線文による渦文と懸垂文。432と同一。
435	6区E24-3層	にぶい黄橙色10YR7/4	ハの字状の刺突文地文。高い隆帯による区画文。
436	6区G24-15層上	黒褐色10YR2/2	ハの字状の刺突文地文。隆帯（欠損）による区画文。胎土に砂粒目立つ。
437	6区E24-8層・9層	にぶい褐色7.5YR5/3	ハの字状の刺突文地文。隆帯による懸垂文。
438	6区E24-4層	灰黄褐色10YR4/2	ハの字状の刺突文地文。隆帯による懸垂文。437と同一か。
439	6区E25-4層	褐色7.5YR4/3	ハの字状の刺突文地文。隆帯による懸垂文。胎土に砂粒目立つ。
440	6区E24-3層	黒色7.5YR2/1	ハの字状の刺突文地文。隆帯による懸垂文。
441	6区E25	褐灰色10YR4/1	ハの字状の刺突文地文。隆帯による懸垂文。胎土に砂粒目立つ。436と同一か。
442	6区E24-SD17	黒色7.5YR2/1	ハの字状の刺突文地文。沈線による懸垂文。
443	6区E24-5層	灰黄褐色10YR4/2	ハの字状の刺突文地文。
444	6区E24-1層	灰黄褐色10YR5/2	短いハの字状の刺突文地文。太い沈線による懸垂文。
445	6区E23-5層・E24-5層	黒色7.5YR2/1	やや長いハの字状の刺突文地文。沈線による懸垂文。
446	6区E23-5層	にぶい橙色7.5YR6/4	やや長いハの字状の刺突文地文。沈線による懸垂文。
447	6区E24-10層・SD17	灰黄褐色10YR6/2	櫛状工具による広い刺突文地文。低い隆帯による区画文。
448	6区E23-1層	にぶい黄褐色10YR5/3	櫛状工具による刺突文地文。幅広の隆帯による区画文。
449	6区F24-5層	にぶい褐色7.5YR5/3	列点状の刺突文地文。低い隆帯による区画文。
450	6区E24-6層	暗灰黄色2.5YR5/2	櫛状工具による広い刺突文地文（ハの字状）。447と同一。
451	6区E25	にぶい黄橙色10YR6/3	櫛状工具による広い刺突文地文（ハの字状）。低い隆帯による区画文。
452	6区E23-5層	黒褐色10YR3/2	櫛状工具による刺突文地文。
453	6区E23-1層	浅黄色2.5Y7/3	櫛状工具による刺突文地文。
454	6区E24-5層	にぶい黄橙色10YR6/3	地文不明。低い幅広の隆帯による区画文。
455	6区E24-7層	にぶい黄橙色10YR6/3	地文不明。低い幅広の隆帯による区画文。454と同一。
456	6区E24-6層	にぶい黄橙色7.5YR6/4	地文不明。低い幅広の隆帯による区画文。454と同一。
457	6区E24-8層	にぶい黄橙色10YR7/2	地文不明。低い幅広の隆帯による区画文。胎土に砂粒目立つ。
458	6区E24-10層	灰黄褐色10YR6/2	地文不明。低い幅広の隆帯による区画文。454と同一か。
459	6区E23-5層	灰褐色7.5YR4/2	地文不明。隆帯による区画文。
460	6区E24-10層	にぶい赤褐色5YR5/3	地文不明。低い隆帯による区画文。
461	6区F25-5層	にぶい橙色5YR6/4	地文不明。低い幅広の隆帯による渦文。
462	6区E24-5層	にぶい黄橙色10YR6/3	地文不明。低い隆帯による区画文。胎土緻密。
463	6区E24-SD17・SR-01	黒褐色10YR3/1	地文不明。低い隆帯による懸垂文。
464	6区E24-5層	にぶい黄褐色10YR4/3	地文不明。低い隆帯による懸垂文。
465	6区E24	にぶい褐色7.5YR6/3	口縁部は隆帯を貼付し、肥厚。沈線による区画文。区画内に棒状工具（竹管？）による刺突文。
466	5区7層	にぶい黄褐色10YR5/3	胴部に丸棒状工具による刺突文。
467	5区	暗灰黄色2.5YR4/2	波状口縁。沈線による逆U字状の区画文。区画内に棒状工具による円形状と短いハの字状の刺突文。
468	5区F23・F23-7層	灰褐色5YR4/2	縄文地文。口縁部内面に隆帯。外面に粘土紐を貼付し、竹管による刺突文。胎土は砂粒多くもろい。
469	5区F22-8層・G21-10層	にぶい褐色7.5YR5/4	縄文地文。口縁部内面肥厚。頸部に粘土紐による波状文。
470	6区F24-5層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。口縁部の内外面に高い横位の隆帯。
471	5区F21-8層	暗赤褐色5YR3/6	縄文地文。口縁部は受け口状で、小形。隆帯による渦文。胎土に長石目立つ。
472	6区F24-7層	黒褐色7.5YR3/1	縄文地文。細い隆帯と沈線による区画文。胎土精緻。
473	6区F24-11層	灰褐色5YR4/2	縄文地文。外面に粘土紐貼付。沈線による区画文。沈線間に小さな円形刺突文。
474	6区E24-SD17	黒褐色10YR3/2	縄文地文。外面に粘土紐貼付による波状文。
475	5区F22-SD17・SR-01	黒褐色10YR3/2	縄文地文。口唇部を面取り。胎土精緻。
476	5区F22-7層	黒色7.5YR1.7/1	地文不明。頸部に楕円形状の突起。細い粘土紐貼付による波状文と渦文。小形品。
477	6区F25-5層	灰褐色7.5YR4/2	条線地文。頸部下に細い粘土紐貼付による波状文と渦文。小形品。
478	5区F22-9層、6区E25-8層	褐色7.5YR4/3	縄文地文。頸部下に細い粘土紐貼付による波状文と渦文。小形品。
479	6区E25-10層	明褐色7.5YR5/6	地文不明。頸部に隆帯と粘土紐貼付による波状文。
480	5区F22-7層	灰褐色7.5YR4/2	縄文地文。頸部に2条の沈線文と細い粘土紐による波状文。胎土に砂粒目立つ。
481	5区F22-9層	黒色7.5YR2/1	地文不明。頸部に細い粘土紐貼付による波状文。胎土に砂粒目立つ。
482	5区G22-15層上	灰褐色5YR4/2	地文不明。頸部に細い粘土紐貼付による波状文。胎土に砂粒目立つ。
483	5区	極暗赤褐色2.5YR2/2	縄文地文。頸部に隆帯。隆帯上に刻み。胎土に砂粒目立つ。
484	6区E25-15層上・F25-10層	暗赤褐色5YR3/2	粗い縄文地文。頸部に半截竹管による平行沈線文（半隆起線文状）。

番号	出土位置	色調	特徴
485	5区F22-11層、6区F24-10層	暗灰黄色2.5YR5/2	縄文地文。頸部に半截竹管による半隆起線状の平行沈線文。胎土精緻。
486	5区F21-7層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。粘土紐貼付による波状の懸垂文。
487	6区E24-7層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。隆起線による懸垂文と渦文。
488	6区F24-11層	褐灰色10YR4/1	粗い縄文地文。隆起線による渦文。
489	6区F25-12層上	黒褐色7.5YR3/1	縄文地文。隆起線による渦文。
490	6区E25-8層	黒褐色7.5YR3/1	縄文地文。半截竹管の隆起線による懸垂文。
491	6区F24-10層	黒褐色10YR2/3	縄文地文。半截竹管の隆起線による懸垂文。
492	6区E24-5層・7層	黒褐色7.5YR3/1	縄文地文。幅広の低い隆帯による区画文。胎土に砂粒目立つ。
493	5区H22、6区E23-7層	黒褐色7.5YR3/1	縄文地文。頸部に狭い半截竹管による平行沈線。胎土に砂粒目立つ。
494	6区E23・24-9層	褐灰色10YR4/1	縄文地文。頸部に狭い半截竹管による平行沈線。胎土に砂粒目立つ。
495	6区E23-5層・F24-12層上	黒褐色7.5YR3/1	縄文地文。頸部に狭い半截竹管による平行沈線。胎土に砂粒目立つ。
496	5区F22-11層	赤褐色5YR4/6	縄文地文。半截竹管の平行沈線による懸垂文。胎土に砂粒目立つ。
497	5区F22-11層・F23-12層上 6区F24・25-8層	黒褐色2.5Y3/1	羽状の縄文地文。半截竹管の平行沈線による懸垂文。胎土に砂粒目立つ。
498	5区F23-9層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。半截竹管の平行沈線による懸垂文。
499	5区F22-6層・7層	灰黄褐色10YR6/2	縄文地文。棒状工具による2条の懸垂文。
500	5区F21・22-7層	にぶい赤褐色5YR5/4	縄文地文。棒状工具による2条の懸垂文。胎土に砂粒目立つ。
501	6区E24-3層	黒褐色10YR3/2	細かい縄文地文。やや太い沈線による区画文。
502	5区E23、6区F24-10層	にぶい赤褐色5YR4/4	底部付近に強いナデ。胎土に砂粒目立つ。
503	6区E24-SD17	にぶい黄褐色10YR4/3	縄文地文。半截竹管の平行沈線（半隆起線文状）による懸垂文。胎土精緻。
504	5区F22-11層	褐色7.5YR4/3	縄文地文。半截竹管の平行沈線（半隆起線文状）による懸垂文。胎土精緻。
505	5区F22-11層	暗灰黄色2.5Y6/2	縄文地文。半截竹管の平行沈線による区画文。胎土精緻。
506	6区E24-9層	褐灰色10YR4/1	縄文地文。半截竹管の平行沈線による浅く狭い懸垂文。胎土精緻。
507	6区E24-9層	黒色2.5Y2/1	縄文地文。半截竹管の平行沈線による浅く狭い懸垂文。胎土精緻。
508	6区E24-7層・8層・9層・E25-11層	黒褐色7.5YR3/2	粗い縄文地文。胎土に砂粒目立つ。
509	6区E23-8層	にぶい赤褐色5YR5/4	粗い縄文地文。胎土に砂粒目立つ。
510	6区F24-7層	黒褐色7.5YR3/2	粗い縄文地文。胎土に砂粒目立つ。
511	6区F24-8層・9層	褐灰色7.5YR4/1	粗い縄文地文。胎土に砂粒目立つ。
512	6区F24-12層上	にぶい褐色7.5YR4/3	粗い縄文地文。胎土に砂粒目立つ。
513	6区F24-10層・12層上	にぶい赤褐色5YR5/4	粗い縄文地文。胎土に砂粒目立つ。
514	6区E25-8層	灰褐色5YR4/2	粗い縄文地文。胎土に砂粒目立つ。
515	6区F25-12層上	黒褐色10YR2/2	粗い縄文地文。
516	6区E24-9層	にぶい黄橙色10YR6/4	縄文地文。胎土に砂粒目立つ。
517	5区F21-12層上	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。上部にナデ。
518	6区E23-5層	にぶい褐色7.5YR5/3	縄文地文。一部ナデ。
519	6区E24-9層	褐色7.5YR4/3	縄文地文。
520	5区F24-SD17	黒褐色10YR3/2	縄文地文。
521	6区E23-SD17	褐色7.5YR4/4	縄文地文。
522	6区F24-10層・11層	灰黄褐色10YR5/1	縄文地文。
523	5区F22-7層	明赤褐色5YR5/6	粗い縄文地文。やや薄手。
524	6区E23-8層・E24-9層	黒褐色5YR2/1	丁寧なナデ。口縁部内傾。
525	6区F24-5層	にぶい黄橙色10YR6/3	ナデ。口縁部内傾。胎土に白色砂粒目立つ。
526	6区E24-SD17	赤褐色5YR4/6	内外面に丁寧なナデ。頸部に細い隆帯。
527	5区	黄褐色2.5Y5/3	ナデ。頸部下に縄文。浅鉢？。
528	6区E24-4層	黒褐色7.5YR2/2	内外面に丁寧なナデ。口縁部内面やや肥厚。胎土緻密。
529	6区E23-5層	灰黄褐色10YR4/2	内外面にナデ。口縁部内面やや肥厚。
530	6区E25-3層	にぶい黄褐色10YR5/3	内外面にナデ。口縁部内面やや肥厚。
531	6区F25-5層	黒褐色7.5YR3/2	内外面にナデ。口唇部はやや尖る。
532	6区E24-10層	黒褐色7.5YR3/1	内外面にナデ。口唇部はやや尖る。531と同一か。
533	6区E24-5層	灰黄褐色10YR5/2	内外面にナデ。口唇部は平坦。
534	5区F22-8層	褐灰色10YR4/1	内外面にナデ。口唇部は平坦。
535	6区E24-5層	黒褐色7.5YR2/2	外面に丁寧なナデ。頸部に太い隆帯と沈線。
536	5区F22-9層	橙色7.5YR6/6	内外面にナデ。
537	6区E24-5層	黒褐色10YR3/1	棒状工具の沈線による区画文。区画内に縄文。胎土緻密。
538	5区 7層	灰黄褐色10YR5/2	竹管の平行沈線による弧線文。口縁部付近。
539	5区F・G21	にぶい黄橙色10YR6/4	竹管の平行沈線による弧線文。539と同一か。
540	6区E23-1層	赤褐色5YR4/8	地文不明。棒状工具の沈線による区画文。胎土に砂粒目立つ。
541	6区E25-3層	にぶい黄褐色10YR5/3	地文不明。太い沈線による区画文？。
542	6区E25-3層	明赤褐色5YR5/6	地文不明。太い沈線による区画文。

番号	出土位置	色調	特徴
543	6区F24 1層	にぶい黄橙色10YR6/3	地文不明。太い沈線による弧線文。
544	6区E24-SD17	にぶい黄褐色10YR5/3	地文不明。太い沈線による弧線文。
545	6区F23 5層	灰黄褐色10YR6/2	ハの字状の列点文地文。棒状工具の沈線による懸垂文。
546	5区F22-8層	灰黄褐色10YR5/2	内外面にナデ。隆帯による直線文と渦文。
547	6区F24 8層	にぶい黄橙色10YR7/2	地文不明。隆帯（隆起線文状）による渦文。
548	6区F24-8層	にぶい黄褐色7.5YR5/4	外面に丁寧なナデ。上部で屈折。胎土緻密。
549	6区E24-10層	灰黄褐色10YR5/2	内外面にナデ。頸部に高い隆帯と細い隆帯。壺。
550	6区F24-4層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。上部は帯状に肥厚。太い沈線による区画文。壺。
551	6区E23-7層・E24	にぶい褐色7.5YR5/4	粗い縄文地文。内面ミガキ？。口縁部内面突出。浅鉢。
552	5区F22-7層	黒褐色10YR2/2	縄文地文。口縁部内面突出。器壁剥落。浅鉢。
553	5区F22-9層	にぶい褐色7.5YR6/3	外面に丁寧なナデ。口縁部肥厚。胎土緻密。浅鉢。
554	5区F22-SD17	褐灰色10YR4/1	内外面にナデ。口縁部内傾。浅鉢。
555	5区F22-8層	褐灰色7.5YR4/1	内外面にナデ。口縁部内面突出。浅鉢。
556	6区E24-9層	褐灰色7.5YR4/1	内外面にナデ。口縁部肥厚。浅鉢？。
557	6区E25 8層	にぶい褐色7.5YR5/4	内外面に丁寧なナデ（ミガキ状）。太く低い隆帯による区画文。浅鉢？。
558	6区E24-8層	黒褐色7.5YR3/3	粗い縄文地文。内面に丁寧なナデ・朱塗り。浅鉢？。
559	5区F22-8層	黒褐色5YR3/1	縄文地文。内面に丁寧なナデ・朱塗り。浅鉢？。
560	5区F21-10層・11層	明赤褐色2.5YR5/6	内面に丁寧なナデ（ミガキ状）。浅鉢？。
561	6区E23 5層・E24 9層	黄灰色2.5Y6/1	粗い縄文地文。太い沈線と隆帯による区画文。口縁部肥厚。厚手。
562	6区E24 5層	暗黄灰色2.5Y5/2	粗い縄文地文。太い沈線と隆帯による区画文。口縁部肥厚。厚手。561と同一か。
563	6区F24-1層・E25-3層	黒褐色2.5Y3/1	隆帯と沈線による区画文。口縁部外反。厚手。
564	6区E25 3層	明赤褐色5YR5/6	縄文地文。三角形状の隆帯と沈線による直線文と渦文。厚手。
565	6区E25-3層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。三角形状の隆帯と沈線による楕円形状区画文。厚手。
566	6区E25 3層	明赤褐色5YR5/6	縄文地文。三角形状の隆帯と沈線による楕円形状区画文。比較的厚手。
567	6区F25-5層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。隆帯と細い沈線による区画文。
568	6区E24-7層	黄灰色2.5Y4/1	縄文地文。隆帯と沈線による区画文。
569	6区E25	黒褐色10YR3/1	縄文地文。沈線による楕円形区画文。
570	6区E23 6層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。沈線による楕円形区画文。
571	6区E24-1層	黒褐色10YR3/1	縄文地文。沈線による長方形区画文。
572	6区E24 1層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。沈線による横長の区画文。
573	6区E24-5層	暗灰黄色2.5Y5/2	粗い縄文地文。沈線による楕円形区画文。
574	6区E25 2層	黒褐色7.5YR2/2	縄文地文。沈線による楕円形区画文。
575	6区E23 5層	黒褐色10YR3/2	縄文地文。沈線による楕円形状の区画文。区画外にも縄文。
576	6区E24-8層	褐色7.5YR4/3	縄文地文。沈線による楕円形状の区画文。区画外にも縄文。
577	6区D23 7層	にぶい橙色5YR6/4	縄文地文。沈線による区画文。
578	5区E23	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。やや深い沈線による区画文。
579	6区E24 3層	灰黄褐色10YR5/2	粗い縄文地文。太く浅い沈線による楕円形区画文。区画内やや肥厚。
580	6区E24-SD17	黒色10YR2/1	縄文地文。沈線による楕円形区画文。内面丁寧なナデ。浅鉢？。
581	6区E24-9層	灰黄色2.5Y6/2	縄文地文。口縁部下に1条の沈線。沈線による縦長区画文？。区画内に沈線文。
582	6区E23	にぶい黄橙色10YR7/3	縄文地文。太い沈線による区画文。
583	6区E23 1層	にぶい黄橙色10YR7/3	縄文地文。波状口縁。粗雑な沈線による区画文。
584	6区E24-3層	暗灰色N3/0	外面にナデ。口縁部下に1条の沈線。沈線による縦長区画文。
585	6区E24 9層	褐灰色10YR6/1	外面にナデ。口縁部下に1条の沈線。沈線による逆U字区画文。
586	6区E24-5層	黒褐色2.5Y3/1	縄文地文？。口縁部下に1条の沈線。沈線による逆U字区画文。
587	B13.6区E24 1層・5層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。口縁部下に1条の浅い沈線。沈線による区画文。
588	6区E23 5層	にぶい黄色2.5Y6/3	縄文地文。沈線による楕円形状の区画文。胎土に白砂目立つ。
589	6区E24-7層・10層	黒色10YR2/1	縄文地文。浅い1条の沈線。浅い沈線による懸垂文と渦文。
590	6区E24 10層	黒褐色10YR3/1	口縁部下に1条の沈線。厚手。
591	6区F24-10層	にぶい黄褐色10YR4/3	縄文地文。口縁部下に1条の沈線と縦位の沈線。
592	6区D23-24	にぶい黄褐色10YR4/3	縄文地文。口縁部下に1条の沈線。
593	6区E24-10層	黒褐色10YR3/1	縄文地文。口縁部下に1条の細い沈線。
594	6区E24 3層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。口縁部下に1条の細い沈線。
595	6区E23-1層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。口縁部下に1条の細い沈線。
596	6区E24-8層	暗灰黄色2.5Y5/2	地文不明。口縁部下に1条の浅い沈線。
597	6区E24 10層	黒色7.5YR2/1	縄文地文。沈線による区画文。
598	6区D23・24	灰黄色2.5Y7/2	縄文地文。口縁部下に1条の細い沈線。
599	6区E24 10層	黄灰色2.5Y6/1	縄文地文。口縁部下に1条の沈線。沈線内に刺突線あり。
600	6区E23 1層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。口縁部直下に1条の沈線。
601	6区E24-5層・SD17	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。沈線による逆U字状の区画文と渦文。口縁部は内面に折り返して肥厚。

番号	出土位置	色調	特徴
602	6区E23-5層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。沈線による逆U字状の区画文。器壁剥落。
603	6区E24-4層・F25-3層	灰黄色2.5Y6/2	地文不明。沈線による細かな弧状文。
604	6区E23-5層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。沈線による区画文。
605	6区E24-10層	灰黄褐色10YR5/2	沈線（ヘラ状工具）による区画文。
606	6区E24-5層	黄灰色2.5Y5/1	縄文地文。磨消によって地文を区画。
607	6区E23-1層	灰黄褐色10YR6/2	縄文地文。沈線（半截竹管）による縦長の区画文。区画間と口縁部に細い棒状工具による刺突文。
608	6区E24-7層	褐灰色10YR4/1	縄文地文。口縁部下に1条の浅い沈線（竹管状工具）。
609	6区G24-15層上	にぶい黄色2.5Y6/3	地文不明。口縁部肥厚して段差（沈線？）。
610	6区E25-3層	灰黄褐色10YR4/2	地文不明。口縁部肥厚して段差（沈線？）。
611	6区E25-3層	にぶい黄橙色10YR6/3	地文不明。口縁部肥厚して段差（沈線？）。
612	6区E24-5層	灰褐色7.5Y4/2	地文不明。口縁部肥厚し、下部に沈線状の凹み。
613	6区E24-9層	暗灰黄色2.5Y5/2	外面にナデ。浅い沈線による区画文。口唇部面取り。
614	5区-7層	にぶい赤褐色5YR4/3	外面にナデ。口縁部下やや肥厚し段状。
615	6区E24-1層	黒褐色10YR3/1	縄文地文。浅い沈線による縦長の区画文。
616	6区F24-SD17	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。口縁部下に浅く太い沈線。
617	6区E24-5層	黒色10YR2/1	外面にナデ。口縁部下やや凹む。
618	6区E24-SD17	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。沈線による矩状の区画文。
619	6区E24-SD17	暗灰黄色2.5Y4/2	縄文地文。沈線（竹管）による懸垂文。
620	6区E24-7層	黒色2.5Y2/1	縄文地文。半截竹管による狭い平行沈線。円形の穿孔。
621	6区F24-12層上	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。平行沈線（半截竹管）による懸垂文。
622	6区E25-8層	黄灰色2.5Y4/1	縄文地文。口縁部外反。半截竹管による懸垂文。
623	6区E24-5層	灰黄色2.5Y6/2	縄文地文。下部に半截竹管による弧状の平行沈線。
624	6区E23-5層	暗黄灰色2.5Y5/2	縄文地文。
625	5区G21-15層上	にぶい黄橙色10YR6/4	縄文地文。
626	5区F22-9層	にぶい褐色7.5YR4/3	縄文地文。
627	6区E24-9層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。
628	6区E25-SD17	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。口縁部肥厚。
629	6区E24-5層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。口縁部肥厚。
630	6区E23-9層・10層	暗灰黄色2.5Y5/2	羽状縄文地文。薄手。胎土に白色砂粒目立つ。
631	6区E24-SD17	黄灰色2.5Y4/1	縄文地文。薄手。
632	6区E24-5層	黄灰色2.5Y4/1	縄文地文。薄手。
633	6区E24-5層	にぶい黄褐色10YR5/3	頸部に縄文。口縁部外傾。
634	6区E24-8層・9層	褐灰色10YR4/1	内外面にナデ。
635	6区E24-3層	褐灰色10YR4/1	内外面にナデ。
636	6区E24-SD17	暗灰黄色2.5Y5/2	内外面にナデ。
637	6区E25-5層	にぶい黄橙色10YR6/3	内外面にナデ。胎土に砂粒目立つ。
638	6区E24-10層	灰黄褐色10YR4/2	内外面にナデ。
639	6区E24-10層	暗灰黄色2.5Y5/2	内外面にナデ。
640	6区E23-5層	灰黄褐色10YR4/2	内外面にナデ。小形品。
641	6区E25-3層	灰黄褐色10YR5/2	内外面にナデ。頸部に粘土溜り。
642	6区F24-7層	灰黄色2.5Y6/2	内外面にナデ。
643	6区E24-3層	にぶい褐色7.5YR5/4	内外面にナデ。
644	6区E24-3層	赤褐色5YR4/6	内外面にナデ。
645	6区E24-5層	浅黄色2.5Y7/3	内外面にナデ。
646	6区E25-3層	にぶい黄橙色10YR6/3	内外面にナデ。
647	6区E23-5層	黒褐色10YR3/2	内外面にナデ。口縁部内面肥厚。
648	5区	灰黄褐色10YR5/2	内外面にナデ。口縁部肥厚。
649	6区F24-1層	にぶい黄色2.5Y6/3	縄文地文。丸味を持った横位の隆帯。隆帯下に沈線による懸垂文。
650	6区E24-3層	にぶい褐色7.5YR5/3	縄文地文。三角形状の隆帯。沈線による区画文。
651	6区E25-3層	黒褐色10YR3/1	縄文地文。三角形状の隆帯。
652	6区E24-7層	灰黄褐色10YR5/2	波打つ隆帯上に縄文施文。胎土に白色砂粒目立つ。
653	6区E23-5層	灰褐色7.5YR4/2	粗い縄文地文。三角形状の横位の隆帯。
654	6区E23-5層	にぶい黄橙色10YR7/3	外面にナデ。横位の隆帯。
655	6区F25-15層上	にぶい赤褐色5YR5/4	縄文地文。細い隆帯による区画文。胎土に砂粒目立つ。
656	5区F22-6層	灰黄色2.5Y7/2	地文不明。口縁部突起部分。隆帯による渦文。器壁剥落。
657	6区F24-5層	灰黄色2.5Y7/2	縄文地文。隆帯による区画文。胎土に褐色砂粒目立つ。
658	6区E24-5層	灰黄褐色10YR4/2	粗い縄文地文。隆帯による区画文。
659	6区E23-5層	黒色7.5YR2/1	縄文地文。低い隆帯による懸垂文。

番号	出土位置	色調	特徴
660	6区E24 SD17	灰黄褐色10YR4/2	隆帯による渦文。
661	6区E24-9層	にぶい黄橙色10YR6/3	隆帯による渦文。器壁剥落。
662	6区E24 7層	灰褐色7.5YR4/2	縄文地文。低い隆帯による区画文。
663	6区E24-SD17	黒褐色10YR3/1	縄文地文。低い隆帯による区画文。
664	6区E24 9層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。低い隆帯による区画文。縄文は隆帯上にまで及ぶ。
665	6区E23-5層・E24 8層	黒色10YR2/1	外面にナデ。隆帯による逆U字状の区画文。
666	6区E25-4層	黒褐色5YR2/1	隆帯による懸垂文。器壁剥落。
667	6区D23・24	黒褐色10YR3/1	縄文地文。沈線による逆U字状の区画文。
668	6区E23-5層	黒褐色7.5YR3/3	縄文地文。やや太い線による区画文。
669	6区E23-1層	灰黄褐色10YR1/2	縄文地文。沈線による区画文。区画内に蕨手状の沈線文。
670	5区F21-9層	黒褐色10YR3/1	細かい縄文地文。浅い沈線による渦文と区画文。区画内に波状の懸垂文。
671	6区E23-5層	黒褐色10YR3/1	縄文地文。浅い沈線による直線文と弧線文。
672	6区E23-5層	黒色7.5YR2/1	縄文地文。沈線による逆U字状の区画文。
673	6区E24 10層	黒色10YR2/1	細かい縄文地文。沈線による逆U字状？の区画文。
674	6区E24	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。沈線による逆U字状の区画文。
675	6区E24-4層	にぶい赤褐色5YR5/4	縄文地文。沈線による区画文。
676	6区E24 1層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。沈線による直線文と弧状の区画文。器壁剥落。
677	6区E24-9層	灰黄色2.5Y6/2	外面にナデ。沈線（竹管状工具）による区画文。
678	6区E25 3層	褐灰色10YR4/1	縄文地文。蕨手状の沈線。
679	6区E24-3層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。弧状の平行沈線文。胎土に砂粒目立つ。
680	6区F24-5層	黒褐色7.5YR3/2	縄文地文。沈線による弧線文と渦文。胎土に砂粒目立つ。
681	6区E24	オリーブ黒色5Y3/1	沈線による弧線文と渦文。胎土に砂粒目立つ。
682	6区E24-9層	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。棒状工具による縦位の沈線文。
683	6区E24 SD17	灰黄褐色10YR4/2	外面にナデ。棒状工具による沈線文。
684	6区E24-5層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
685	6区E23-5層	黒褐色7.5YR3/1	粗い縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
686	6区E24-SD17	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
687	6区E24 9層	黄灰色2.5Y4/1	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
688	6区E23-1層・5層	灰黄褐色10YR4/2	粗い縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
689	6区F24 5層	黒褐色10YR3/1	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
690	6区E24-SD17	黄灰色2.5Y4/1	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
691	6区E24 1層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
692	6区E23-5層	暗褐色7.5YR3/3	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
693	6区E24-4層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
694	6区E24 3層	褐灰色10YR5/1	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
695	6区E23-1層	褐灰色10YR5/1	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
696	6区E23 5層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。磨消帯と沈線にずれ。
697	6区E25 8層	灰白色2.5YR7/1	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
698	6区E25-3層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。スス付着。
699	6区E25-3層	黒色7.5YR7/1	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
700	6区E24 10層	黒褐色10YR3/1	縄文地文。浅い沈線（棒状工具）による区画文。
701	6区F24	暗灰色N3/0	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
702	6区E24 9層	黒色10YR1.7/1	縄文地文。深い沈線（棒状工具）による区画文。
703	6区E23-5層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
704	6区E24 3層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。器壁剥落。
705	6区E25 2層・3層	にぶい黄褐色10YR4/3	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。器壁剥落。胎土に白色砂粒目立つ。
706	6区F24-5層	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文。やや深い沈線（棒状工具）による区画文。
707	6区E24 9層	灰色5Y6/1	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文と区画内に波状の懸垂文。
708	6区E25	黄灰色2.5Y4/1	縄文地文。沈線による区画文。
709	6区E24-10層	灰黄褐色10YR5/2	細かい縄文地文。細い沈線による波状の懸垂文。
710	5区F21-12層上	黒褐色10YR3/2	細かい縄文地文。細い沈線による波状の懸垂文。小形。
711	6区F24 8層	にぶい黄褐色10YR5/4	細かい縄文地文。細い沈線による波状の懸垂文。
712	5区G23-12層上	黒褐色2.5Y3/1	細かい縄文地文。半截竹管による波状の懸垂文。
713	6区E24-SD17	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。細い沈線による波状の懸垂文。
714	6区E24 8層	褐灰色10YR4/1	粗い縄文地文。半截竹管による懸垂文。
715	6区E24-5層	灰白色2.5Y7/1	縄文地文。半截竹管による懸垂文。
716	6区E24 3層	灰黄色2.5Y6/2	縄文地文。沈線による区画文。
717	6区E23 5層	にぶい黄褐色10YR5/3	細かい縄文地文。沈線による懸垂文。
718	6区E24-9層	黄灰色2.5Y5/1	縄文地文。沈線による区画文。沈線はやや角張る。

番号	出土位置	色調	特徴
719	6区E24・SD17	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
720	6区E24・9層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
721	6区F24-10層	灰黄色2.5Y6/2	縄文地文。細い沈線（棒状工具）による懸垂文。底部付近。
722	6区E25・3層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文。沈線（棒状工具）による区画文。
723	6区E24-5層	褐灰色10YR4/1	縄文地文（やや崩れている）。沈線（棒状工具）による粗雑な区画文。
724	6区E24・9層・SD17	褐灰色10YR5/1	縄文地文。下部はナデ。沈線（棒状工具）による粗雑な区画文。
725	6区E23・5層	橙色5YR6/6	縄文地文（やや崩れている）。半截竹管による粗雑な区画文。
726	6区E24-9層	黄褐色2.5Y5/3	縄文地文（やや崩れている）。沈線（棒状工具）による粗雑な区画文。
727	6区E24・3層	黒色7.5YR1.7/1	縄文地文。下部はナデ。
728	6区E24-5層	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文。中央はナデ。
729	6区E23・5層	黒褐色10YR2/2	縄文地文。
730	6区E23-1層	黒褐色10YR3/1	縄文地文。
731	6区E24-7層	黄灰色2.5Y5/1	粗い縄文地文。
732	6区E23-1層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文。
733	6区E25-8層	黄灰色2.5Y4/1	縄文地文。湾曲強い。
734	5区G22・10層	褐色7.5YR4/4	縄文地文。
735	5区G21-8層	褐色7.5YR4/4	縄文地文。
736	6区E24	黄灰色2.5Y6/1	外面にナデ。沈線（半截竹管？）による区画文。
737	6区E24-9層	黄灰色2.5Y6/1	外面にナデ。沈線（半截竹管？）による区画文。
738	6区E23-1層	にぶい黄橙色10YR6/3	外面にナデ。沈線（棒状工具）による区画文。
739	6区E24・SD17	暗灰黄色2.5Y5/2	外面にナデ。沈線（棒状工具）による区画文。
740	6区F25-1層	灰黄褐色10YR5/2	外面にナデ。沈線（棒状工具）による区画文。
741	6区E24・1層	にぶい黄橙色10YR6/3	外面にナデ。やや深い沈線（棒状工具）による区画文。
742	6区E24-1層	灰褐色10YR5/2	外面にナデ。沈線（棒状工具）による区画文。
743	6区E24・SD17	黒色10YR2/1	外面にナデ。沈線（棒状工具）による区画文。
744	6区F24・5層	にぶい黄褐色10YR5/4	外面にナデ。沈線（棒状工具）による粗雑な区画文。
745	6区E23・5層	にぶい黄橙色10YR6/3	外面にナデ。沈線（棒状工具）による粗雑な区画文。
746	6区E24	にぶい黄褐色10YR5/3	外面にナデ。細い沈線（棒状工具）による区画文。
747	6区E24・4層	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。
748	5区・7層	黒色10YR2/1	外面にナデ。
749	6区E24・5層	褐灰色7.5YR4/1	外面にナデ。（細かな擦痕）。
750	6区E23-5層・E24・SD17	褐灰色10YR4/1	外面にナデ。
751	6区E24・SD17	暗灰黄色2.5Y5/2	外面にナデ。
752	6区E23・9層・10層	灰黄褐色10YR4/2	外面にナデ。
753	6区E24-10層	暗灰黄色2.5Y5/2	外面にナデ。底部付近。
754	6区E24・5層	暗オリーブ褐色2.5Y3/3	外面にナデ。
755	6区E23・24-3層	灰黄褐色10YR5/2	外面にナデ。
756	6区E24・7層・9層	灰黄褐色10YR4/2	結節縄文地文。隆帯による渦文と区画文。
757	6区E24・SD17	黒褐色10YR3/1	結節縄文地文。波状口縁。比較的低い隆帯と沈線による渦文と区画文。
758	6区E25・3層	灰黄色2.5Y6/2	地文不明。隆帯と沈線による渦文。胎土に白色砂粒多く、脆い。
759	6区E25-3層	黒褐色7.5YR3/1	結節縄文？。低い隆帯と沈線による縦長区画文。区画文上部に竹管状工具による連続刺突文。胎土に白色砂粒多く、脆い。
760	6区E25-4層	灰黄褐色10YR5/2	地文不明。低い隆帯による縦長区画文。759と同一。
761	6区E25・3層	にぶい黄褐色10YR4/3	地文不明。低い隆帯による区画文。隆帯に沿って竹管状工具による連続刺突文。759と同一か。
762	6区E25・3層	灰黄褐色10YR5/2	外面にナデ。低い隆帯による区画文。上部に竹管による刺突文。径小さい。胎土に白色砂粒目立つ。
763	6区E25-3層	にぶい黄褐色10YR5/3	外面にナデ。低い隆帯による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。径小さい。
764	6区F24・5層	黄灰色2.5Y5/1	結節縄文地文。低い隆帯による区画文。隆帯上部に連続刺突文。白色砂粒多い。
765	5区I23	橙色5YR6/6	地文不明。隆帯による区画文。隆帯上部に竹管状工具による細かな刺突文。胎土に白色砂粒目立つ。
766	6区E24-SD17	黄灰色2.5Y6/1	縄文地文。横位の隆帯。隆帯上に竹管による小さな円形刺突文。隆帯下に沈線による懸垂文。胎土に白色砂粒混入。
767	6区E24-SD17	黒色7.5YR2/1	縄文地文。低い隆帯上に竹管による円形刺突文。
768	6区E24・5層	黒褐色7.5YR3/1	縄文地文。低い隆帯上に竹管による円形刺突文。
769	6区E23-5層	暗灰黄色2.5Y5/2	地文不明。低い隆帯上に竹管による円形刺突文。隆帯上下に半截竹管による弧状の平行沈線文。
770	6区E25・3層	黒色2.5Y2/1	地文不明。隆帯上に竹管による円形刺突文。
771	6区E24-2層	にぶい黄橙色10YR7/4	縄文地文？。隆帯と沈線による区画文。隆帯上に円形刺突文。

番号	出土位置	色調	特徴
772	6区F23 5層・E24-3層	暗灰黄色2.5Y5/2	外面にナデ。横位の隆帯上に小さな円形刺突文。胎土に白色砂粒混入。
773	6区E24-SD17	黒褐色7.5YR2/2	外面にナデ。横位の隆帯上に小さな円形刺突文。
774	6区E24-10層	灰黄色2.5Y6/3	横位の隆帯上に小さな円形刺突文。上部に条線？。下部に沈線？。
775	6区E24 5層	黒褐色10YR3/2	縄文地文。横位の2条の隆帯。隆帯上に半截竹管状工具による刻み。隆帯下に沈線による懸垂文。
776	6区E24 3層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文？。横位の隆帯上に半截竹管状工具による刻み。胎土に白色砂粒多い。
777	6区E24-3層	黄灰色2.5Y5/1	地文不明。横位の隆帯上に半截竹管状工具による刻み。沈線による懸垂文。
778	6区F25-5層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文？。横位の隆帯上に半截竹管状工具による刻み。胎土に白色砂粒多い。
779	6区F24 15層上	にぶい黄褐色10YR5/3	器壁剥落。幅広の低い隆帯上に半截竹管状工具による刻み。隆帯下に半截竹管による弧状の平行沈線。
780	6区F24 15層上	灰色5Y5/1	器壁剥落。幅広の低い隆帯上に粗い刻み。779と同一か。
781	6区E24-10層	黒色7.5YR1.7/1	粗い縄文地文。幅広の低い隆帯上に粗い刻み。沈線による懸垂文。
782	6区E25 3層	灰黄褐色10YR5/2	結節縄文地文。低い隆帯による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。
783	6区E25 3層	暗灰黄色2.5Y5/2	結節縄文地文。低い隆帯による区画文。782と同一。
784	6区E25 3層	褐灰色10YR4/1	結節縄文地文。低い隆帯による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。
785	6区E25-3層	黒褐色10YR3/2	結節縄文地文。低い隆帯による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。
786	6区E25 2層	暗灰黄色2.5Y4/2	結節縄文地文。低い隆帯による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。782と同一？。
787	6区D24-5層	灰黄褐色10YR5/2	結節縄文地文？。低い隆帯による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。
788	6区E25 3層	灰黄褐色10YR5/2	外面にナデ。低い隆帯による区画文。
789	6区E23-5層	黒褐色7.5YR2/2	結節（2条）縄文地文。隆帯と沈線による区画文。器壁堅緻。
790	6区E23-5層	黒色10YR2/1	結節縄文地文。隆帯と沈線による区画文。789と同一か。
791	6区E23 5層	褐色7.5YR4/3	結節縄文地文。隆帯と沈線による区画文。789と同一か。
792	6区E24-9層	褐灰色10YR6/1	結節縄文地文。隆帯と沈線による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。
793	6区E25	灰黄褐色10YR4/2	結節縄文地文。低い隆帯と沈線による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。
794	6区E24 SD17	暗褐色7.5YR3/3	外面にナデ。低い隆帯と沈線による区画文。
795	6区E25 3層	灰褐色7.5YR4/2	外面にナデ。低い隆帯による区画文。底部付近。胎土に白色砂粒目立つ。
796	6区E25-3層	黒褐色10YR3/1	結節縄文地文。隆帯による区画文。底部付近。
797	6区E25-3層	橙色5YR6/6	縄文地文。横位の隆帯。隆帯上部に円形刺突文。沈線による懸垂文。やや厚手。
798	6区E23 5層	黒褐色7.5YR2/2	結節（3条）縄文地文。沈線による逆U字状の区画文。
799	6区E23 5層	黒褐色10YR3/1	結節縄文地文。沈線による逆U字状の区画文。湾曲強い。
800	6区E24-10層	灰黄褐色10YR5/2	結節縄文地文(結節のみ)。沈線による逆U字状の区画文。上部に弧紋。胎土に砂粒目立つ。
801	6区E23 5層	黒褐色10YR3/1	結節縄文地文。沈線による区画文。
802	6区E25 3層	灰黄褐色10YR4/2	結節縄文地文。沈線による区画文。厚手。
803	6区F24-5層	黒色7.5YR1.7/1	結節縄文地文。沈線による区画文。
804	6区F24 5層	黒褐色7.5YR2/2	結節縄文地文。沈線による区画文。
805	6区E23-5層	黒褐色10YR2/3	結節縄文地文。
806	6区E24 9層	にぶい黄褐色10YR6/4	結節縄文地文。沈線による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。
807	6区E24 10層	灰黄色2.5Y6/2	結節縄文地文。
808	6区E24-9層	黒褐色10YR3/1	結節縄文地文。
809	6区E24-10層	黒色10YR2/1	結節縄文地文。
810	6区E25 3層	にぶい橙色7.5YR6/4	結節縄文地文？。低い隆帯による区画文。胎土に白色砂粒目立つ。器壁粗い。
811	6区E24-10層	暗灰黄色2.5Y5/2	縄文地文（結節？）。沈線による区画文。下部に縦位の隆帯。底部付近。
812	6区F24 9層	黄灰色2.5Y6/1	縄文地文（結節？）。縦位に三角形状の隆帯。底部付近。
813	6区E24-10層	灰黄褐色10YR6/2	脚部。四方に三角形状の透かし。縦位に三角形状の隆帯。底部内面黒い。
814	6区F24-3層・5層	にぶい黄橙色10YR6/3	脚部。上部に円形、下部に逆U字状の透かし。縦位の隆帯。胎土に砂粒目立つ。
815	6区E24 5層	にぶい黄橙色10YR7/4	脚部。縦位の隆帯。胎土に白色砂粒目立つ。器壁粗い。
816	6区E23-5層	にぶい黄褐色10YR5/3	脚部。縦位の隆帯。隆帯に沿ってヘラ状工具による刺突文。透かしあり。底部内面黒い。胎土に白色砂粒目立つ。
817	6区D25-1層	赤褐色5YR4/8	結節縄文地文。隆帯による区画文。脚部接合部に刺突文。底部内面黒い。胎土に白色砂粒目立つ。
818	6区E24-5層	にぶい黄橙色10YR7/2	脚部。円形状の透かし。縦位に断面三角形状の隆帯。胎土に白色砂粒混入。
819	6区E24-10層	にぶい黄橙色10YR6/3	脚部。円形状の透かし。縦位の隆起線。胎土に砂粒目立つ。器壁粗い。
820	6区E23	にぶい黄橙色10YR7/3	脚部。円形状の透かし。底部は内側に屈折。
821	6区E24-5層	にぶい黄橙色10YR7/4	脚部。方形状？の透かし。縦位の隆起線。胎土に砂粒目立つ。819と同一か。
822	6区E24 8層	灰黄色2.5Y6/2	脚部。円形状の透かし。縦位の隆帯。胎土に白色砂粒目立つ。器壁粗い。
823	6区E24 5層	にぶい黄橙色10YR6/4	脚部。円形状の透かし。縦位の隆帯？。胎土に砂粒目立つ。器壁粗い。
824	6区E23-5層	灰黄褐色10YR4/2	脚部。外面にナデ。端部は薄くなる。
825	6区E24-5層	にぶい黄橙色10YR7/3	把手付。横位の隆帯。隆帯下に沈線文。胎土に白色砂粒目立つ。器壁粗い。

番号	出土位置	色調	特徴
826	6区E24 8層	灰黄褐色10YR5/2	外面にナデ。半截竹管による平行沈線文。沈線間も低くなる。
827	6区E25-3層	黒褐色7.5YR3/2	地文不明。口唇部に棒状工具による円形状刺突文。
828	6区F24-5層	黄灰色2.5Y6/1	地文不明。口縁部折り返し状。胎土に砂粒目立つ。
829	6区F24 5層	灰黄褐色10YR6/2	地文不明。口縁部折り返し状。半截竹管による懸垂文？。胎土に砂粒目立つ。
830	6区F25-3層	にぶい黄橙色10YR6/3	地文不明。隆帯による区画文。隆帯に沿って竹管状工具による刺突文。胎土に白色砂粒目立つ。
831	6区E24 5層	暗褐色7.5YR3/4	縄文地文。器壁剥落。隆帯による楕円区画。縦位の隆帯上に円形の刺突文。
832	6区F25-2層	黒褐色10YR3/2	外面にナデ。横位の隆帯。隆帯上に竹管による円形の刺突文。
833	6区E24 9層	黄灰色2.5Y5/1	外面にナデ。横位の隆帯。隆帯上に竹管による円形の刺突文。832と同一。
834	6区E24-3層	橙色5YR7/6	地文不明。隆帯による区画文。隆帯上に円形の刺突文。
835	6区E24 10層	にぶい黄橙色10YR7/3	外面にナデ。横位の沈線と円形の刺突文。胎土に砂粒目立つ。
836	6区E23-5層	褐色7.5YR4/3	外面にナデ。隆帯上部に棒状工具による刻み。
837	5区SX05	灰黄色2.5Y6/1	外面にナデ。隆帯上に刻み。沈線による懸垂文。
838	6区E25 3層	灰黄褐色10YR4/2	外面にナデ。低い隆帯上に棒状工具による刻み。
839	6区E24-7層	褐色10YR4/1	縄文地文。横位の隆帯下部に楕円形状の刺突文。上部は沈線文。
840	6区E23	黒褐色10YR3/1	縄文地文。横位の隆帯上部に刺突文。沈線による懸垂文。
841	6区E24-1層	にぶい褐色7.5YR5/3	外面にナデ。低い隆帯下部に棒状工具による楕円形状の刺突文。胎土に白色砂粒目立つ。
842	6区E24-SD17	灰黄褐色10YR6/2	縄文地文。低い隆帯下部に棒状工具による楕円形状の刺突文。841と同一か。
843	6区F24 1層	灰黄色2.5Y6/2	縄文地文？。器壁剥落。隆帯による区画文。隆帯上に竹管状工具による刻み。隆帯に沿って半截竹管による平行線文。
844	6区E24 10層	灰黄褐色10YR5/2	縄文地文。隆帯に沿って半截竹管による平行線文。隆帯上に竹管による刻み。
845	6区D23・24・E24 9層	にぶい黄橙色10YR6/3	縄文地文。隆帯に沿い半截竹管による平行線文。隆帯上に半截竹管による刻み。844と同一か。
846	6区F24-15層上	灰黄色2.5Y6/2	縄文地文。隆帯に沿い半截竹管による平行線文。隆帯上に半截竹管による刻み。
847	6区E25 3層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文？。低い隆帯上に浅い爪形文？。隆帯下に弧状の沈線文。胎土に砂粒目立つ。
848	4区	赤褐色2.5YR4/8	地文不明。低い隆帯状に竹管による刻み。胎土に砂粒目立つ。
849	6区E24-10層	にぶい黄橙色10YR6/3	地文不明。低い幅広の隆帯上にヘラ状工具による縦位の細い沈線。
850	6区E24 9層	にぶい褐色7.5YR5/4	外面にナデ。横位と斜位の沈線文。口唇部に円形状の刺突文。胎土に砂粒多い。
851	5区E23	明赤褐色5YR5/8	器壁剥落。口縁部外傾。浅鉢？。胎土に砂粒目立つ。
852	5区F22、6区E25 5層・8層	にぶい黄橙色10YR6/3	内外面にナデ。口縁部外反。鉢？。
853	6区E24-10層	暗灰黄色2.5Y4/2	縄文地文。口縁部外傾。浅鉢。
854	6区E25 3層	にぶい黄橙色10YR7/3	外面にナデ。口縁部小さく外傾。浅鉢？。胎土に砂粒目立つ。
855	6区E23-5層	にぶい褐色7.5YR5/3	外面にナデ。口縁部小さく外反。浅鉢？。
856	6区F24 9層	浅黄色2.5Y7/3	外面器壁剥落。内面丁寧なナデ（ミガキ？）。朱塗り。やや軽い。浅鉢。
857	6区E24-1層	にぶい黄褐色10YR5/3	縄文地文。沈線と微隆帯による渦文。口縁部肥厚して面取り。浅鉢？。
858	5区F22-8層	灰黄褐色10YR4/2	結節縄文地文。厚手。胎土に砂粒多い。
859	5区F21-7層	にぶい黄褐色10YR5/4	結節縄文地文。内面丁寧なナデ。朱塗り。胎土に砂粒多い。
860	5区E23 7層	にぶい黄褐色10YR5/3	粗い結節縄文地文。
861	6区E24 10層	黒色7.5YR2/1	結節縄文地文。沈線による区画文。胎土に砂粒多い。
862	6区D24-8層	にぶい黄橙色10YR6/4	結節縄文地文。沈線による区画文。胎土に砂粒多い。
863	6区E24 8層	にぶい黄橙色10YR6/4	結節縄文地文。半截竹管による区画文。
864	6区E25-3層	灰黄褐色10YR4/2	結節縄文地文。半截竹管による区画文。
865	6区E25 3層	黒褐色7.5YR3/1	結節縄文地文。半截竹管による区画文。
866	6区F25-15層上	にぶい橙色7.5YR6/4	撚糸地文。棒状工具による横線文。器壁堅緻。
867	6区E25 10層	灰黄褐色10YR4/2	細い粘土紐貼付による区画文。隆帯上に細かな縄文（撚糸？）施文。内面に横位の条痕。
868	6区E25-10層・11層	にぶい褐色7.5YR5/4	細い粘土紐貼付による区画。区画内に浅い条線。下部はナデ。胎土に雲母混入。
869	6区E25 8層	にぶい褐色7.5YR5/4	細い粘土紐貼付による区画文。868と同一。
870	5区F22 8層	にぶい黄褐色10YR6/4	器壁剥落。口縁部？。薄手。胎土に雲母混入。
871	6区D23-7層	にぶい黄橙色10YR7/2	外面にナデ。胎土精緻。胎土に雲母混入。
872	6区D23-7層	灰黄色2.5Y7/2	器壁剥落。870と同一か。
873	6区E25 10層	暗灰黄色2.5Y5/2	内外面にナデ。内面に浅い条痕。口唇部に半截竹管状（貝殻？）工具の刺突による刻み。
874	5区F22 7層	褐灰色10YR4/1	内外面にナデ。口唇部に棒状工具の押捺による刻み。
875	6区F25 12層上	黒褐色10YR3/1	内外面にナデ。口唇部に棒状工具の押捺による刻み。
876	6区F24-10層	灰黄褐色10YR5/2	内外面にナデ。口唇部に刻み（貝殻？）。
877	6区E24 10層	黒色10YR1.7/1	半截竹管による条線施文。屈折部？（剥離痕あり）に竹管による刺突文。

番号	出土位置	色調	特徴
878	5区E23 11層	にぶい黄褐色10YR5/3	半截竹管による条線施文。屈折部？(刻職痕あり)に竹管による刺突文。877と同一。
879	5区F22-7層	明赤褐色5YR5/6	器壁剥落。下部に沈線。径小さい。
880	5区G21 11層	にぶい褐色7.5YR5/4	地文不明。口縁部外反。口縁部折り返し状(粘土貼貼)。横位の隆帯上に棒状工具？による刻み。
881	6区E25 2層	灰黄褐色10YR4/2	縄文地文？。口縁部に細い隆帯。
882	5区G21-11層	にぶい褐色7.5YR5/4	地文不明。隆帯上に刻み。880と同一。
883	5区F22-SD17	暗褐色10YR3/3	口縁部にナデ。下部に縄文施文。口縁部外傾。
884	5区F22-11層	黄灰色2.5Y4/1	口縁部にナデ。口縁部外傾。883と同一か。
885	6区F25 8層	黒褐色2.5Y3/2	内外面にナデ。口縁部外反。胎土緻密で堅緻。
886	6区F24-10層	灰黄褐色10YR4/2	内外面にナデ。口縁部外反。885と同一か。
887	6区F24 12層上	にぶい褐色7.5YR5/4	外面に横位の条痕。
888	5区F22-9層	灰白色5Y7/1	器壁剥落。竹管状工具による刺文。胎土に砂粒目立つ。
889	5区F22-7層	褐灰色10YR6/1	棒状工具による沈線文。胎土に砂粒目立つ。
890	6区E25 4層	黒褐色5YR2/1	円筒状の突起。低い三角形状の隆帯と沈線文。
891	6区F24 10層	黒褐色10YR3/1	外面にナデ。内面に細い条痕。底部外面にドーナツ状の強いナデ(接合部か)。胎土精緻。
892	6区F24 10層	褐色7.5YR4/4	内外面にミガキ。口縁部肥厚し、三角形状。浅鉢。
893	6区E25-8層	灰黄褐色10YR5/2	内外面にミガキ。892と同一。
894	6区F24 12層上	灰黄褐色10YR5/2	内外面にミガキ。上部屈折。892と同一。
895	6区E24-10層	黄灰色2.5Y4/1	内外面にミガキ。上部屈折。892と同一。
896	6区E24-SR01	灰黄褐色10YR4/2	内外面にミガキ。892と同一。
897	5区E23 8層	にぶい褐色7.5YR5/4	土製円盤。細かい平行沈線地文。胎土に砂粒目立つ。
898	5区F22-7層	赤褐色5YR4/6	土製円盤。地文不明。胎土に砂粒目立つ。
899	6区E24 5層	にぶい褐色7.5YR5/4	土製円盤。縄文地文？。
900	6区E24	にぶい黄橙色10YR6/4	土製円盤。縄文地文？。
901	5区F21 7層	にぶい褐色7.5YR5/4	土製円盤。外面ナデ。緻半。

表4　出土石器観察表

番号	出土地点	種類	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
902	3区R14	打斧	8.0	4.8	1.1	60.5	頁岩	短冊形。刃部摩耗。
903	5区F22 7層	打斧	(9.5)	(6.3)	1.5	116.3	粘板岩	撥形。刃部欠損。
904	6区E23-5層	打斧	(8.8)	5.1	1.1	70.3	粘板岩	短冊形。基部欠損。
905	6区F24-5層	打斧	9.4	5.6	2.5	101.0	粘板岩	撥形。刃部摩耗。
906	6区E24 10層	打斧	9.1	4.6	1.5	71.7	粘板岩	撥形。刃部摩耗。
907	6区E24-9層	打斧	9.0	5.1	1.1	55.0	粘板岩	撥形。刃部背面欠損。
908	5区F22 11層	打斧	(14.2)	5.8	1.3	122.8	粘板岩	撥形？。刃部欠損。
909	5区F22 11層	打斧	(6.6)	(4.6)	(1.0)	35.4	粘板岩	基部のみ。
910	6区E24	打斧	(8.9)	(6.2)	(1.7)	89.1	砂岩	撥形。刃部欠損。
911	5区G21-11層	打斧	9.2	3.0	1.5	40.2	粘板岩	短冊形。再利用？。
912	6区E23 5層	打斧	8.0	6.4	1.5	79.9	頁岩	撥形。
913	6区E25-3層	打斧	10.3	7.2	1.8	126.9	粘板岩	撥形。刃部摩耗。
914	6区E23 5層	打斧	(8.0)	5.6	2.0	98.5	粘板岩	撥形。基部欠損。
915	6区E24-8層	打斧	10.8	6.6	3.3	245.3	砂岩	撥形。刃部摩耗。
916	5区	石鏃	1.9	1.3	0.4	0.7	黒曜石	無茎。
917	6区	石鏃	(1.9)	1.7	0.4	0.8	頁岩	無茎抉入。先端欠損。
918	6区E25-3層	石鏃	(1.8)	2.1	0.3	1.3	頁岩	無茎抉入。先端欠損。
919	5区F22 7層	スクレイパー	5.7	3.2	1.3	21.1	頁岩	一辺の片面に調整加工。
920	6区F24-15層上	スクレイパー	3.9	3.6	1.3	16.5	頁岩	一辺の片面に調整加工。
921	5区F21 14層	スクレイパー	4.1	3.0	1.1	12.5	チャート	
922	6区E24-8層	スクレイパー	4.3	3.2	0.9	8.9	頁岩	
923	5区F22-7層	スクレイパー	4.1	3.5	1.1	11.6	頁岩	一辺の片面に調整加工。
924	5区E21 7層	スクレイパー	2.9	2.7	0.8	6.1	頁岩	
925	5区F22-7層	石鏃？	2.3	2.0	0.6	3.2	チャート	未製品か。
926	5区F22 7層	石匙	(3.3)	7.7	1.4	36.1	頁岩	基部欠損か。
927	6区E25	石棒	23.0	13.4	12.1	---		表面敲打。
928	6区F24-5層	石皿？	22.0	8.3	4.9		砂岩	円面摩耗。
929	6区G24-15層上	磨石？	8.2	2.7	3.5	---		一面摩耗。
930	6区F24 5層	凹石	16.3	10.9	2.5		砂岩	両面に凹み。片面摩耗。
931	6区E25	凹石	10.4	7.9	7.4	---	砂岩	4側に凹み。

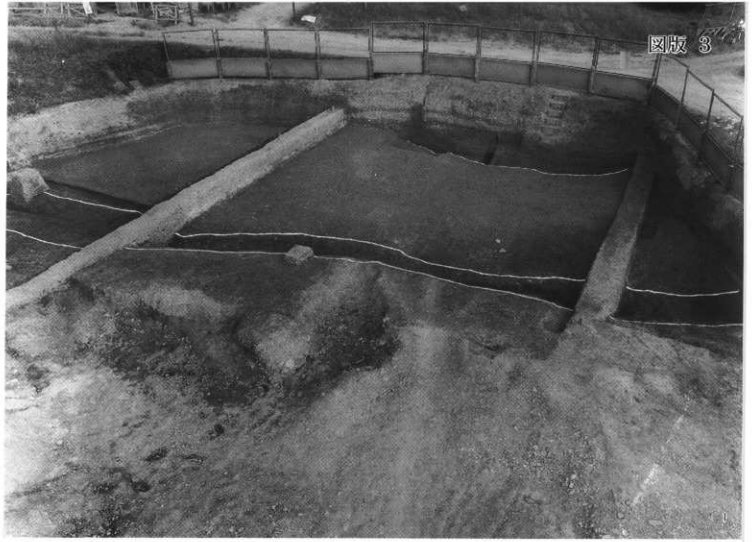
図　　版

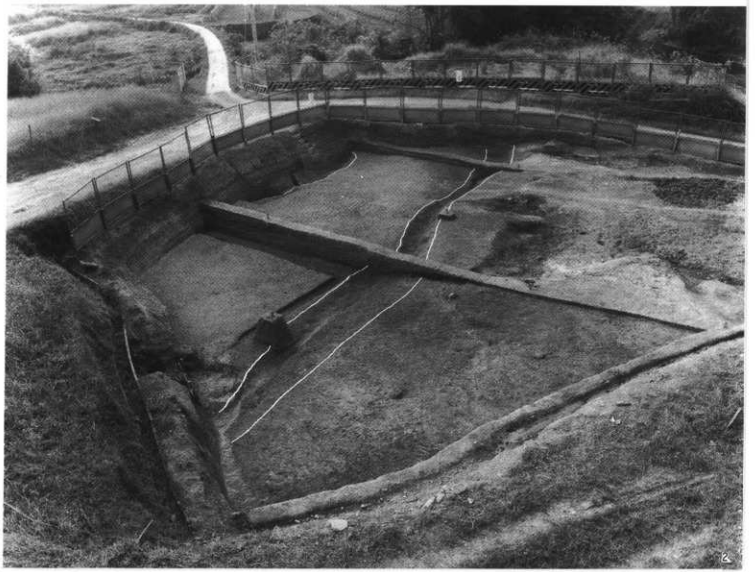
(写 真)

図版Ⅰ　遺跡周辺環境Ⅰ（空中写真）

図版 2　遺跡周辺環境 2（空中写真）

図版３　１．５区完掘状況（I2層上面・西から）
　　２．５区完掘状況（I2層上面・北から）





図版4　1．6区完掘状況（北西から）
　　2．6区完掘状況（東から）

図版５　１．５区Ｆ21グリッド土層断面
２．５区Ｆ22グリッド土層断面
３．５区Ｆ22グリッドSD－16土層断面

図版 5

図版６　１．６区Ｅ24グリッド土層断面
２．６区Ｅ24グリッドSD－17土層断面
３．６区Ｆ24グリッド土層断面

1

2

3

図版7　1．土器出土状況（F24グリッド）
2．土器出土状況（F21グリッド）
3．土器出土状況（F24グリッド）
4．流木出土状況（NO.14）
5．流木出土状況（E24グリッド）

1

2

3

4

5

図版8　出土土器（1）
実測図番号　1～9

1

2

3

4

5

6

7

8

9

図版9　出土土器　(2)
実測図番号　10～19

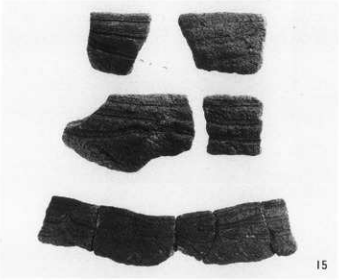
10

11

12

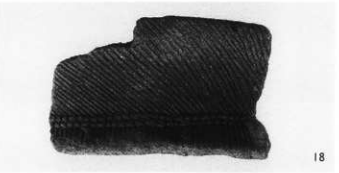
13

14


15

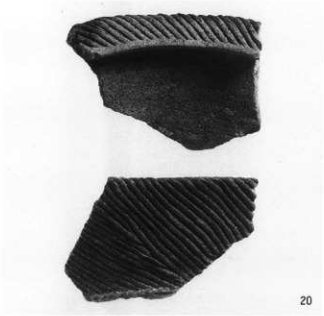
16

17


18

19

図版10　出土土器　(3)
実測図番号　20～28


20

21

22

23

24

25

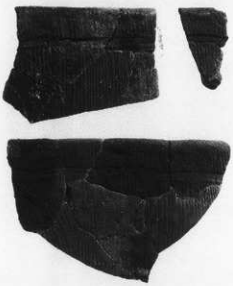
26

28

27

図版11　出土土器（4）
実測図番号　29～38

29


30

31

32

33

34

35

36

37

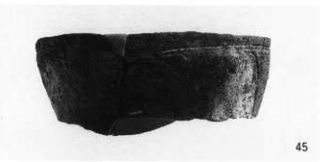
38

図版12　出土土器　(5)
実測図番号　39～47

39

43

40


45

41

46

42

47

44

図版13　出土土器　(6)
実測図番号　48～50・59・61・77・79・82・87・88・91

48

49

50

59

61

77

79

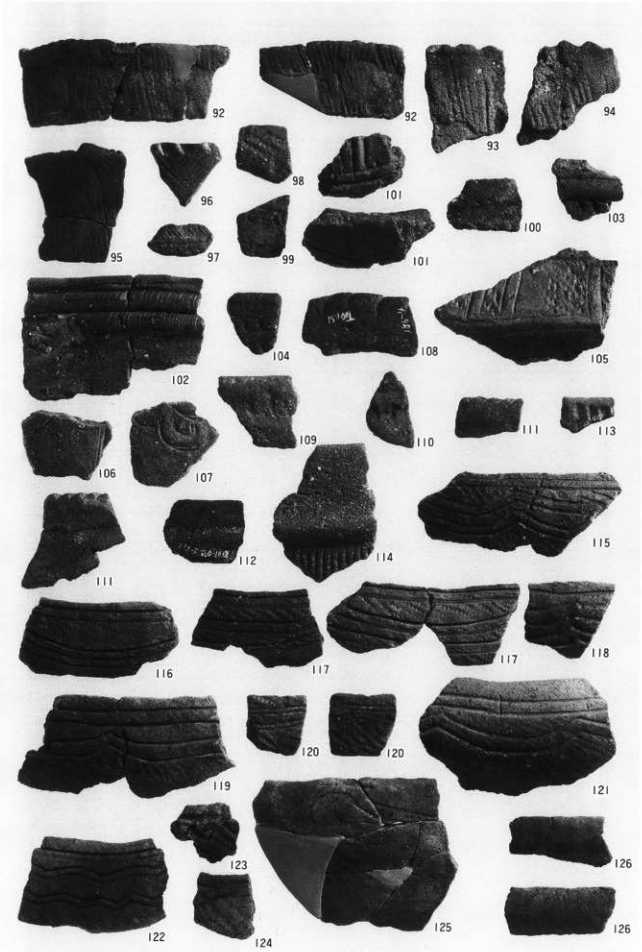
82

87

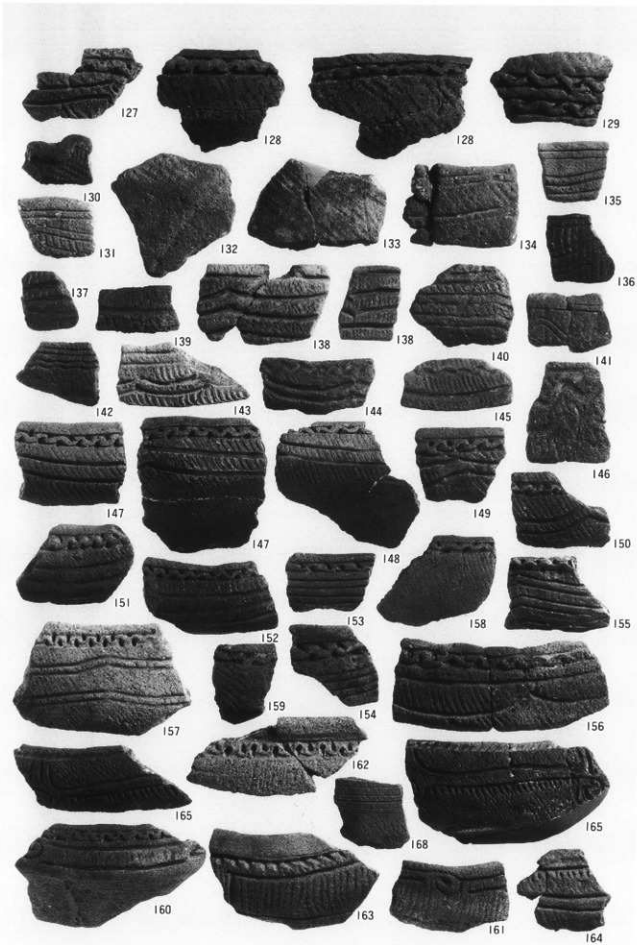
88

91

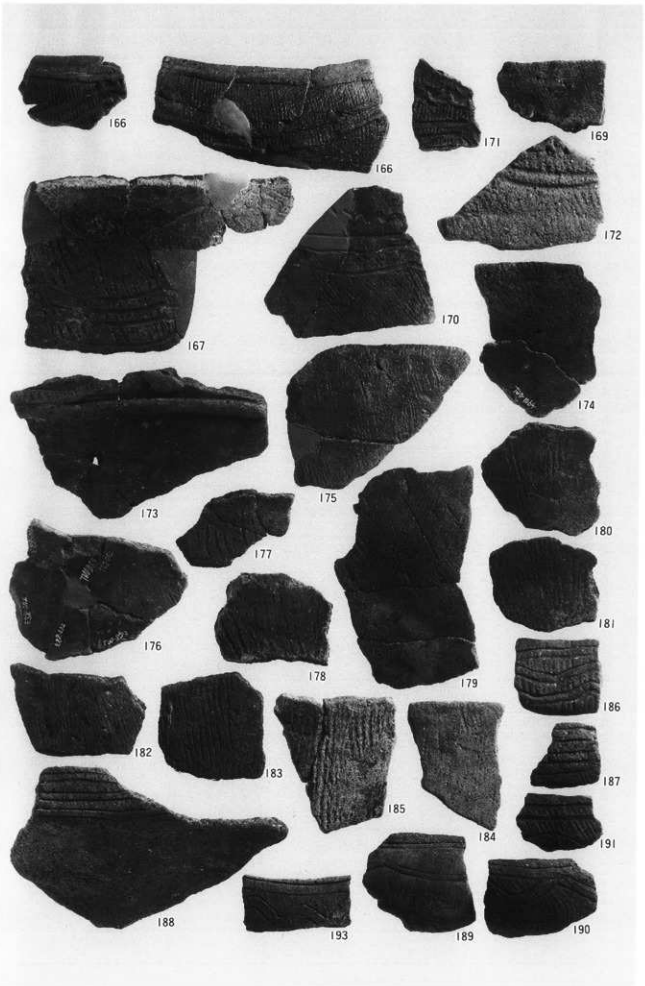
図版14　出土土器　(7)
実測図番号　92～126


92
92
93
94
95
96
97
98
99
101
101
100
103
102
104
108
105
106
107
109
110
111
113
111
112
114
115
116
117
117
118
119
120
120
121
122
123
124
125
126
126

図版15　出土土器　(8)
実測図番号　127～165・168


127
128
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
147
148
149
150
151
152
153
155
157
158
159
154
156
162
165
165
168
160
163
161
164

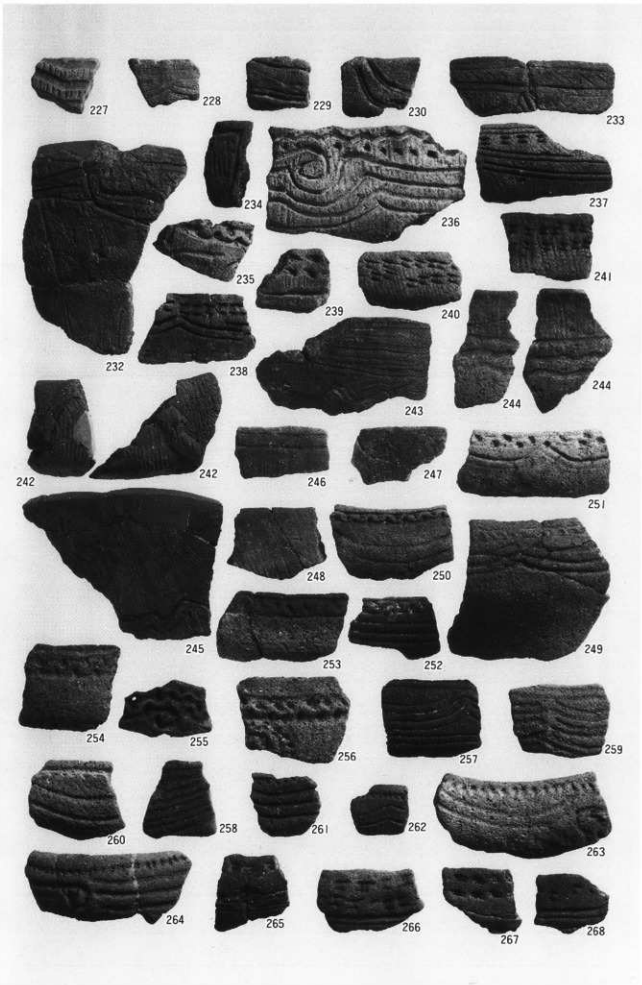
図版16　出土土器　(9)
実測図番号　166・167・169～191・193


166
166
171
169
172
167
170
174
173
175
180
177
176
178
179
181
186
182
183
185
184
187
191
188
193
189
190

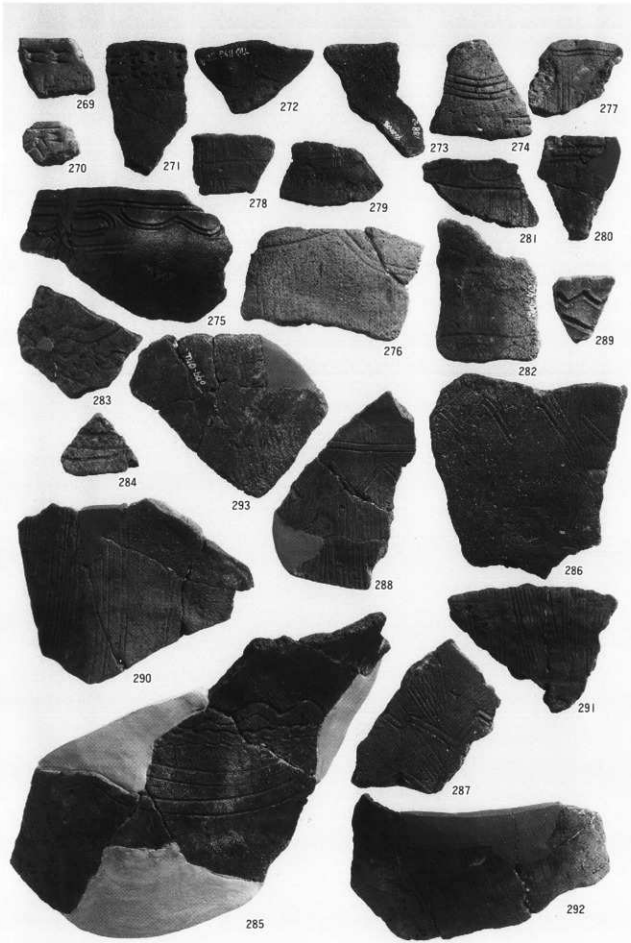
図版17　出土土器　(10)
実測図番号　192・194～226・231

192
192
194
194
195
200
196
197
198
199
200
201
201
202
203
204
208
205
206
207
213
209
209
210
211
212
216
214
215
218
217
219
220
222
224
225
223
221
226
226
231

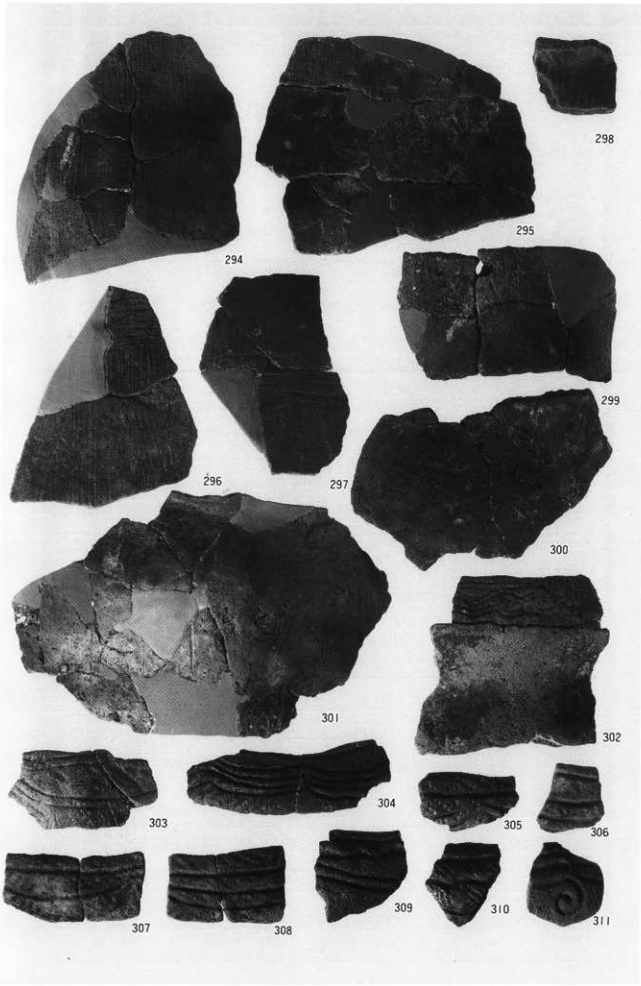
図版18　出土土器　(11)
実測図番号　227～230・232～268


227
228
229
230
233
234
236
237
235
241
239
240
232
238
243
244
244
242
242
246
247
251
245
248
250
253
252
249
254
255
256
257
259
260
258
261
262
263
264
265
266
267
268

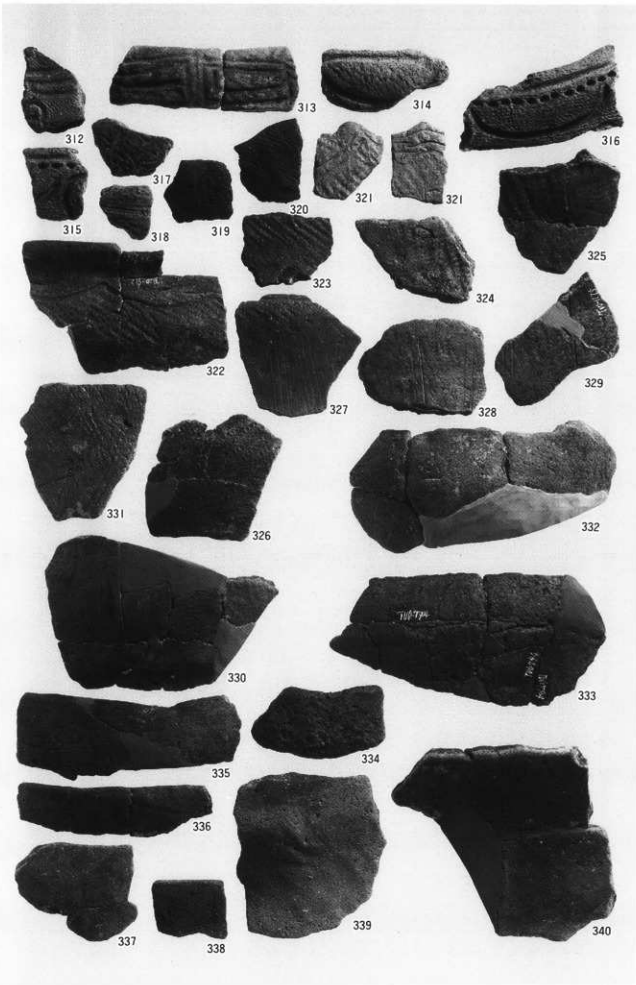
図版19　出土土器　(12)
実測図番号　269～293


269
270
271
272
273
274
277
278
279
280
281
275
276
289
282
283
284
293
288
286
290
291
287
285
292

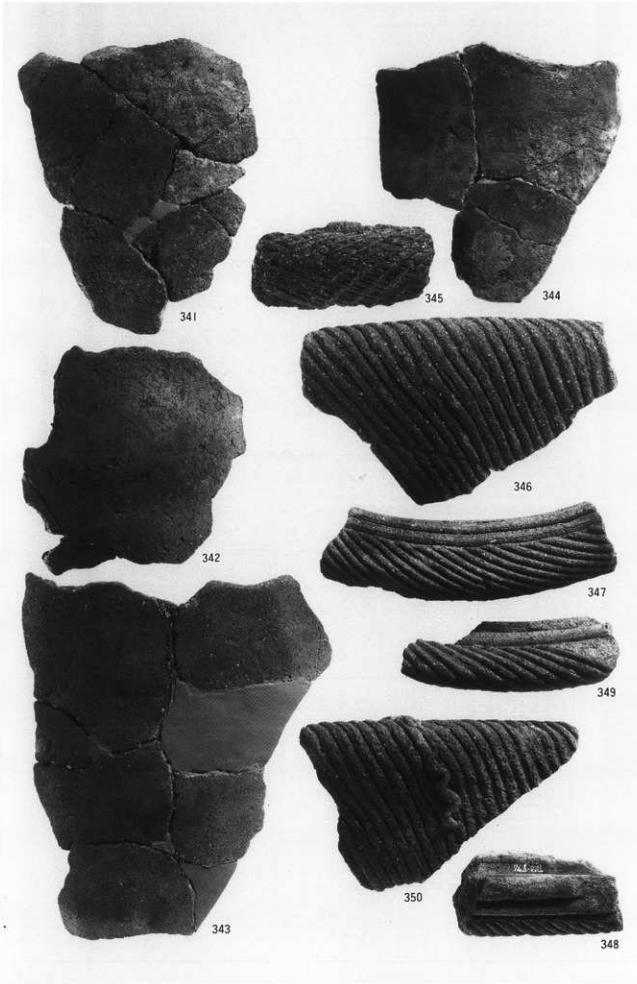
図版20　出土土器　(3)
実測図番号　294～311


294
295
298
299
296
297
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311

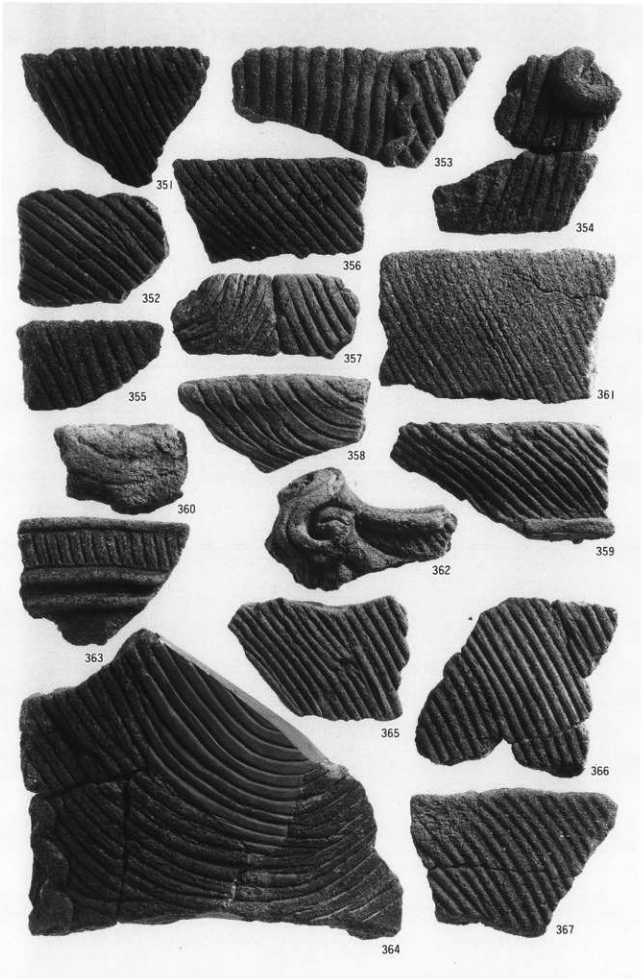
図版21　出土土器　(4)
実測図番号　312～340


312
313
314
316
315
317
318
319
320
321
321
325
322
323
324
327
328
329
331
326
332
330
333
335
334
336
337
338
339
340

図版22　出土土器　(15)
実測図番号　341～350


341
345
344
346
342
347
349
343
350
348

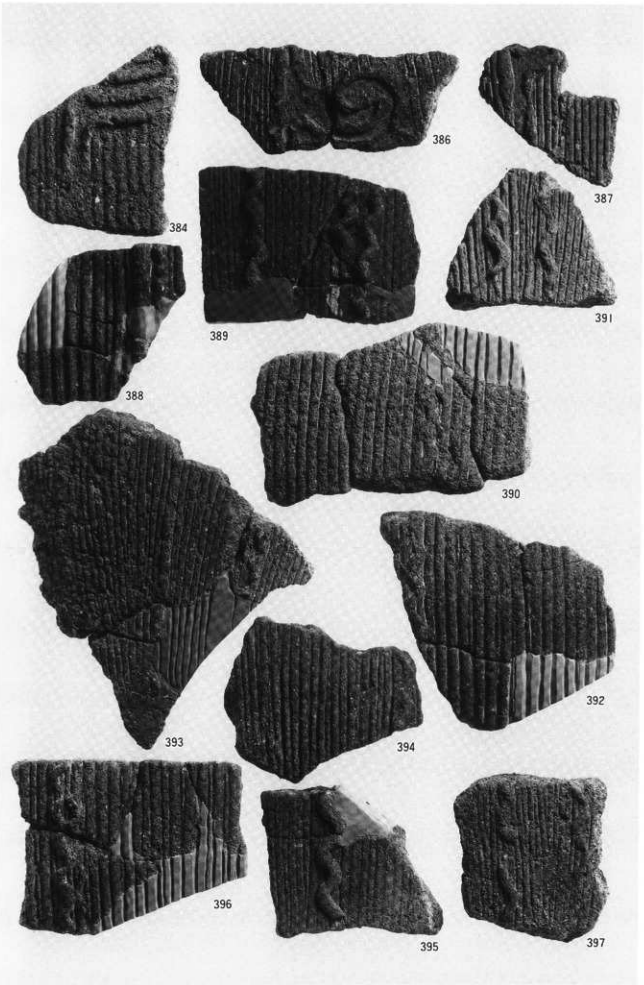
図版23　出土土器　(16)
実測図番号　351～367


351
353
354
352
356
357
355
361
358
360
359
362
363
365
366
364
367

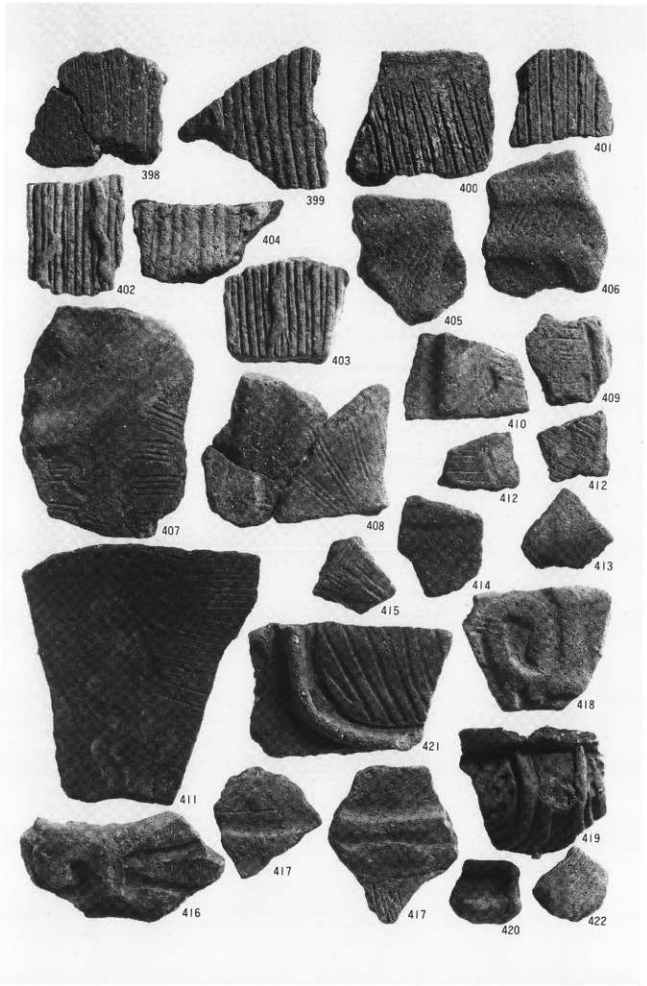
図版24　出土土器　(17)
実測図番号　368～383・385

368
371
370
375
372
369
374
373
376
379
377
378
380
383
385
381
382

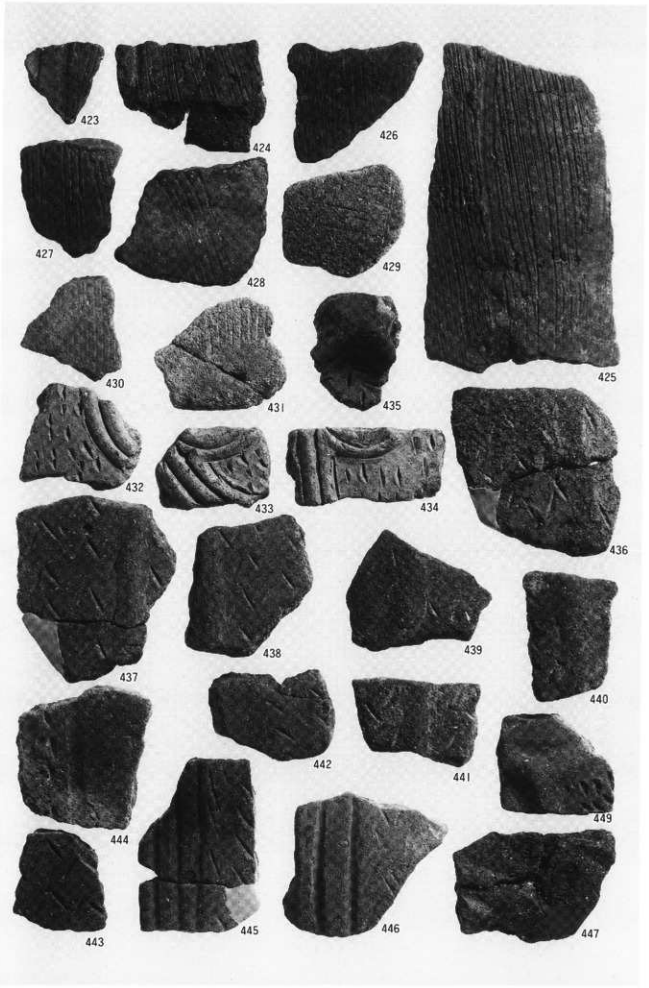
図版25　出土土器　(18)
実測図番号　384・386～397


384
386
387
389
391
388
390
393
392
394
396
395
397

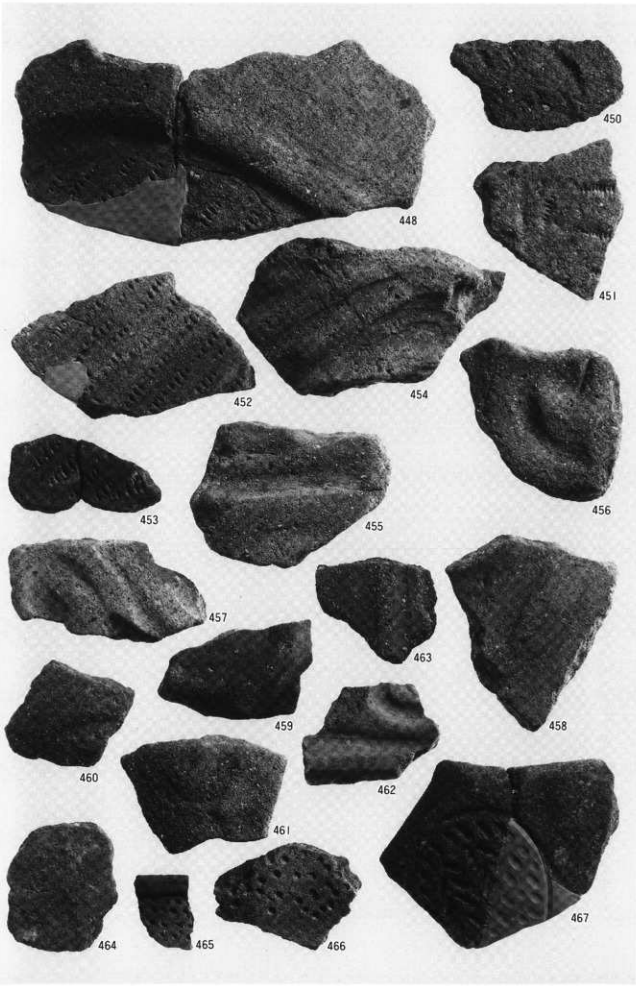
図版26　出土土器　(9)
実測図番号　398～422


398
399
400
401
402
404
405
406
403
407
408
409
410
412
412
413
414
415
411
418
421
419
416
417
417
420
422

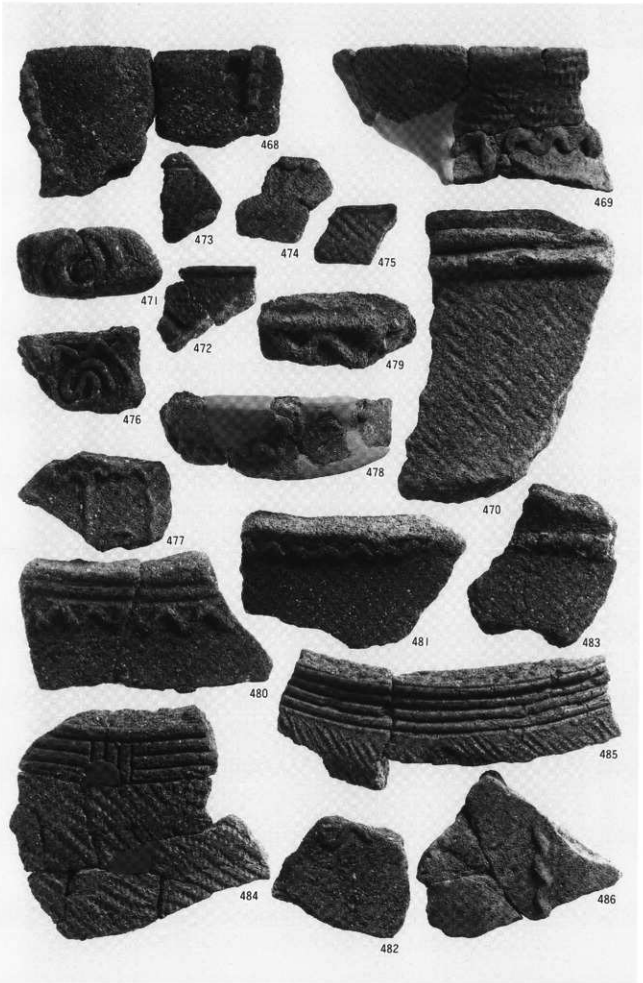
図版27　出土土器　(20)
実測図番号　423～447・449


423
424
426
427
428
429
425
430
431
435
432
433
434
436
437
438
439
440
442
441
444
449
443
445
446
447

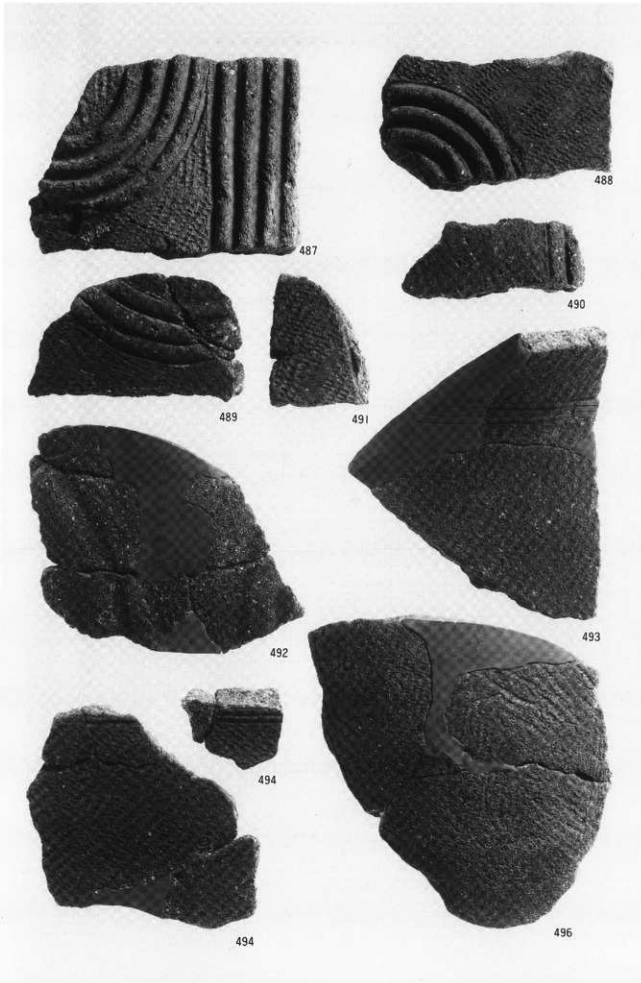
図版28　出土土器　(21)
実測図番号　448・450～467


448
450
451
452
454
456
453
455
457
463
458
459
460
462
461
464
465
466
467

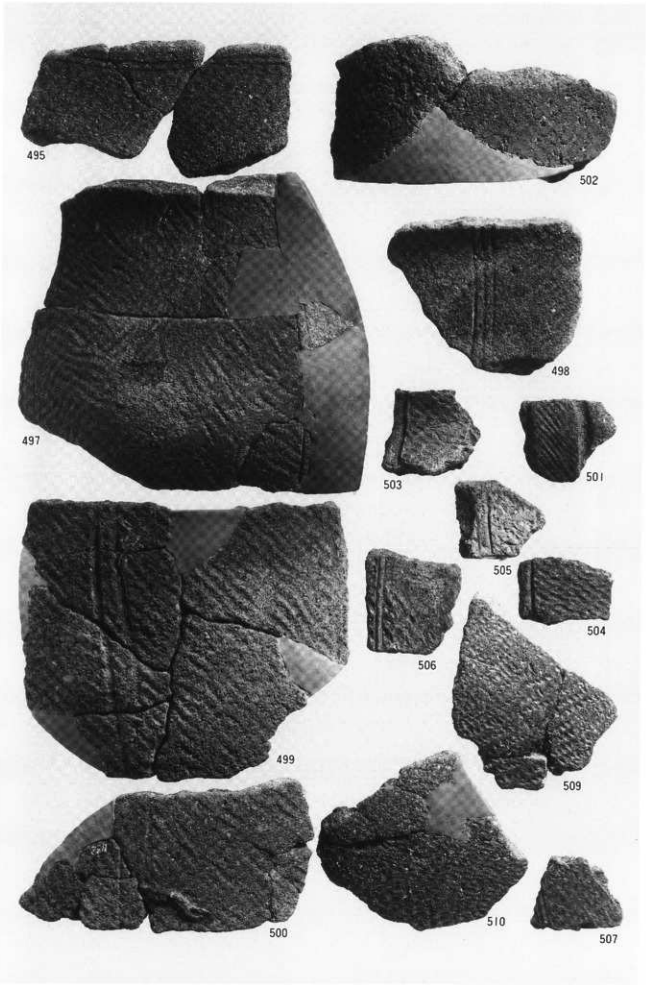
図版29　出土土器 (22)
実測図番号　468～486


468
469
473
474
475
471
472
479
476
478
470
477
481
483
480
485
484
482
486

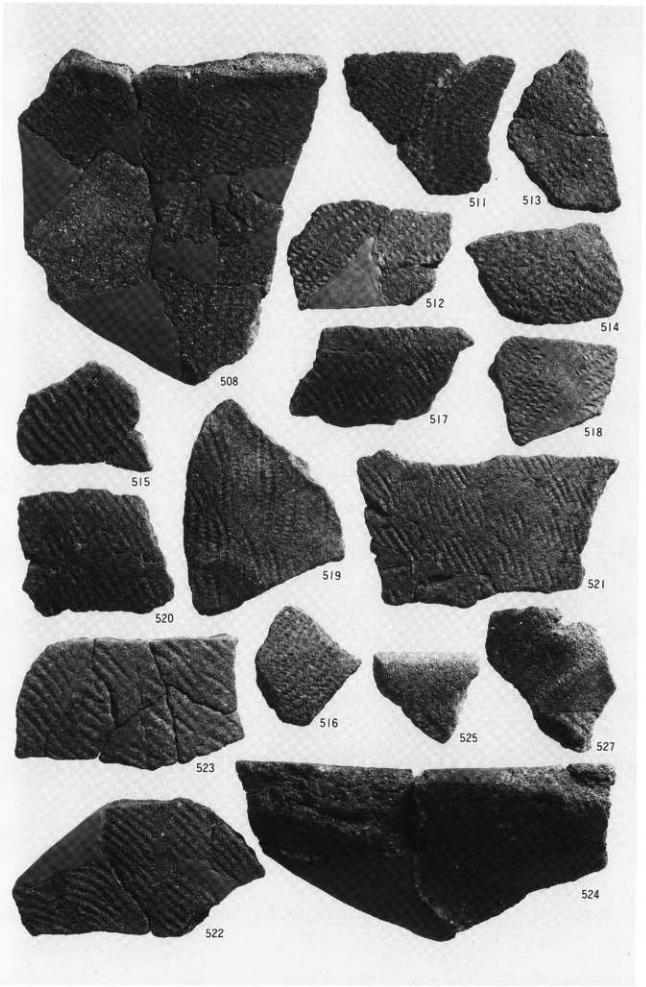
図版30　出土土器　(23)
実測図番号　487～494・496


487
488
490
489
491
492
493
494
494
496

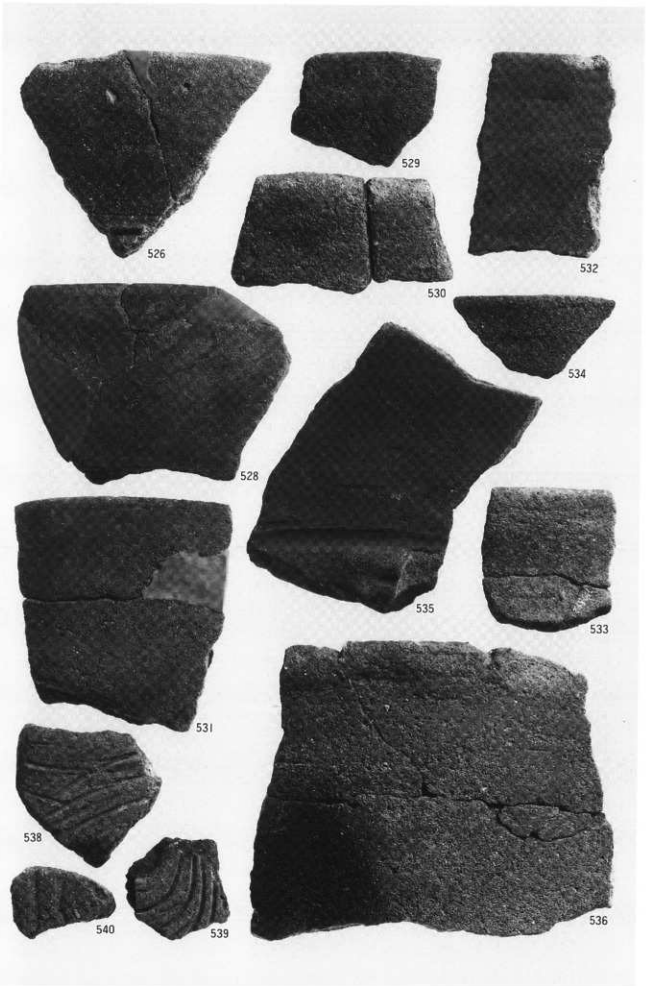
図版31　出土土器　(24)
実測図番号　495・497～507・509・510


495
502
497
498
503
501
505
504
506
499
509
500
510
507

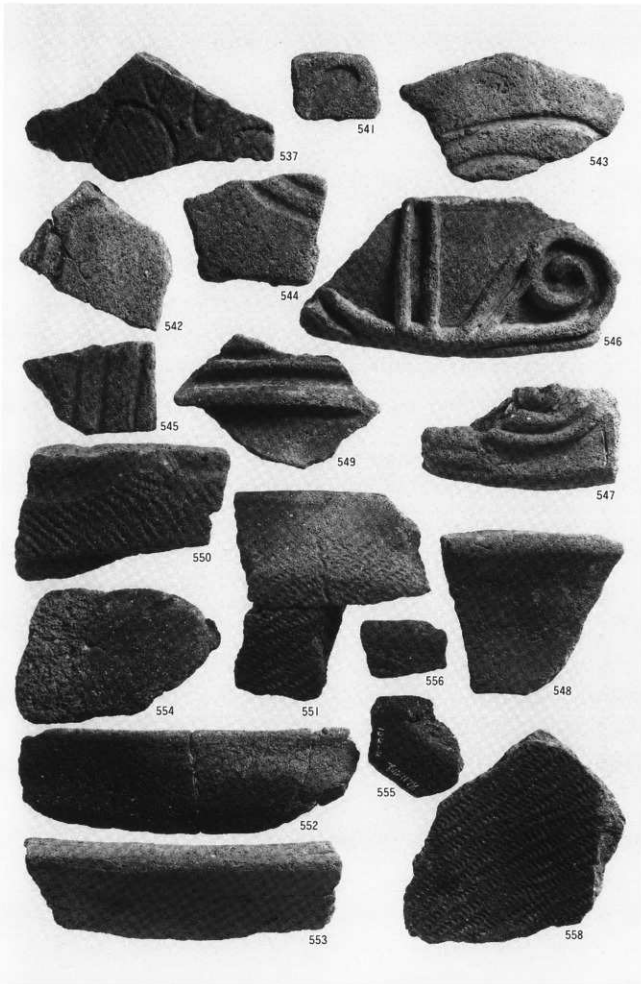
図版32　出土土器　(25)
実測図番号　508・511～525・527


508
511
513
512
514
517
518
515
519
521
520
516
525
527
523
524
522

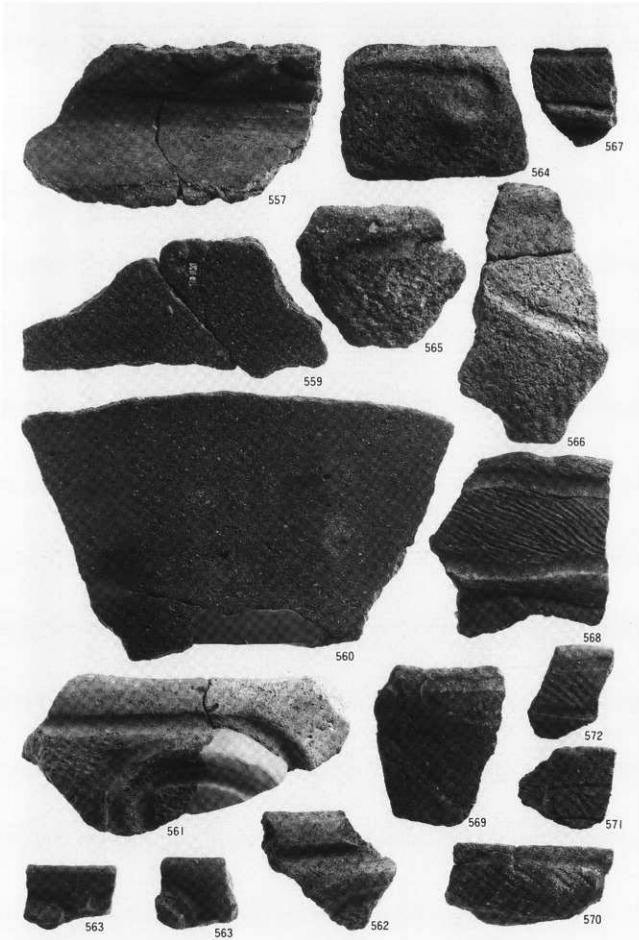
図版33　出土土器 (76)
実測図番号　526・528～536・538～540


526
529
530
532
534
528
535
533
531
538
540
539
536

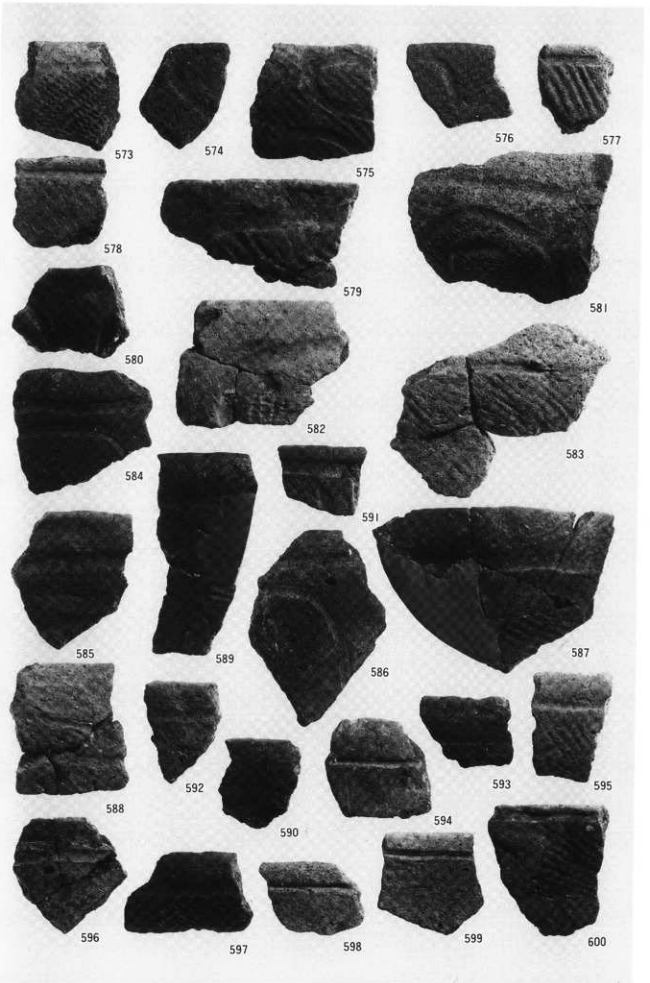
図版34　出土土器　(27)
実測図番号　537・541～556・558


537
541
543
542
544
546
545
549
547
550
551
548
554
556
555
552
553
558

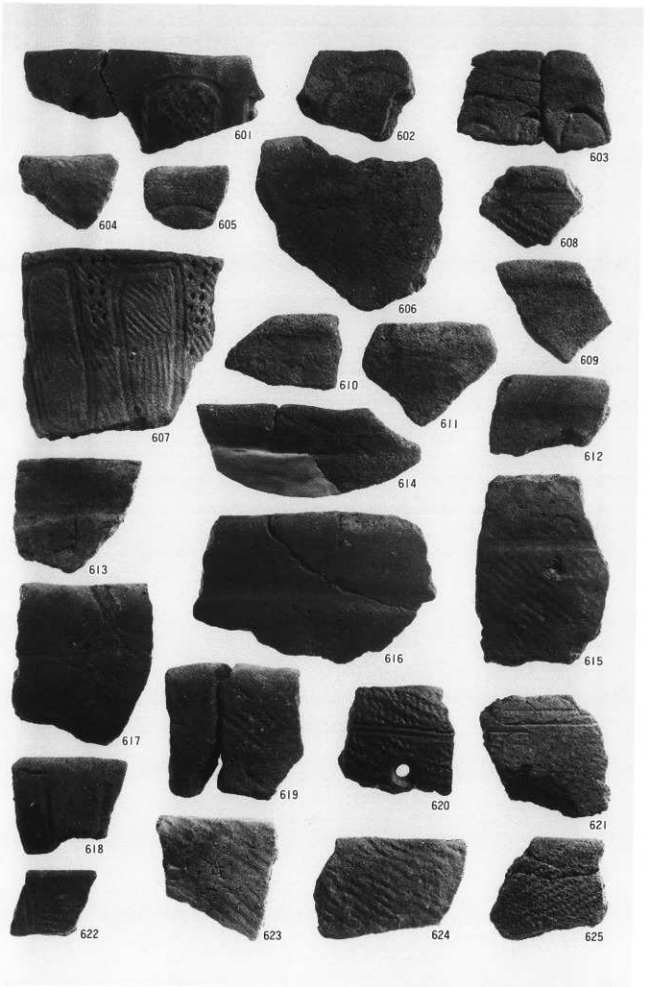
図版35　出土土器　(20)
実測図番号　557・559～572


557
564
567
559
565
566
560
568
572
561
569
571
563
563
562
570

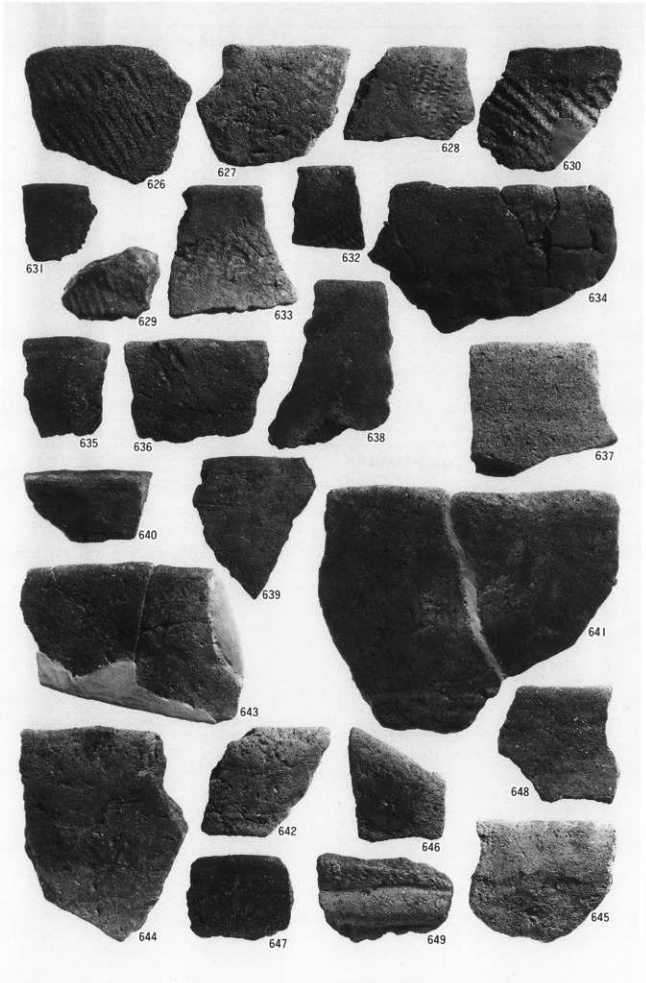
図版36　出土土器　(29)
実測図番号　573～600


573
574
575
576
577
578
579
581
580
582
583
584
591
585
589
586
587
588
592
590
593
595
594
596
597
598
599
600

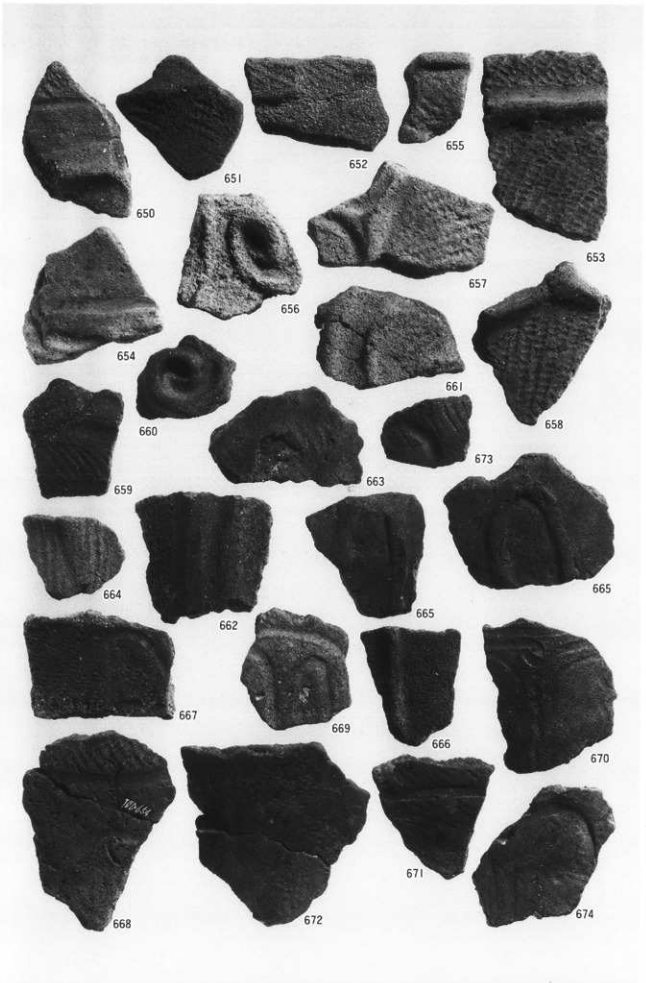
図版37　出土土器　(30)
実測図番号　601～625


601
602
603
604
605
606
608
607
609
610
611
612
614
613
616
615
617
619
620
621
618
622
623
624
625

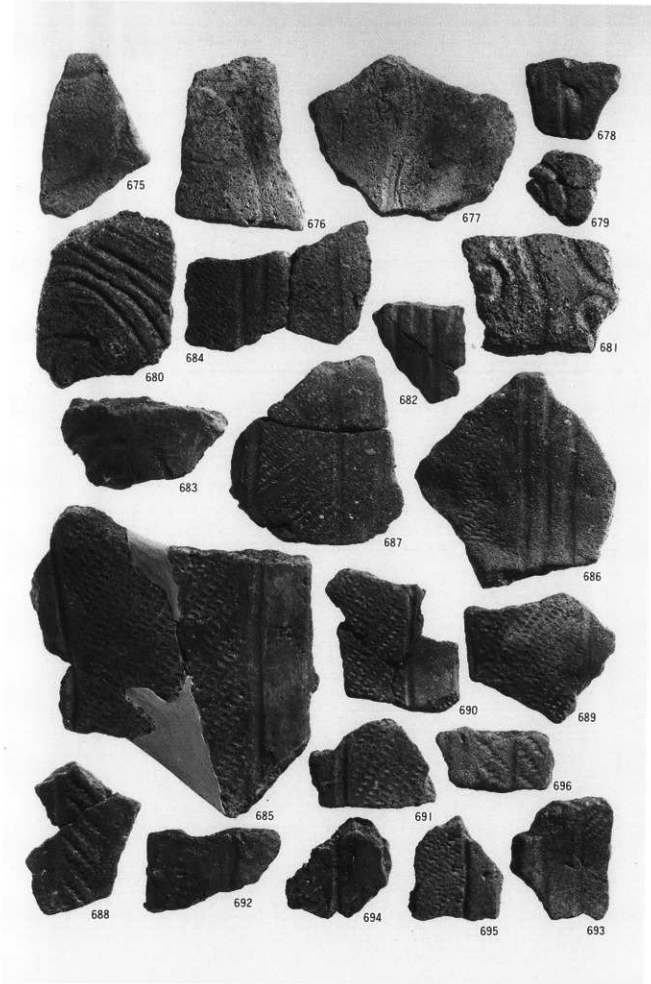
図版38　出土土器　(31)
実測図番号　626～649


626
627
628
630
631
629
633
632
634
635
636
638
637
640
639
641
643
642
646
648
644
647
649
645

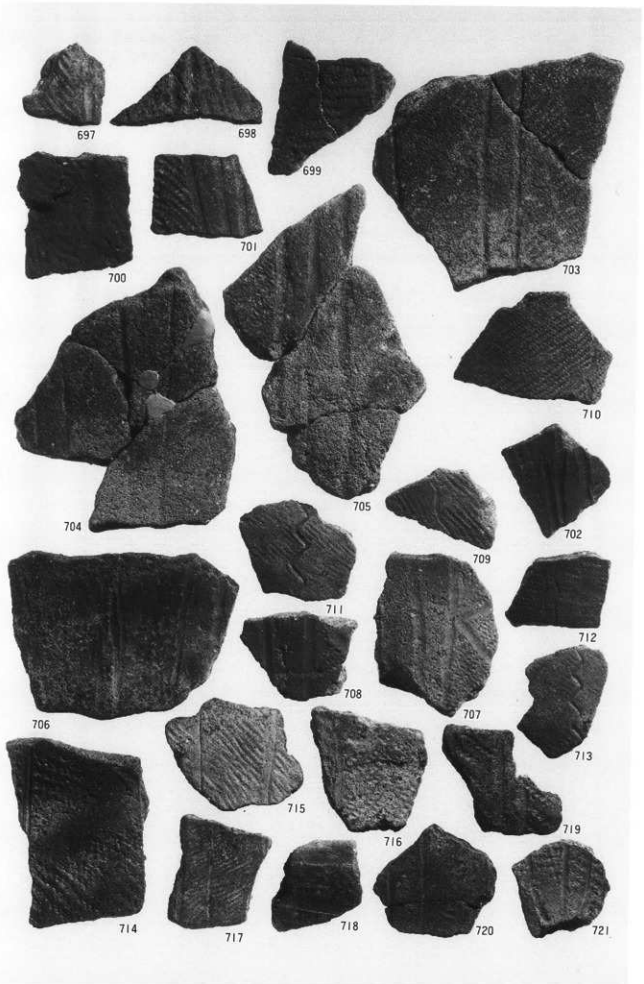
図版39　出土土器　(17)
実測図番号　650～674


650
651
652
655
653
657
656
654
661
658
660
673
663
659
664
662
665
665
667
669
666
670
668
672
671
674

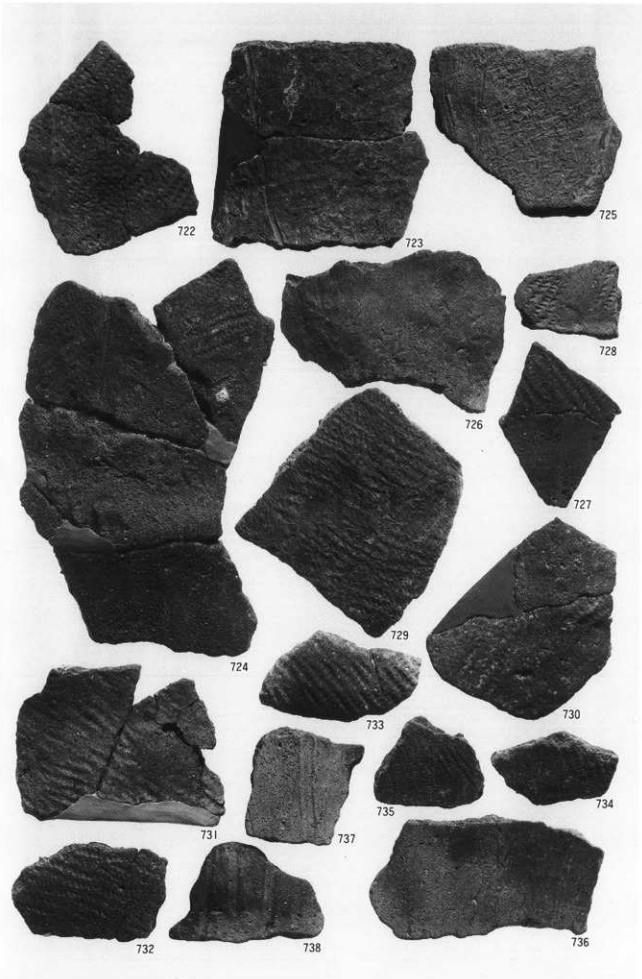
図版40　出土土器　(33)
実測図番号　675～696


675
676
677
678
679
680
684
682
681
683
687
686
690
689
685
691
696
688
692
694
695
693

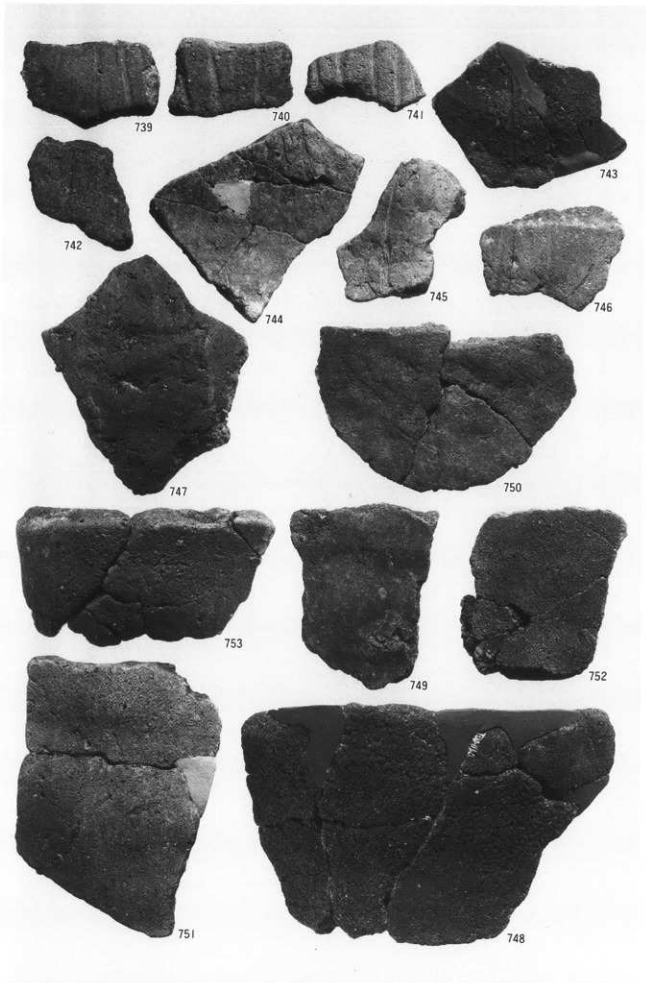
図版41　出土土器　(34)
実測図番号　697～721


697
698
699
700
701
703
704
705
710
702
709
711
712
706
708
707
713
715
716
719
714
717
718
720
721

図版42　出土土器　(35)
実測図番号　722～738


722
723
725
728
726
727
729
724
733
730
731
737
735
734
732
738
736

図版43　出土土器　㊱
実測図番号　739～753


739
740
741
743
742
744
745
746
747
750
753
749
752
751
748

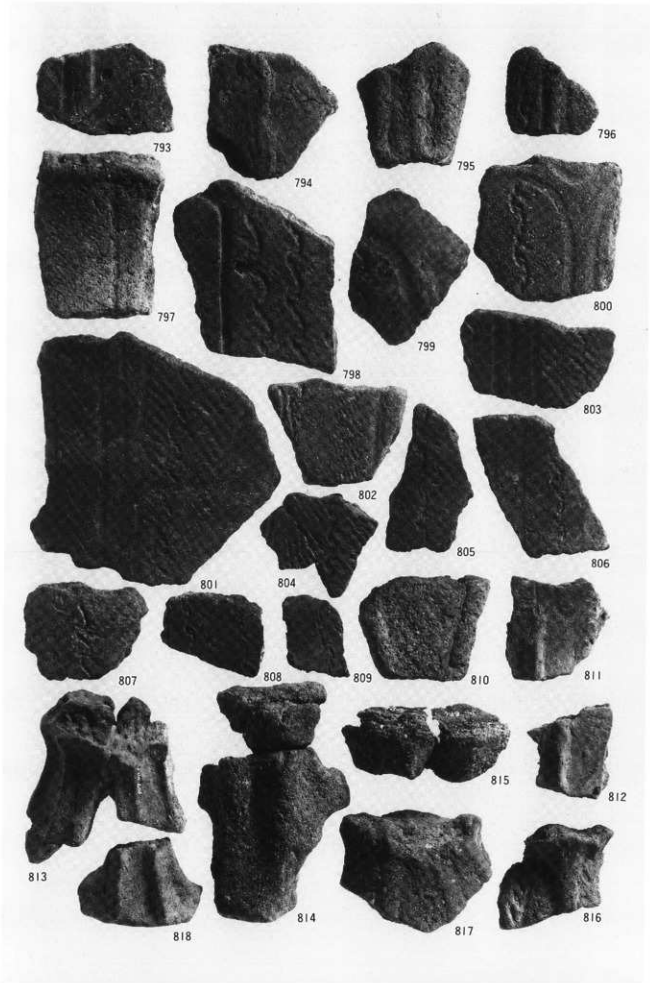
図版44　出土土器　(37)
実測図番号　754～757

754
760
761
756
762
755
758
763
765
767
757
759
764
759
766

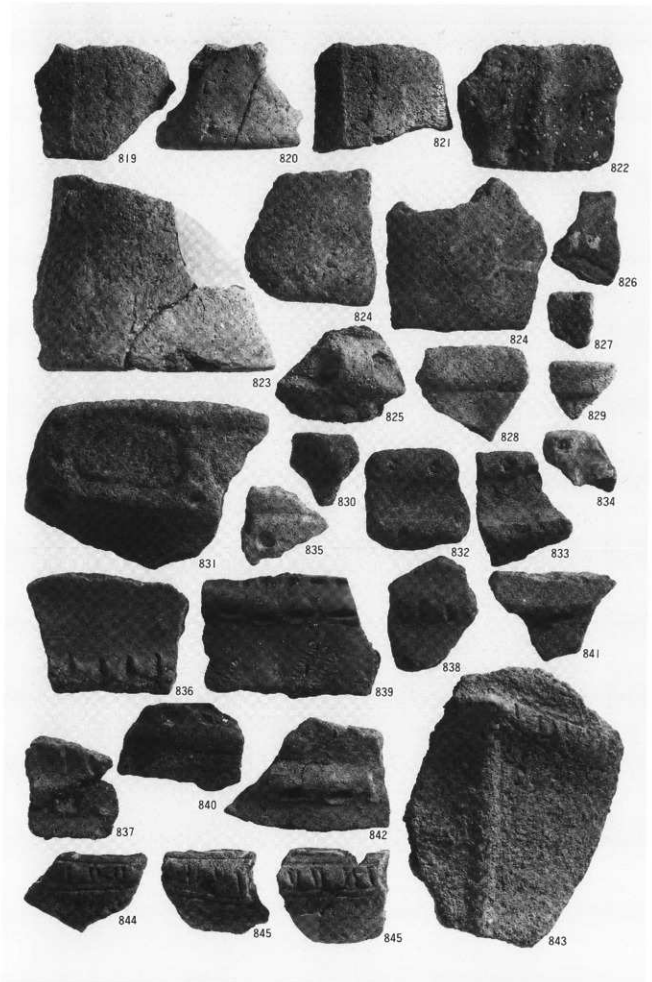
図版45　出土土器　㊳
実測図番号　768～792

768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792

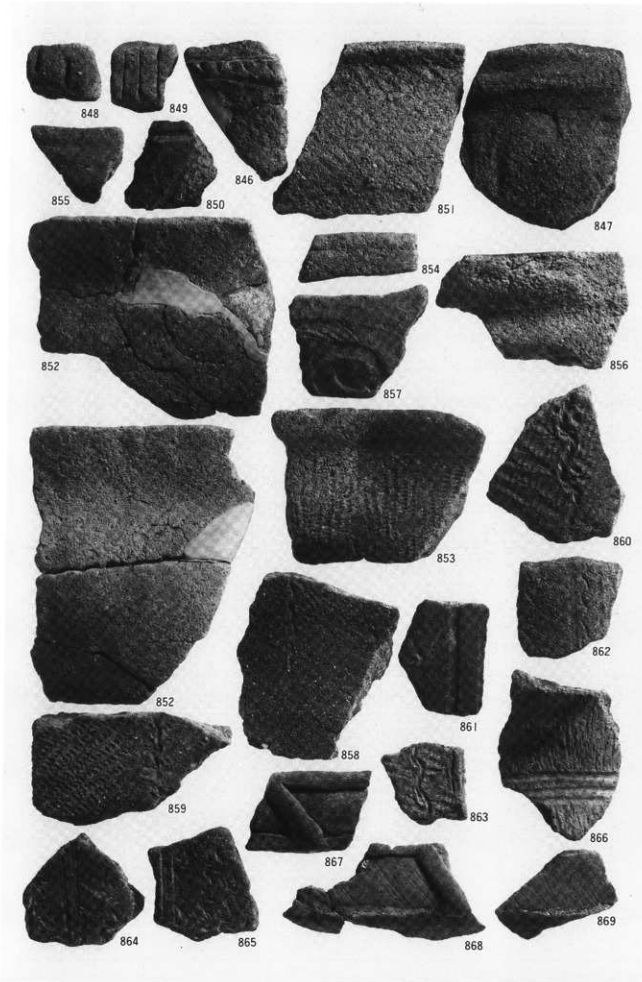
図版46　出土土器　(39)
実測図番号　793～818


793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818

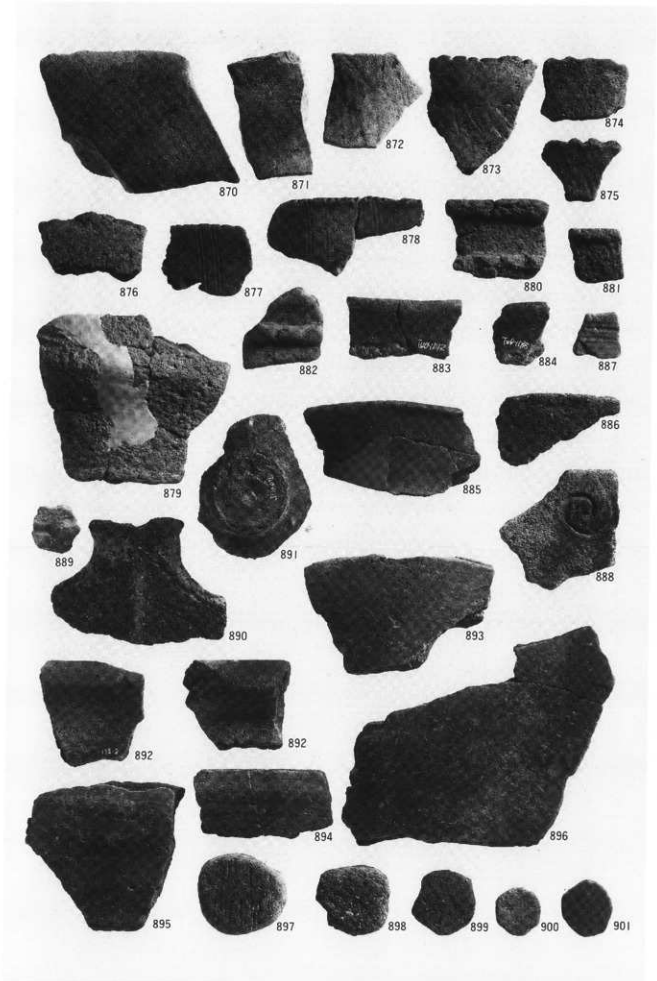
図版47　出土土器　(4)
実測図番号　819～845


819
820
821
822
823
824
824
826
827
825
828
829
830
831
832
833
834
835
836
838
839
841
837
840
842
843
844
845
845

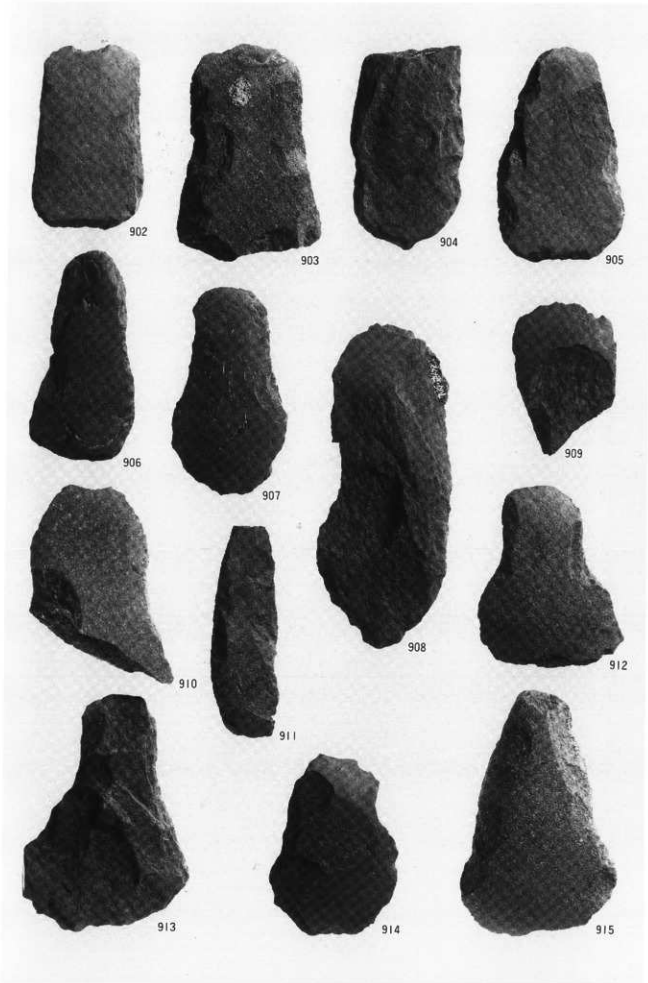
図版48　出土土器 (41)
実測図番号　846～869


848
849
846
855
850
851
847
852
854
856
857
852
853
860
862
858
861
859
863
866
867
864
865
868
869

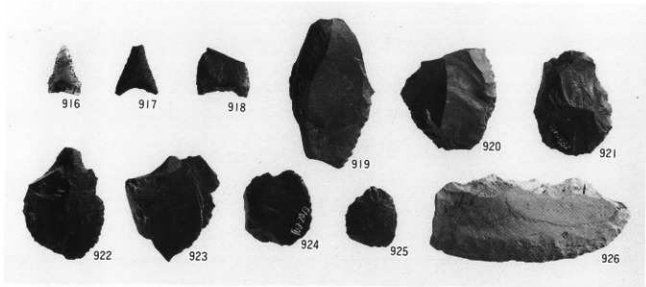
図版49　出土土器　(47)
実測図番号　870～901


870
871
872
873
874
875
876
877
878
880
881
882
883
884
887
879
885
886
889
891
888
890
893
892
892
894
896
895
897
898
899
900
901

図版50　出土石器　(1)
実測図番号　902～915


902
903
904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
914
915

図版51　出土石器　(2)
実測図番号　916～931


916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926

927
931
929
928
930

報告書抄録

ふりがな	うしおかいせき 2
書名	牛岡遺跡 II
副書名	平成6年度日坂バイパス埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第57集
編著者名	篠原修二・山内 文
編集機関	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒424 静岡県清水市江尻台町18－5 TEL 0543－67－1171
発行年月日	西暦1995年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
牛岡（うしおか）	静岡県（しずおかけん） 掛川市八坂（かけがわしやさか）	22213	—	34度 47分 22秒	138度 4分 42秒	19891002 ～ 19911220	900	国道一号日坂バイパス建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
牛岡	散布地	縄文時代 中期		縄文土器（早期末～中期末） 石器（打製石斧、磨製石斧、石鏃、スクレイパー、敲石、凹石、石皿、石棒） 流木	東遠江地方で中期後半の里木式系土器が多量に見つかった事例は少ない。

静岡県埋蔵文化財調査研究報告　第57集

牛岡遺跡II

平成6年度日坂バイパス
埋蔵文化財発掘調査報告書

1995年3月31日

発行所　財団法人
静岡県埋蔵文化財調査研究所
ＴＥＬ（0543）67－1171㈹

印刷所　黒船印刷株式会社
静岡市登呂二丁目4番25号
ＴＥＬ（054）286－0236㈹